

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 教養科目				人間探求科目		
講義名	[00012] 倫理学						
期 間	後期（15回）		単 位 数	選 択（2）		種 類	講義
対象学年	1年	2年	--	--			
担当者	桑名 法晃		クワナ ホウコウ		kuwana hoko		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
倫理学とはどのような学問であろうか。「日本倫理思想史」という視点から、現代を生きる私たちのよりよい生き方・あり方を考えるために、特に古代の「神をめぐる思想」から、中世の「仏法をめぐる思想」について概説します。							
【授業修了時の達成課題（到達目標）】							
日本の倫理思想史についての基礎知識を身につけ、現代日本人の行動の基礎にある価値観を理解することを目指します。また、日本倫理思想史を学ぶことを通して、現代における自分自身の生き方・あり方を考えるヒントとし、自ら主体的に考察していく力を習得することを、本授業の目標とします。							
【授業方法（フィードバックの内容）】							
倫理学とは何かについて概観し、本講義における視点を明確にした上で、日本の倫理思想史をたどり、日本人の倫理意識の形成を学んでいきます。講義によって授業を進めますが、学生の深い理解に資するよう積極的にICTを活用します。また受講生が自分自身の問題として主体的に授業に参加するようディスカッションなどを行います。							
【授業外学修の方法（時間数）】							
事前学修としては、参考書等に目を通し、疑問をもって授業にのぞむこと。事後学修は、授業の内容を踏まえ、その問題について自分なりに考えてみること。事前・事後学修は最低でも各120分は必要である。なお、詳細は授業中に指示します。							
【成績評価（方法・基準）】							
授業に取り組む姿勢40%、レポート60%で総合的に評価します。毎回授業後にリアクションペーパーを配付し、講義内容、意見・感想等を書いてもらいます。授業に取り組む姿勢は、このリアクションペーパーに基づいて評価します。							
【授業計画（各回の授業内容）】							
第1回	講義ガイダンス						
第2回	倫理学とは何か（1）倫理学と日本倫理思想史						
第3回	倫理学とは何か（2）なぜ日本倫理思想史を学ぶのか、倫理の重層性						
第4回	神をめぐる思想（1）風土と神						
第5回	神をめぐる思想（2）日本の神の特徴						
第6回	神をめぐる思想（3）神と景観、祭祀						
第7回	神をめぐる思想（4）日本神話の発生と展開						
第8回	神をめぐる思想（1）古事記神話 上巻神話の概要						
第9回	神をめぐる思想（1）古事記神話 上巻神話の世界観						
第10回	仏法をめぐる思想（1）インド・中国仏教						
第11回	仏法をめぐる思想（2）日本における仏教の受容、聖徳太子						
第12回	仏法をめぐる思想（3）国家仏教、本地垂迹説						
第13回	仏法をめぐる思想（4）修験道						
第14回	仏法をめぐる思想（5）鎌倉仏教						
第15回	全体のまとめ プレゼンテーション						
【教科書・参考書】							
教科書：特に指定しない。参考書：『日本倫理思想史 増補改訂版』佐藤正英著（東京大学出版会）2012年、『日本の思想とは何か：現存の倫理学』佐藤正英著（筑摩書房）2014年、『古事記神話を読む 神の女 神の子 の物語』佐藤正英著（青土社）2011年ほか。							
【学生へのメッセージ】							
受講生一人一人が自らの問題として捉え、自分自身の考えを形成することを望みます。授業では、毎回受講生に積極的に問いかけ、自分の考えを発言してもらいます。							
【オフィスアワー】							
火曜日第1時限目と木曜日第5時限目							
【実務経験】							
日蓮宗教師・宗教法人妙法寺副住職							

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	全専攻共通 教養科目				人間探求科目
講義名	[00016] 歴史学				
期 間	後期（15回）		単 位 数	選択（2）	
種類	講義				
対象学年	1年	2年	3年	4年	
担当者	望月 真澄		モチヅキ シンチョウ		mochizuki shincho
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
歴史学とはどういう学問なのかについて講義する。調べ学修や巡見を通じて歴史を体感してもらおう。歴史学は、過去の史料を評価・検証する過程を通して歴史の事実、及びそれらの関連を追究する学問であるので、歴史学を学ぶ意義を本授業で学修してもらいたい。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
歴史学とはどういう学問が修得し、調べ学修を行った日本史の時代や出来事等について理解できるようにする。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
講義形式を基本とするが、身延山という地域を歩く授業も取り入れることにする。日本史に関する調べ学修を行うので図書館に行って文献検索を行う時もある。アクティブラーニングを行うので、電子機器（ipad）を毎回持参すること。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修120分：授業内容について予め調べ学習を行い、わからない語句等は辞書で調べておくこと。 事後学修120分：授業でやった内容について復習し、わからない箇所は辞書等で調べておくこと。					
【成績評価（方法・基準）】					
期末レポート（50%）、授業に取り組む姿勢（50%）					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	歴史学とはどういう学問か				
第2回	史実と伝承				
第3回	日本史の時代区分				
第4回	史（資）料とは				
第5回	旧暦と新暦				
第6回	日本の元号（1）				
第7回	日本の元号（2）				
第8回	日本歴史に関する調べ学修（1）				
第9回	日本歴史に関する調べ学修（2）				
第10回	日本歴史に関する調べ学修（3）				
第11回	日本歴史に関する調べ学修（4）				
第12回	調べ学修についての発表				
第13回	歴史散策1				
第14回	歴史散策2				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
教科書：特になし。参考書：小田中直樹『歴史学ってなんだ？』PHP新書、2004年。					
【学生へのメッセージ】					
歴史について調べ学修を行うので、毎回ipadやノートパソコン等の電子機器を持参すること。					
【オフィスアワー】					
授業開始前、終了後に質問等を研究室、教室で受け付けます。					
【実務経験】					
高等学校教員、博物館学芸員として勤務経験がある。					

対象年度	学科・科目		分野	
令和2年度	全専攻共通 教養科目		総合科目	
講義名	[00032] 人間関係とコミュニケーション【平成30年度生まで】			
期 間	前期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類 講義
対象学年	1年	2年	--	--
担当者	中野 宏子		ナカノ ヒロコ	nakano hiroko
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】				
最近重要視される「コミュニケーション能力」とは何か、何を指してコミュニケーション能力というのか、幅広い領域にわたる「コミュニケーション」について、具体的な技術も含めて様々な角度から「コミュニケーション」について概説します。				
【授業修了時の達成課題（到達目標）】				
コミュニケーションを形成する上で必要な人間の関係性を理解し、人間関係、コミュニケーションの基礎的な知識について学習します。また、自分の言いたいことを他者に理解できるよう具体的に述べられる力を身に着けることを、本授業の目標とします。				
【授業方法（フィードバックの内容）】				
授業では、コミュニケーションについての学説を正確に理解できるよう講義すると同時に、それらを現実の自分の問題としてひきつけて、思考できるよう、「聴く、話す、書く」などの具体的な実践を通してコミュニケーション能力を培います。				
【授業外学修の方法（時間数）】				
事前の学習では、各回の講義内容についてシラバスに記載した参考書による事前学修を毎回2時間以上行うこと、事後の学修では、配布プリントの内容に基づき授業の復習を2時間以上行うことを望みます。				
【成績評価（方法・基準）】				
レポート（60%）、授業内テスト（20%）、授業参画度（20%）授業参画度は毎回のリアクションペーパーにより総合的に評価します。				
【授業計画（各回の授業内容）】				
第1回	人間関係と心理（自己覚知）			
第2回	人間関係と心理（他者理解）			
第3回	人間関係と心理（ラポール）			
第4回	対人関係とコミュニケーション（対人関係・コミュニケーションの意義）			
第5回	対人関係とコミュニケーション（対人関係・コミュニケーションの概要）			
第6回	コミュニケーションを促す環境			
第7回	コミュニケーションの技法（物理的対人距離・心理的距離）			
第8回	コミュニケーションの技法（言語的コミュニケーション・非言語コミュニケーション）			
第9回	コミュニケーションの技法（傾聴）			
第10回	コミュニケーションの技法（受容・共感）			
第11回	機器を用いたコミュニケーション（プレゼンテーション）			
第12回	記述によるコミュニケーション			
第13回	チームマネジメントとコミュニケーションの基本			
第14回	チームマネジメントを行う際のコミュニケーション技術			
第15回	まとめ・総括			
【教科書・参考書】				
教科書：なし プリントを配布する。参考書：『入門コミュニケーション論』宮原哲（松柏社）2006年、『グローバル社会のコミュニケーション学入門』藤巻光浩（ひつじ書房）2019年、『メディア・リテラシー』菅谷明子（岩波書店）2000年。				
【学生へのメッセージ】				
現代社会に求められる「コミュニケーション能力」を受講生一人一人が自らの問題として捉え、落ち着いて他者の意見を聴く、自信をもって自分の意見を述べられるようになることを望みます。毎回受講生に積極的に問いかけ、発言してもらいます。				
【オフィスアワー】				
火曜日10：30～12：00と水曜日1時限目（大学事務室を通じて予約してください）				
【実務経験】				
山梨県教育委員会スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーク4年での実務勤務を活かして、コミュニケーションの重要性を感じられる授業にしたいです。				

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 教養科目				総合科目		
講義名	[00033] 人間の尊厳と自立 法定科目						
期 間	後期（15回）		単 位 数	選 択（2）		種 類	講義
対象学年	1 年	2 年	--	--			
担当者	村瀬 正光		ムラセ マサミツ		murase masamitsu		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
人間の理解を基礎として、尊厳の保持と自立について理解し、介護福祉の倫理的課題への対応能力の基礎を養う学習とする。人間の尊厳と自立を理解する為、基本的人権の理念、人権侵害等の社会問題を通して学ぶ。介護における尊厳の保持・自立支援を理解するために、具体的な生活場面の事例を取り上げて学ぶ。人権思想・福祉理念の歴史の変遷を理解し、人間の尊厳・人権尊重及び権利擁護の考え方を養う内容とする。人間にとっての自立の意味と、本人主体の観点から、尊厳の保持や自己決定の考え方を理解する内容とする。							
【授業修了時の達成課題（到達目標）】							
介護を必要とする者に対する全人的な理解や尊厳の保持、介護実践の基盤となる教養、総合的な判断力及び豊かな人間性を涵養する。							
【授業方法（フィードバックの内容）】							
授業前半は、スライド等を使用し授業を進める。授業後半は、受講生と一緒に議論し、理解を深める。							
【授業外学修の方法（時間数）】							
この授業では、毎回それぞれ90分以上の事前・事後の学習を行うこと。							
【成績評価（方法・基準）】							
講義毎の予習と復習のレポート：100%							
【授業計画（各回の授業内容）】							
第1回	人間の多面的理解						
第2回	人間の尊厳と人権・福祉理念						
第3回	人間の尊厳 普遍的尊厳						
第4回	人間の尊厳 個別的尊厳・多様性						
第5回	自立の概念						
第6回	事例を通して「自立・自律」を考察						
第7回	事例を通して「自立・自律」を考察						
第8回	人権と尊厳 基本的人権						
第9回	権利擁護						
第10回	アドボカシー						
第11回	人権尊重						
第12回	スティグマ						
第13回	身体的な自立支援						
第14回	精神的な自立支援						
第15回	社会的な自立支援						
【教科書・参考書】							
『介護概論』三訂 介護福祉士養成講座 1 2 福祉士養成講座編集委員会（編） 中央法規							
【学生へのメッセージ】							
積極的に授業に参加するのを望む。							
【オフィスアワー】							
授業の前後に教室にて対応します。							
【実務経験】							
腎臓内科医							

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	全専攻共通 教養科目				総合科目
講義名	[00034] 山梨県と峡南地域				
期間	通年（15回）		単位数	選択（2）	種類 集中
対象学年	1年	2年	3年	4年	
担当者	望月 真澄		モチヅキ シンチョウ		mochizuki shincho
	林 是恭		ハヤシ ゼキョウ		hayashi zekyo
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
山梨県峡南地域の歴史と文化について学ぶために3回の巡見を行う。予め巡見場所に関する調べ学習を行い、予備知識を得た上で巡見を行う。自ら歩いて見学することにより、峡南地域の歴史と文化を体感する。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
峡南地域が山梨県の中でどういう地域か、理解することを到達目標とする。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
峡南地域の中でも、身延町、南部町、富士川町にスポットをあて、3回に分けて神社仏閣、史跡、文化・歴史施設等を巡見する。各回の巡見後にレポートを提出してもらう。また、「やまなし観光カレッジ」事業と連携しているので授業中に山梨県内のイベントに参加し、レポートを提出してもらう。毎回、1限は大学図書館で調べ学習を行い、それから巡見を行う。授業は集中講義で、6月6日、7月11日、10月24日の3回を予定している。諸般の事情によりこの日に授業ができない場合の予備日として11月21日、11月28日を設定する。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
3回それぞれの巡見のための各回ごとに事前学修10時間、事後学修10時間を行うこと。					
【成績評価（方法・基準）】					
巡見した際の授業態度（10%）、授業に取り組む姿勢（50%）、レポート点（40%）にて評価する。 「やまなし観光カレッジ」事業のレポート提出も評価の対象とする。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	授業の概要説明、1回目巡見場所の調べ学習				
第2回	巡見1回目				
第3回	巡見1回目				
第4回	巡見1回目				
第5回	巡見1回目				
第6回	2回目巡見場所の調べ学習				
第7回	巡見2回目				
第8回	巡見2回目				
第9回	巡見2回目				
第10回	巡見2回目				
第11回	3回目巡見場所の調べ学習				
第12回	巡見3回目				
第13回	巡見3回目				
第14回	巡見3回目				
第15回	巡見3回目				
【教科書・参考書】					
特になし。					
【学生へのメッセージ】					
大学コンソーシアムやまなし及びやまなし未来創造教育プログラム単位互換科目 3回の巡見には必ず出席すること。巡見場所、巡見日は、天候や訪問先の事情により変更することもある。巡見は基本的に学校のバスを利用するので交通費はかかりません。拝観料他が必要となる場合は予め受講者に連絡する。昼食は各自持参。バスで巡見するので受講人数に制限があります。開講日土曜日1限～5限となります。3回の開講日に注意してください。					
【オフィスアワー】					
授業内容等に関する質問があれば、3回の授業前後の時間に担当教員が対応する。毎回、1時間目に調べ学習を行うが、具体的な巡見場所を知りたい受講生は事前に担当教員に聞いてください。メール可 smochi(a)min.ac.jp					
【実務経験】					
望月真澄：峡南地域の博物館学芸員として勤務経験あり。 林是恭：身延山宝物館の学芸員として勤務。					

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	全専攻共通 教養科目				総合科目
講義名	[00035] 留学成果による単位認定				
期間	通年（1回）	単位数	選択（30）以下		種類 認定
対象学年	1年	2年	3年	4年	
担当者	学長				
	望月 海慧		モチヅキ カイエ		mochizuki kaie
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
交換留学生の単位を認定します。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
【授業外学修の方法（時間数）】					
【成績評価（方法・基準）】					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回					
【教科書・参考書】					
【学生へのメッセージ】					
【オフィスアワー】					
【実務経験】					
日蓮宗教師として35年間檀信徒に仏教を教授					

対象年度	学科・科目	分野
令和2年度	全専攻共通 教養科目	総合科目

講義名	[00037] サービスラーニング
-----	-------------------

期 間	前期（15回）	単 位 数	選択（1）	種 類	演習
-----	---------	-------	-------	-----	----

対象学年	--	2年	3年	4年
------	----	----	----	----

担当者	池上 要靖	イケガミ ヨウセイ	ikegami yosei
-----	-------	-----------	---------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

社会貢献活動となる活動を主題として、地域の課題について、それを体験し、まとめて整理して、内容を明かに認識して、解決に向けての方策を考え事前に試用し、改善を加えて、再実行できるプロセスが踏めるような授業構成とする。

キーワード：社会貢献、地域貢献、課題解決、PDCAサイクル

【授業修了時の達成課題（到達目標）】

大学内で学んだ知識や技術を活かして、地域社会に存在するさまざまな課題を解決するために組織的に社会的活動を行うことを通して、社会的役割や市民としての責任を感じ取ってもらうことを目的とする。学生はPDCAサイクルを理解して、その活用方法を学び、実際に運用し、課題解決の方法として実践できる力を成果とする

【授業方法（フィードバックの内容）】

峡南圏域で行われている地域活動を30時間以上行い、地域の課題を明確にする。地域活動とは、認知症カフェ、高齢者いきいきサロン活動、小中学校出張授業、子育て支援イベントの企画・運営、地域行事への参加、イベント参加や協働、ボランティア活動等のことをいう。

【授業外学修の方法（時間数）】

地域活動を実施する前に、4時間以上の事前学習を実施し、活動目的や活動内容等の計画書を作成する。実施後は活動の振り返りを行い、6時間以上の事後学習を実施し、活動報告を文章化・言語化して行う。

【成績評価（方法・基準）】

事前学習での活動計画書の内容（10%）計画と活動報告が一致しているか（20%）、活動報告の内容（報告書30%とプレゼンテーション40%）で評価を行う。単位の換算上、5日以上参加しなければ単位を認定できません。

【授業計画（各回の授業内容）】

第1回	オリエンテーション：サービスラーニングとは？
第2回	活動計画の構成と計画書の作成
第3回	活動前の事前準備（事業者との面談と打ち合わせ）
第4回	地域活動
第5回	地域活動
第6回	地域活動
第7回	地域活動
第8回	地域活動
第9回	地域活動
第10回	地域活動
第11回	地域活動
第12回	活動報告書の作成と地域課題の掘り起こし
第13回	地域課題に対する解決案の作成と修正
第14回	解決案の事業者への提案
第15回	事後報告会と全体の振り返り

【教科書・参考書】

「ボランティア論」川村匡由編著（ミネルヴァ書房）2006年。

【学生へのメッセージ】

大学コンソーシアムやまなし及びやまなし未来創造教育プログラム単位互換科目
ボランティアとは、「助ける」と「助けられる」ことが融合した、魅力にあふれた活動である。ボランティア活動に、参加することは自分の成長にとっても得るものが多い。積極的に活動することを期待する。単位の換算上、5日以上参加しなければ単位を認定できません。

【オフィスアワー】

火曜日 4 時限目、金曜日 4・5 時限目。質問はメールでも可（ikegami(a)min.ac.jp）。

【実務経験】

元身延町教育委員

対象年度	学科・科目	分野
令和2年度	全専攻共通 教養科目	総合科目

講義名	[00039] サービスラーニング
-----	-------------------

期 間	後期（15回）	単 位 数	選択（1）	種 類	演習
-----	---------	-------	-------	-----	----

対象学年	--	2年	3年	4年
------	----	----	----	----

担当者	池上 要靖	イケガミ ヨウセイ	ikegami yosei
-----	-------	-----------	---------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

社会貢献活動となる活動を主題として、地域の課題について、それを体験し、まとめて整理して、内容を明かに認識して、解決に向けての方策を考え事前に試用し、改善を加えて、再実行できるプロセスが踏めるような授業構成とする。サービスラーニングとの継続でも可であるが、なるべくならば他社、他所での異なる体験を積むことを良とする。
キーワード：社会貢献、地域貢献、課題解決、PDCAサイクル

【授業修了時の達成課題（到達目標）】

大学内で学んだ知識や技術を活かして、地域社会に存在するさまざまな課題を解決するために組織的に社会的活動を行うことを通して、社会的役割や市民としての責任を自覚できることを目標とする。学生はPDCAサイクルを理解して、その活用方法を学び、実際に運用し、課題解決の方法を実践できる力を成果とする。

【授業方法（フィードバックの内容）】

峡南圏域で行われている地域活動を30時間以上行い、地域課題への解決を図る活動を行っていく。地域活動とは、認知症カフェ、高齢者いきいきサロン活動、小中学校出張授業、子育て支援イベントの企画・運営、地域行事への参加、イベント参加や協働、ボランティア活動等のことをいう。

【授業外学修の方法（時間数）】

地域活動を実施する前に、4時間以上の事前学習を実施し、活動目的や活動内容等の計画書を作成する。実施後は活動の振り返りを行い、6時間以上の事後学習を実施し、活動報告を文章化・言語化する。

【成績評価（方法・基準）】

事前学習での活動計画書の内容（10%）計画と活動報告が一致しているか（20%）、活動報告の内容（報告書30%とプレゼンテーション40%）で評価を行う。

【授業計画（各回の授業内容）】

第1回	サービスラーニング の成果を踏まえた活動計画立案
第2回	活動計画書の具体的な作成
第3回	地域活動
第4回	地域活動
第5回	地域活動
第6回	地域活動
第7回	地域活動
第8回	地域活動
第9回	地域活動
第10回	地域活動
第11回	地域活動
第12回	地域活動
第13回	事後の振り返り、報告書作成
第14回	事後報告会
第15回	事後報告会と全体の振り返り

【教科書・参考書】

「ボランティア論」川村匡由編著（ミネルヴァ書房）2006年。

【学生へのメッセージ】

大学コンソーシアムやまなし及びやまなし未来創造教育プログラム単位互換科目
受け身ではなく、自らが体験してそれを振り返り、文章や言葉として他者に伝えていくことをとおして学びを深めて欲しい。「我がまち」という意識を持ち、活動をおして地域の課題を明確にする意識を持って欲しい。

【オフィスアワー】

火曜日 4 時限目、金曜日 4・5 時限目。質問はメールでも可（ikegami(a)min.ac.jp）。

【実務経験】

宗教法人智寂坊代表役員、保護司、元教育委員

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	全専攻共通 教養科目		総合科目		
講義名	[00044] 人間関係とコミュニケーションの基礎【平成31年度生より】 法定科目				
期 間	前期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類	講義
対象学年	1年	2年	--	--	
担当者	中野 宏子	ナカノ ヒロコ		nakano hiroko	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
<p>(1) 対人援助に必要な人間の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得する学習とする。 (2) 介護の質を高めるために必要な、チームマネジメントの基礎的な知識を理解し、チームで働くための能力を養う学習とする。 人間関係の形成が、介護実践にとっての出発点であり基本的課題であることを、自己覚知や他者理解、コミュニケーション技術を通して学習する。</p>					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
利用者に対して、あるいは多職種協働で進めるチームマネジメントにおいて、円滑なコミュニケーションをとるための基礎的なコミュニケーション能力を養う。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
授業では、コミュニケーションについての学説を正確に理解するよう講義すると同時に、それらを現実の自分の問題としてひきつけて、思考できるよう、「聴く、話す、書く」などの具体的な実践を通してコミュニケーション能力を培います。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前の学習では、各回の講義内容についてシラバスに記載した参考書による事前学修を毎回2時間以上行うこと、事後の学修では、配布プリントの内容に基づき授業の復習を2時間以上行うことを望みます。					
【成績評価（方法・基準）】					
学力確認テスト、リアクションペーパー、授業への取り組み姿勢等を総合的に評価する。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	人間関係と心理（自己覚知）				
第2回	人間関係と心理（他者理解）				
第3回	人間関係と心理（ラポール）				
第4回	対人関係とコミュニケーション（対人関係・コミュニケーションの意義）				
第5回	対人関係とコミュニケーション（対人関係・コミュニケーションの概要）				
第6回	コミュニケーションを促す環境				
第7回	コミュニケーションの技法（物理的対人距離・心理的距離）				
第8回	コミュニケーション（言語的コミュニケーション・非言語コミュニケーション）				
第9回	コミュニケーションの技法（傾聴）				
第10回	コミュニケーションの技法（受容・共感）				
第11回	機器を用いたコミュニケーション				
第12回	記述によるコミュニケーション				
第13回	チームマネジメントとコミュニケーションの基本				
第14回	チームマネジメントを行う際のコミュニケーション技術				
第15回	まとめ・総括				
【教科書・参考書】					
『教科書：なし プリントを配布する。参考書：『入門コミュニケーション論』宮原哲（松柏社）2006年、『グローバル社会のコミュニケーション学入門』藤巻光浩（ひつじ書房）2019年、『メディア・リテラシー』菅谷明子（岩波書店）2000年。					
【学生へのメッセージ】					
現代社会に求められる「コミュニケーション能力」を受講生一人一人が自らの問題として捉え、落ち着いて他者の意見を聴く、自信をもって自分の意見を述べられるようになることを望みます。毎回受講生に積極的に問いかけ、発言してもらいます。					
【オフィスアワー】					
火曜日10：30～12：00と水曜日1時限目（大学事務室を通じて予約してください）					
【実務経験】					
山梨県教育委員会スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーク4年での実務勤務を活かして、コミュニケーションの重要性を感じられる授業にしたいです。					

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	全専攻共通 教養科目				総合科目
講義名	[00045] 身延町の福祉文化				
期 間	前期（15回）	単 位 数	選択（2）		種 類
対象学年	--	2 年	3 年	4 年	
担当者	池上 要靖		イケガミ ヨウセイ		ikegami yosei
	高橋 賢充		タカハシ マサミツ		takahashi masamitsu
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
2020年度は講義と演習、そして学外において聞き取り調査を行い、地域文化と福祉の関わり、地域課題と福祉のあり方などにへの理解を深め、地域課題を解決するための基礎スキルの習得をおこなう。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
われわれが暮らしている「地域」ある福祉の多様性を理解し、豊かな「暮らし」を障がいのあるなしに関わらずすべての人々が享受できる社会形成に向けて、現在の「地域」にある福祉文化を概観し、その実像を把握できるようになることを目的の第一とする。インターネット上から得られる情報をプロジェクターを用いてプレゼンテーションができるようになることや、実際の現場から得られた情報を、先の情報と照らし合わせて適切に加工し、他者に伝えられようようになることが目的の第二である。そして、それらの情報から導かれる課題を解決する具体案を作成できるようになることが目的の第三である。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
大学図書館、地域図書館などの資料を活用して、地域の歴史の中にある福祉文化を探索する。大学を離れて地域に出かけて実際の現場を見て、感じて、その意味を知り、地域の課題解決に向けた具体的な提言案を作成する。講義形式と自己学習型の演習形式、そして実験的な観察形式によるPBL型の授業となる。特に11回～15回の授業では、外部に赴き、「超高齢化社会のまちづくり」を基本コンセプトとしてPBL型の授業を行う。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
講義形式：事前に指定された事項の理解に120分、事後には全体の復習と与えられた課題をまとめることに120分程度が必要となる。 演習形式：得られた情報加工をするために、事前に120分、事後には120分程度は必要となる。実践形式：実際の現場に出て情報を収集することに120分、得られた情報を整理加工することに120分までが事前学修、事後はプレゼンテーションの不具合の訂正や修正に150分程度は必要となる。					
【成績評価（方法・基準）】					
講義形式30%（プレゼンテーション20%、講義中の取り組みに10%）、演習形式ではプレゼンテーション発表に20%とその取り組みに10%、実践形式では、講義形式と演習形式の基礎を踏まえているかどうかにかどうかに20%、最終のプレゼンテーションに20%、その取り組みに10%となる。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	オリエンテーション、福祉と文化の関係とその範囲				
第2回	身延町を理解しよう				
第3回	身延町の福祉実践と民間の活動				
第4回	資料からみることができる身延町の福祉（1）				
第5回	資料からみることができる身延町の福祉（2）				
第6回	プレゼンテーション（1）				
第7回	地域図書案の活用（地域情報の入手と加工）				
第8回	地域図書館の活用（情報加工技術）（1）				
第9回	地域図書館の活用（情報加工技術）（2）				
第10回	プレゼンテーション（2）				
第11回	福祉に関する地域課題の検出（PBL型）アンケート項目の設定				
第12回	地域課題解決に向けての方策検討（PBL型）アンケート内容の検証				
第13回	地域課題解決具体案の作成（PBL型）				
第14回	地域課題解決具体案の作成（PBL型）				
第15回	身延町の福祉文化の多様性理解と問題解決策のプレゼンテーション（3）				
【教科書・参考書】					
教科書は特にない。授業において適宜に紹介する。参考書も授業において紹介する。					
【学生へのメッセージ】					
大学コンソーシアムやまなし及びやまなし未来創造教育プログラム単位互換科目 「福祉文化」という聞き慣れない言葉であるが、欠席することなく履修していただきたい。履修した学生で質問をお持ちの方は、ikegami(a)min.ac.jpまで、メールにて質問するようにしてください。					

【オフィスアワー】

池上要靖：火曜日4時限目、金曜日4・5時限目。

高橋賢充：火曜日8:50～10:20 水曜日10:25～11:55

【実務経験】

池上要靖：保護司、宗教法人智寂坊代表役員、元教育委員

高橋賢充：社会福祉士資格・精神保健福祉士資格・北海道社会福祉協議会・札幌市麻生総合センター館長・厚真町地域包括支援センター社会福祉士

対象年度	学科・科目	分野
令和2年度	全専攻共通 専門基礎科目	専門基礎科目

講義名	[00508] 仏教福祉学概論				
-----	-----------------	--	--	--	--

期 間	前期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類	講義
-----	---------	-------	-------	-----	----

対象学年	1年	2年	--	--
------	----	----	----	----

担当者	池上 要靖	イケガミ ヨウセイ	ikegami yosei
-----	-------	-----------	---------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

仏教と社会福祉の関係を、仏教発祥の地インドから概観して、現代の社会福祉の問題点を、仏教的活動からどのように理解できるかを考察する。また、仏教は、自己と他者との関係について、特に優れた思想を有している。この思想を社会福祉学の観点から捉えなおし、現代的エートスに置き換えることが可能かどうかを考察する。

【授業修了時の達成課題（到達目標）】

本学の教育の三本柱の一つである社会貢献を実現してゆくために、現代の福祉社会に有益な思想体系として再構築されたものを仏教福祉学と位置づけて、その概要を把握することを目的とする。そのため、仏教思想に裏付けられた福祉ワークの重要性を理解し、現代の社会福祉へどのようなアプローチが可能かについて、立案し自ら主体的に考えられるようになることを目標とする。

【授業方法（フィードバックの内容）】

テキストにそって、プロジェクターなどを用いて、解説を加える講義形式である。必要な資料は、予め本学HP上にあるファイルキャビネットに収納してあるので、そこからダウンロードすること。講義中には、専門用語に関する質問や、課題を出すので、検索用使用するタブレットは必携である。

【授業外学修の方法（時間数）】

事前学修について：第2回目以降の講義の最後に次回講義の内容をテキストページで指定する。また、必要に応じて資料や事例をファイルキャビネット（初回に説明）から各自ダウンロードして参照すること。約2時間を要する。事後学修について：講義中のノート整理や、難語理解のための調べ学修などに約2時間を要する。

【成績評価（方法・基準）】

最終確認テスト50%、授業中の取り組み30%、中間レポート10%、ノート提出10%。授業中の取り組みの基準は、テキストの当該箇所の理解と、質問、授業中の積極的な姿勢により判断する。中間レポートの内容は、テキスト・資料の理解が深まっているかを判断する。ノート提出は、事前事後の学修成果も含んだ講義内容についてまとめたものを、最終回の講義終了1週間以内に提出してもらう。

【授業計画（各回の授業内容）】

第1回	オリエンテーション - 授業の進め方とテキストと資料の紹介 -
第2回	仏教社会福祉とは何か？(テキストpp.9-31)
第3回	仏陀の教え - 自己と他者、四無量心、四正勤、福田思想 - (テキストpp.109-118)
第4回	大乘仏教の思想と社会福祉 - 菩薩、縁起、回向、平等、報恩、救済 - (テキストpp.109-118)
第5回	仏教社会福祉のあゆみ(1) - 先人の偉業 - (テキストpp.35-43)
第6回	仏教社会福祉のあゆみ(2) - 近代～戦後 - (テキストpp.44-64)
第7回	仏教社会福祉の支援(1) - 生活弱者支援 - (テキストpp.67 73、101-106)
第8回	仏教社会福祉の支援(2) - 高齢者支援 - (テキストpp.80-88、130-137)
第9回	仏教社会福祉の支援(3) - 子育て支援 - (テキスト pp.74-79、140-148)
第10回	仏教社会福祉の支援(4) - 地域福祉 - (テキストpp.95-100)
第11回	仏教社会福祉の支援(5) - 看取りのケア - (テキストpp.89-94)
第12回	仏教社会福祉の支援(6) - 司法福祉 - (テキストpp.159-169)
第13回	仏教社会福祉の支援(7) - 障害者福祉 - (テキストpp.149-158)
第14回	仏教社会福祉の有効性(テキストpp.119 128、170-189)
第15回	まとめと評価

【教科書・参考書】

教科書：『仏教社会福祉入門』日本仏教社会福祉学会編（法蔵館）。辞書では、『仏教社会福祉辞典』仏教社会福祉学会編(法蔵館)が唯一である。参考書は、『吉田久一著作集』全7巻(川島書店)、『佛教福祉研究』水谷正行先生古希記念会編(思文閣出版)、『仏教福祉の思想と展開に関する研究』清水海隆著(大東出版社)、『佛教と福祉の研究』龍谷大学短期大学部編(永田文昌堂)、『仏教社会福祉論考』中垣昌実著(法蔵館)、仏教とビハーラ運動』田代俊孝著(法蔵館)、季刊『佛教』第51号 - 介護と佛教福祉 -、など多数あるので詳細はオリエンテーション時に紹介する。

【学生へのメッセージ】

大学コンソーシアムやまなし単位互換科目
2年次以降の受講を希望する。ある程度専門的な用語の理解ができなければ、授業の進展についてくるのが困難であると考えられる。ゆえに、法学、日本国憲法、仏教学入門、倫理学、日蓮学入門の各科目の単位取得後の履修が望ましい。そして欠席しないこと、特に福祉に携わる人の基本は他者の言葉を傾聴できるかどうかにある。

【オフィスアワー】

火曜日 4 時限目、金曜日 4・5 時限目。質問はメールでも可 (ikegami(a)min.ac.jp)。

【実務経験】

宗教法人智寂坊代表役員、保護司、元教育委員、身延町ふるさと創生委員

対象年度	学科・科目				分野	
令和2年度	全専攻共通 専門基礎科目				専門基礎科目	
講義名	[00509] デス・エデュケーション					
期 間	後期（15回）		単 位 数	選 択（2）		種 類 講 義
対象学年	1 年	2 年	3 年	4 年		
担当者	村瀬 正光		ムラセ マサミツ		murase masamitsu	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】						
現代における生老病死の諸問題を解説し、様々な視点から「いのち」について考える力を養うことを目的とする。生殖医療・再生医療、終末期医療など生老病死の諸問題に関して概要を解説し、具体的な事例と一緒に議論する。医療現場における宗教・宗教家の意義を、実際の活動などを通して解説する。						
【授業修了時の達成課題（到達目標）】						
生老病死の諸問題を、自分の言葉で説明できるようになること。						
【授業方法（フィードバックの内容）】						
授業前半は、スライド等を使用し授業を進める。授業後半は、受講生と一緒に議論し、理解を深める。						
【授業外学修の方法（時間数）】						
この授業では、毎回それぞれ90分以上の事前・事後の学習を行うこと。						
【成績評価（方法・基準）】						
講義毎のレポート100%						
【授業計画（各回の授業内容）】						
第1回	オリエンテーション（授業の進め方、自己紹介など）					
第2回	宗教とは（岸本英夫著『宗教学』を中心に）					
第3回	倫理学（自由主義の原則）					
第4回	生殖医療の現状 1					
第5回	生殖医療の現状 2					
第6回	終末期医療の現状 1					
第7回	終末期医療の現状 2					
第8回	臨死体験のワーク					
第9回	日蓮聖人の終末期					
第10回	精神疾患について（自死、自殺）					
第11回	グリーンワーク					
第12回	傾聴					
第13回	終活、事前指示					
第14回	医療現場における宗教者					
第15回	ビハラーについて（長岡西病院ビハラー病棟）					
【教科書・参考書】						
授業中に適宜、資料を配付する。参考図書：『宗教学』岸本英夫著・原書房、『生物と無生物のあいだ』福岡伸一著・講談社現代新書、『死ぬ瞬間』キューブラー・ロス著・中公文庫、『死とどう向き合うか』アルフォンス・デーケン著・NHK出版、『定本 ホスピス・緩和ケア』柏木哲夫著・青海社、『病院で死ぬということ』山崎章郎著・文春文庫						
【学生へのメッセージ】						
積極的に授業に参加することを望む。						
【オフィスアワー】						
授業の前後に教室にて対応します。						
【実務経験】						
腎臓内科医						

対象年度	学科・科目				分野	
令和2年度	全専攻共通 専門基礎科目				専門基礎科目	
講義名	[00510] 総合仏教					
期間	通年（1回）		単位数	必修（2）		種類 講義
対象学年	1年	2年	3年	4年		
担当者	学務委員長					
	池上 要靖		イケガミ ヨウセイ		ikegami yosei	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】						
「建学の精神」を具体的に理解し、体感するために設けられた授業である。そのために、毎年度行われる公開の学園講座を聴講し、その意味するところをレポートし、資質向上に供するのである。						
【授業修了時の達成課題（到達目標）】						
この授業では、身延山大学の建学の精神を学修し、その理解と受容を促すことを目的としている。そのため、学生諸君には、下記に示す法要参列や、学園講座を聴講して、その内容を把握していただき、身延山大学生として資質向上と、社会貢献できる人材となることを目的とする。						
【授業方法（フィードバックの内容）】						
単年度に行われる三大会と法難会への参列、学園講座と公開講演会の聴講を出席し、レポートを作成、提出することが課せられる。						
【授業外学修の方法（時間数）】						
三大会などは、その意義を事前によく学習すること（120分以上）。学園講座や公開講演会は事後の振り返り学習に120分以上、その後のレポート作成に120分以上が必要である。						
【成績評価（方法・基準）】						
単年度に行われる計5回の学園講座と公開講演会、本山法要への出席を、4年間で12回以上の聴講を義務とする。その都度、レポートを提出する。その評価がレポート1回につき10%、12回提出のレポート点数の合計を12で除した数値、いわゆる平均点（80%）に理解度の深化点（20%）を加えて評価する。						
【授業計画（各回の授業内容）】						
第1回	上記の評価の方法及び基準に従うこと。					
【教科書・参考書】						
特になし。						
【学生へのメッセージ】						
生きた授業である。演者は必ずしも教員ではないので、細分もらさずに聴講すること。 年度末に、その年度に何度（何回）出席したか各自で確認すること。						
【オフィスアワー】						
火曜日4時限目、金曜日4・5時限目。質問はメールでも可（ikegami(a)min.ac.jp）。						
【実務経験】						
宗教法人智寂坊代表役員						

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 専門基礎科目				専門基礎科目		
講義名	[00512] 社会福祉概論 法定科目						
期 間	前期（15回）		単 位 数	選択（2）		種 類	講義
対象学年	1年	2年	--	--			
担当者	高橋 賢充		タカハシ マサミツ		takahashi masamitsu		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。福祉政策におけるニーズと資源について理解する。福祉政策の課題について理解する。							
【授業修了時の達成課題（到達目標）】							
相談援助活動の背景について理解する。							
【授業方法（フィードバックの内容）】							
社会福祉と歴史的展開をふまえて理解できるように制度論にもふれながら、基礎的知識を学習する。個人ワーク、アクティブラーニングを取り入れた授業を行う。授業終了後、リアクションペーパーを提出し、授業内容について自らの考察を深める。							
【授業外学修の方法（時間数）】							
事前課題～毎回の授業で出される課題を行う（120分～）。事後課題～授業の要点をリアクションペーパーにまとめて提出する（120分～）。							
【成績評価（方法・基準）】							
試験（50％）、レポート・リアクションペーパー（30％）、学習態度（20％）などを総合的に評価。							
【授業計画（各回の授業内容）】							
第1回	現代社会における福祉制度と福祉政策 (1)福祉制度の概念と理念						
第2回	(2)福祉政策の概念と理念						
第3回	(3)福祉制度と福祉政策の関係						
第4回	(4)社会と生活のしくみ						
第5回	福祉制度の発達過程 (1)前近代社会と福祉						
第6回	(2)戦後の社会福祉						
第7回	(3)社会福祉基礎構造改革と社会福祉の変遷						
第8回	(4)地域包括ケアシステムと地域共生社会						
第9回	福祉政策におけるニーズと資源 (1)需要とニーズの概念						
第10回	(2)資源の概念						
第11回	(3)資源の概念						
第12回	(1)福祉政策と社会問題						
第13回	(2)福祉政策と社会問題						
第14回	(3)福祉政策の現代的課						
第15回	(4)福祉政策の課題と国際動向						
【教科書・参考書】							
中央法規出版 社会福祉士養成講座 「現代社会と福祉」第4版。授業中に適宜プリントを配布する。							
【学生へのメッセージ】							
社会福祉の中でもっとも基本となる科目。制度体系から臨床にいたる内容をしっかり学ぶことが大切になる。人々の生活や地域・社会について興味関心・問題意識を持っている学生の積極的参加を期待する。							
【オフィスアワー】							
火曜日 1 限目と水曜日 2 限目。e-mail : ttaka@min.ac.jp、メール等で予約してください。							
【実務経験】							
社会福祉士、社会福祉協議会・老人福祉センター等福祉行政機関等での実務							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 専門基礎科目				専門基礎科目		
講義名	[00513] 社会福祉概論 法定科目						
期 間	後期（15回）		単 位 数	選択（2）		種 類	講義
対象学年	1年	2年	--	--			
担当者	高橋 賢充		タカハシ マサミツ		takahashi masamitsu		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
福祉政策の構成要素について理解する。福祉政策と関連政策の関係について理解する。							
【授業修了時の達成課題（到達目標）】							
相談援助活動と福祉政策の関係について理解する。							
【授業方法（フィードバックの内容）】							
社会福祉と歴史的展開をふまえて理解できるように制度論にもふれながら、基礎的知識を学習する。個人ワーク、アクティブラーニングを取り入れた授業を行う。授業終了後、リアクションペーパーを提出し、授業内容について自らの考察を深める。							
【授業外学修の方法（時間数）】							
事前課題：毎回の授業で出される課題を行う（120分～）。事後課題：授業の要点をリアクションペーパーにまとめて提出する（120分～）。							
【成績評価（方法・基準）】							
試験（50%）、レポート・リアクションペーパー（30%）、学習態度（20%）を総合的に評価。							
【授業計画（各回の授業内容）】							
第1回	福祉政策の構成要素 (1)福祉政策の論点						
第2回	(2)福祉政策の論点						
第3回	(3)福祉政策の論点						
第4回	福祉政策における政府の役割						
第5回	福祉政策における市場の役割						
第6回	福祉政策における国民の役割						
第7回	福祉供給部門 (1)政府部門、民間部門						
第8回	(2)ボランティア部門、インフォーマル部門、その他						
第9回	福祉供給過程						
第10回	福祉利用過程 (1)スティグマ、情報の非対称性						
第11回	(2)受給資格とシティズンシップ、その他						
第12回	福祉政策と関連政策 (1)福祉政策と教育政策						
第13回	(2)福祉政策と住宅政策						
第14回	(3)福祉政策と労働政策						
第15回	相談援助活動と福祉政策の関係 - 福祉供給の政策過程と実施過程						
【教科書・参考書】							
『新・社会福祉士養成講座1 現代社会と福祉（第4版）』福祉士養成講座編集委員会（編）中央法規出版 2015年。資料は適宜配布する。							
【学生へのメッセージ】							
社会福祉の中でもっとも基本となる科目。制度体系から臨床にいたる内容をしっかり学ぶことが大切になる。人々の生活や地域・社会について興味関心・問題意識を持っている学生の積極的参加を期待する。社会福祉概論 は社会福祉概論 の学びが基礎となる。社会福祉概論 を修了してから受講することが望ましい。							
【オフィスアワー】							
火曜日1限目と水曜日2限目。e-mail：ttaka@min.ac.jp、メール等で予約してください。							
【実務経験】							
社会福祉士、社会福祉協議会・老人福祉センター等福祉行政機関等での実務							

対象年度	学科・科目	分野
令和2年度	全専攻共通 専門基礎科目	専門基礎科目

講義名	[00531] 発達心理学
-----	---------------

期 間	前期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類	講義
-----	---------	-------	-------	-----	----

対象学年	--	2年	3年	--
------	----	----	----	----

担当者	手塚 知子	テヅカ トモコ	tezuka tomoko
-----	-------	---------	---------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

対人援助では、他者を理解する枠組みや理論などの根拠が求められます。その一つの視点として、本授業では人の受精から老年期までの発達の過程について考え、発達の基礎理解から対人援助につなげることを目指します。

【授業修了時の達成課題（到達目標）】

発達心理学は、人の受精から老年期までの生涯にわたる個人的発達について研究する学問である。この授業では、生涯発達を受胎から死に至るまでと位置づけ、生涯にわたって発達し続ける人間について考えていくことを目的とする。この授業を受講することで、人は生涯どのように発達し、そのプロセスにおいて心理学的構造や機能の獲得、保持、変容、そして衰退がどのように起こるのか、理解することが可能である。

【授業方法（フィードバックの内容）】

基本的には指定した教科書に載っている重要な事項について解説し、その内容について受講生が理解し、考えることができるような授業を行う。必要に応じて、ディスカッションも行う予定である。また、教科書に載っていないような日常の出来事や事例、映像資料等を紹介し、用語を身近なものとして理解できるようにする。

【授業外学修の方法（時間数）】

この授業では、毎回それぞれ90分以上の事前・事後の学修を行うこと。事前学習では、教科書を読み、基本的な用語の理解に努めること。事後学習では、学んだ内容についてプリントやノートにまとめ、課された課題を行ってくること。

【成績評価（方法・基準）】

授業内容確認テスト（40%）、小テスト（30%：10%×3回）、授業への取り組み（20%）、課題への取り組み（10%）により総合的に評価する。

【授業計画（各回の授業内容）】

第1回	オリエンテーション / 発達するとはどういうことか・生涯発達の考え方
第2回	生命の芽生えから誕生まで
第3回	赤ちゃんがとらえる世界
第4回	乳児のコミュニケーションと人間関係の発達
第5回	愛着理論 愛着関係の成立と個人差 / 小テスト1
第6回	ことば遊びの発達
第7回	かかわりの中で育まれる自己
第8回	仲間の中での育ち
第9回	学童期の発達 学校での学び / 小テスト2
第10回	思春期・青年期の発達
第11回	大人になるために - 親になること働くこと
第12回	かかわりの中で成熟する
第13回	老いることと発達 人生を振り返る
第14回	発達におけるつまずきへの理解 / 小テスト3
第15回	まとめ：授業の振り返りとディスカッション

【教科書・参考書】

教科書：『問いからはじめる発達心理学 - 生涯にわたる育ちの科学』坂上裕子・山口智子・林創・中間玲子著（有斐閣ストゥディア）2014年、参考書：『エピソードで学ぶ乳幼児の発達心理学』岡本依子・菅野幸恵・塚田城みちる著（新曜社）2004年、『実践・発達心理学第2版』青木紀久代編（みらい）2017年、そのほか、適宜授業中に紹介する。

【学生へのメッセージ】

発達心理学は生まれてから死に至るまでの人間の生涯発達を学ぶ学問です。他者理解のみならず、自己理解にも役立つ実践的な科目です。将来、大学時代に学んでおいてよかったと思えるように学習して欲しいと思っています。もちろん欠席や遅刻は厳禁です。

【オフィスアワー】

火曜日：11：55～12：25、木曜日：11：55～12：25

【実務経験】

峡南地域就学相談員・山梨県立こころの発達総合支援センター臨時職員・障害児支援児童発達施設非常勤職員

対象年度	学科・科目			分野
令和2年度	全専攻共通 専門基礎科目			専門基礎科目
講義名	[00532] 仏教学概論			
期 間	後期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類 講義
対象学年	--	2年	3年	--
担当者	望月 海慧	モチヅキ カイエ	mochizuki kaie	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】				
この授業では、仏教学の基礎的知識を修得するために基本的な仏教用語の意味を学びます。仏教学の伝統において教科書として用いられてきた『俱舎論』に基づいて仏教教義の基本を解説します。				
【授業修了時の達成課題（到達目標）】				
本講義では、仏教思想形成する基礎知識を理解することを目的とする。これらの用語を理解することにより、仏教学のさらなる知識を習得できるようになるであろう。				
【授業方法（フィードバックの内容）】				
古来より仏教学の教科書として用いられてきた『阿毘達磨俱舎論』を用いて講義を行う。				
【授業外学修の方法（時間数）】				
この授業では、毎回それぞれ90分以上の事前・事後の学習を行うこと。				
【成績評価（方法・基準）】				
学力確認テスト70%、授業への取り組み30%で評価を行う。				
【授業計画（各回の授業内容）】				
第1回	オリエンテーション			
第2回	小乗と大乘について			
第3回	アビダルマについて			
第4回	『俱舎論』とヴァスバンドゥ			
第5回	存在の基盤について			
第6回	認識について			
第7回	存在について			
第8回	世界の形成について			
第9回	行為について			
第10回	煩惱について			
第11回	修行階梯について			
第12回	智について			
第13回	禅定について			
第14回	我について			
第15回	まとめ			
【教科書・参考書】				
テキスト：世親（ヴァスバンドゥ）著『阿毘達磨俱舎論』（大正新修大蔵経、No.1558）。				
参考書：桜部建『俱舎論』（大蔵出版）1981年、桜部建『存在の分析』（角川文庫）1996年、青原令知編『唯識 絶ゆることなき法の流れ』（自分照出版）2015年。				
【学生へのメッセージ】				
大学コンソーシアムやまなし単位互換科目 『俱舎論』は、奈良時代より仏教学の教科書として用いられているテキストであるので、僧侶としての基本的な学習内容を学んでもらいたい。				
【オフィスアワー】				
月曜日第3時限並びに木曜日第3時限				
【実務経験】				
日蓮宗教師として35年間檀信徒に仏教を教授				

対象年度	学科・科目			分野
令和2年度	全専攻共通 専門基礎科目			専門基礎科目
講義名	[00537] 法華経概論			
期 間	前期（15回）	単位数	選択（2）	種 類 講義
対象学年	--	2年	3年	--
担当者	庵谷 行亨	オオタニ ギョウコウ	otani gyoko	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】				
法華経の概要について学修します。成立、原典、構成、思想内容、仏教における位置づけなど、法華経の基本的事項について概説します。				
【授業修了時の達成課題（到達目標）】				
本授業では、法華経の概要を総合的に理解することにより、法華経の教えをとおして大乘仏教の基本的思想や日本仏教の原点および天台大師・伝教大師・日蓮聖人の法華仏教の内容を把握し、自発的に考察を深め、自身の考えを発表する力を養うことを目標とします。				
【授業方法（フィードバックの内容）】				
法華経の思想をどのように受け止め、どのように生かしていくかについて考察を深めます。具体的には毎回課題を提示し、受講生が発表(プレゼンテーション)し、全員で意見交換(ディスカッション)をおこないます。				
【授業外学修の方法（時間数）】				
各回の授業では、シラバスの記載内容に基づいて事前学修を2時間以上おこない、授業後はノートを整理して講義内容の理解に努めるなど事後学修を2時間以上おこなってください。				
【成績評価（方法・基準）】				
学力確認テスト（80％）、課題発表などの授業への取り組み姿勢(20％)を基準として総合的に評価します。				
【授業計画（各回の授業内容）】				
第1回	法華経の成立			
第2回	法華経の原典			
第3回	法華経の構成			
第4回	法華経説法の場所			
第5回	法華経説法の開始			
第6回	日本仏教における法華経の位置づけ			
第7回	法華経迹門の思想			
第8回	法華経本門の思想			
第9回	法華経の開会思想			
第10回	法華経の題号喩			
第11回	法華経品中の譬喩			
第12回	法華経の菩薩思想			
第13回	法華経の娑婆即寂光思想			
第14回	法華経の世出不二思想			
第15回	法華経学修のまとめ			
【教科書・参考書】				
教科書：『誰でもわかる法華経』庵谷行亨著（大法輪閣）2000年。参考書：『真訓両読妙法蓮華経並開結』法華経普及会編（平楽寺書店）1924年、『法華経・仏典講座7』田村芳朗・藤井教公著（大蔵出版）1992年。その他の参考書は講義中に適宜紹介します。				
【学生へのメッセージ】				
講義内容の関係から後期の「法華経概論」と併せて受講することを望みます。				
【オフィスアワー】				
毎週授業の前後に教室にて受け付けます。				
【実務経験】				
宗教法人宗長寺代表役員				

対象年度	学科・科目			分野	
令和2年度	全専攻共通 専門基礎科目			専門基礎科目	
講義名	[00538] 法華経概論				
期 間	後期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類	講義
対象学年	--	2年	3年	--	
担当者	庵谷 行亨		オオタニ ギョウコウ	otani gyoko	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
法華経各品の概要について学修します。とくに方便品第二・如来寿量品第十六・如来神力品第二十一などの主要品をはじめ、虚空会の思想や起顕竟の法門など、法華経各品の基本的事項について概説します。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
本授業では、法華経各品の概要を総合的に理解することにより、法華経全体の思想内容を印度・中国・日本の三国仏教を踏まえて把握し、主体的に考察を深め、自身の意見を発表する力を養うことを目標とします。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
法華経各品の思想をどのように受け止め、どのように生かしていくかについて考察を深めます。具体的には毎回課題を提示し、受講生が発表(プレゼンテーション)し、全員で意見交換(ディスカッション)をおこないます。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
各回の授業では、シラバスの記載内容に基づいて事前学修を2時間以上おこない、授業後はノートを整理して講義内容の理解に努めるなど事後学修を2時間以上おこなってください。					
【成績評価（方法・基準）】					
学力確認テスト（80％）、課題発表などの授業への取り組み姿勢（20％）を基準として総合的に評価します。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	序品第一・方便品第二				
第2回	譬喩品第三・信解品第四				
第3回	薬草喩品第五・授記品第六				
第4回	化城喩品第七・五百弟子受記品第八				
第5回	授学無学人記品第九・法師品第十				
第6回	見宝塔品第十一・提婆達多品第十二				
第7回	勸持品第十三・安楽行品第十四				
第8回	従地涌出品第十五・如来寿量品第十六				
第9回	分別功德品第十七・随喜功德品第十八				
第10回	法師功德品第十九・常不軽菩薩品第二十				
第11回	如来神力品第二十一・囑累品第二十二				
第12回	薬王菩薩本事品第二十三・妙音菩薩品第二十四				
第13回	観世音菩薩普門品第二十五・陀羅尼品第二十六				
第14回	妙莊嚴王本事品第二十七・普賢菩薩勸発品第二十八				
第15回	法華経全体のまとめ				
【教科書・参考書】					
教科書：『誰でもわかる法華経』庵谷行亨著（大法輪閣）2000年。参考書：『真訓両読妙法蓮華経並開結』法華経普及会編（平楽寺書店）1924年、『法華経・仏典講座7』田村芳朗・藤井教公著（大蔵出版）1992年。その他の参考書は講義中に適宜紹介します。					
【学生へのメッセージ】					
講義内容の関係から前期の「法華経概論」と併せて受講することを望みます。					
【オフィスアワー】					
毎週授業の前後に教室にて受け付けます。					
【実務経験】					
宗教法人宗長寺代表役員					

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	全専攻共通 専門基礎科目		専門基礎科目		
講義名	[00539] 宗学概論				
期 間	前期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類	講義
対象学年	--	2年	3年	--	
担当者	桑名 法晃		クワナ ホウコウ	kuwana hoko	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
宗学とは何か、宗学を学ぶ意義を確認し、宗学の基本事項となる五義や三大秘法などの教義を概説します。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
宗学とは何であるか、その意義を認識し、宗学の内容を体系的に理解し自分の言葉で説明することができる力を身につけ、自らが主体的に実践していく素地を築くことを、本授業の目標とします。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
宗学とは何であるのか、なぜ学ぶのかということをしかりと抑え、その上で、宗祖の教えについて講義を行います。授業の中でリアクションペーパーを用いて毎回自分の意見等を書いてもらうことと、口頭で質問をし、受講生が自らの考えを発表、ディスカッションをおこなっていきます。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
各回の授業では、シラバスの記載内容に基づいて事前学修を2時間以上おこない、授業後はノートを整理して講義内容の理解に努めるなど事後学修を2時間以上おこなってください。					
【成績評価（方法・基準）】					
試験(80%)、平常点(20%)。平常点はリアクションペーパーの内容、授業内における質問等によって評価します。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	宗学概論の意義				
第2回	宗祖 その1				
第3回	宗祖 その2				
第4回	体系（相承）				
第5回	五義 その1				
第6回	五義 その2				
第7回	三大秘法 その1				
第8回	三大秘法 その2				
第9回	信行				
第10回	成仏				
第11回	靈山往詣				
第12回	摂折				
第13回	祈祷				
第14回	僧俗				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
教科書：なし。参考書：『宗義大綱読本』日蓮宗宗務院教務部編(日蓮宗新聞社)1989年、『日蓮聖人遺文辞典 教学篇』立正大学日蓮教学研究所編(身延山久遠寺)2003年、『日蓮宗事典』日蓮宗事典刊行委員会編(東京堂出版)1981年等。その他、授業の中で紹介していきます。					
【学生へのメッセージ】					
「日蓮学入門」を受講し、しっかり理解した上で併せて受講することを望みます。自分なりにまとめてわかりやすいノートを作成し、授業内で理解できない事柄は必ず図書館などで納得できるまで調べて下さい。					
【オフィスアワー】					
火曜日 1 時限目と水曜日 2 時限目					
【実務経験】					
日蓮宗教師・宗教法人妙法寺副住職					

対象年度	学科・科目		分野	
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目		教職課程	
講義名	[05102] 社会福祉体験実習研究【平成30年度生まで】			
期 間	前期（15回）	単 位 数	必修（2）	種 類 講義
対象学年	1年	2年	--	--
担当者	建守 善之	タテモリ ヨシユキ		tatemori yoshiyuki
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】				
社会福祉とはどのような学問なのか、「福祉」をテーマに制度と支援技術などを学び、これからの福祉問題にも触れ専門知識と援助技術を取得する。				
【授業修了時の達成課題（到達目標）】				
社会福祉体験実習に臨む際の基本的な知識・技術及び留意事項を学ぶ。				
【授業方法（フィードバックの内容）】				
講義、実技演習、グループワーク				
【授業外学修の方法（時間数）】				
毎回それぞれ2時間以上の事前・事後の学習を行うこと。事前の学習では、毎回の授業時に指定された文献を必ず読んでくること。事後の学習では、授業中に提示した専門用語の復習を行うこと				
【成績評価（方法・基準）】				
毎回のリアクションペーパー（10%）、授業で出される課題（10%）、レポート（30%）、学力確認テスト（50%）				
【授業計画（各回の授業内容）】				
第1回	オリエンテーション			
第2回	社会福祉、障害児教育の基本理念			
第3回	視覚障害、聴覚障害、言語障害			
第4回	運動障害、知的障害、病弱・虚弱			
第5回	ダウン症、てんかん、その他の障害			
第6回	盲・聾・支援学校の教育			
第7回	社会福祉施設の定義、種類			
第8回	福祉サービスの種類			
第9回	高齢者にかかわる施設			
第10回	グループワーク			
第11回	児童福祉・障害児にかかわる施設			
第12回	グループワーク			
第13回	介護実技			
第14回	介護実技			
第15回	総括・実習事前説明			
【教科書・参考書】				
授業中に指定します。				
【学生へのメッセージ】				
社会福祉体験実習につながる大切な講義です。集中して受講してください。				
【オフィスアワー】				
火曜日 14:00から17:00、水曜日 14:00から15:30				
【実務経験】				
社会福祉体験実習に向けて、模擬授業を行い、社会人として必要な知識を学ぶ。				

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目		教職課程		
講義名	[05132] 教職論				
期 間	前期（15回）	単 位 数	必修（2）	種 類	講義
対象学年	--	2年	3年	--	
担当者	田沼 朗	タヌマ アキラ	tanuma akira		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
教師の仕事とは何か、教員養成制度、教師の専門性と職務内容、子ども、同僚、保護者、地域との関係などについて、概説します。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
この授業では、まず教職の意義について学び、教師の職務、教職の専門性、同僚との関係、最後に現在教師が直面する実践上の課題を検討する。教師の仕事、現代の教師が直面する課題を理解することを目標とする。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
教科書は『新しい時代の教職入門』を使用するが、適宜 授業資料を配布し参考文献を紹介する。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修120分：指示されたテキストをあらかじめ読んでおく。事後学修120分：テキストや資料を読み直し、ノートをまとめる。					
【成績評価（方法・基準）】					
レポートを含む期末試験70%、授業への取組の姿勢30%					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	オリエンテーション 教職とは何か				
第2回	教師の日常世界				
第3回	子どもをつかむことの意義				
第4回	授業をつくる				
第5回	授業から学ぶ				
第6回	カリキュラムをつくる				
第7回	生活指導の課題				
第8回	戦後教育史のなかの教師（1）				
第9回	同上（2）				
第10回	教師のライフステージ				
第11回	学校づくり				
第12回	生徒とともに学校をつくる				
第13回	教師の懲戒権と体罰				
第14回	教職の専門性				
第15回	教育改革と教師 まとめ				
【教科書・参考書】					
参考書 無着成恭編『山びこ学校』（岩波文庫）、今橋盛勝・牧証名編『教師の懲戒と体罰』エイデル研究所、教育科学研究会 学校部会編『子ども観の転換と学校づくり』（国土社）、尾木直樹『子どもの危機をどう見るか』（岩波新書）、秋田喜代美・佐藤学編『新しい時代の教職入門』（有斐閣）、柴田義松・山崎準二編『教職入門』（学文社）					
【学生へのメッセージ】					
日頃から新聞、雑誌の教育記事に関心を持ってほしい。					
【オフィスアワー】					
月曜日12時から13時、火曜日12時から12時30分、水曜日12時から13時。					
【実務経験】					
なし					

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目		教職課程		
講義名	[05133] 教育課程論				
期 間	前期（15回）	単 位 数	必修（2）	種 類	講義
対象学年	--	2 年	3 年	--	
担当者	田沼 朗	タヌマ アキラ	tanuma akira		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
教育課程とは何か、その原理、歴史の変遷、現代の学校が直面する課題について、概説します。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
教育課程とは、学校において教師集団が行う教育活動の計画であり、子どもの人格形成について学校が描く設計図である。授業では、戦後の教育課程の変化を理論的歴史的に検討し、その後個別の課題について学んでいく。教育課程の基礎理論と変遷を学び、現在直面する課題について理解することを目標とする。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
教科書は最初の授業時に指示する。また適宜資料を配布し参考文献を紹介する。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修120分：指示されたテキストや資料をあらかじめ読んでおく。事後学修120分：テキストや資料を読み直し、ノートにまとめる。					
【成績評価（方法・基準）】					
レポートを含む学力確認テスト70%、授業への取組の姿勢30%					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	オリエンテーション。教育課程とは何か				
第2回	教育課程、学習指導要領の法令上の位置づけ				
第3回	学習指導要領の変遷（1）1947年版から1958年版				
第4回	学習指導要領の変遷（2）1968年版から1989年版				
第5回	学習指導要領の変遷（3）1998年版から2008年版				
第6回	現行学習指導要領の特徴				
第7回	教育課程の構成要件				
第8回	教育課程の編成原理				
第9回	各教科・領域における横断的指導の理論				
第10回	各教科・領域における横断的指導の実際				
第11回	カリキュラムマネジメントの意義と実際				
第12回	カリキュラム評価の基本的考え方				
第13回	教育課程の現代的課題（1）市民性の教育				
第14回	教育課程の現代的課題（2）環境教育				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
教科書 田中耕治ほか編著『新しい時代の教育課程第4版』（有斐閣 2018年）を使用する。このほかに適宜資料を配布する。文部科学省『高等学校学習指導要領』最新版を参考資料として使用する。					
【学生へのメッセージ】					
日頃から新聞、雑誌の教育記事に関心を持ってほしい。					
【オフィスアワー】					
月曜日12時から13時、火曜日12時から12時30分、水曜日12時から13時。					
【実務経験】					
なし					

対象年度	学科・科目			分野
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目			教職課程
講義名	[05134] 特別活動の研究【平成30年度生まで】			
期 間	後期（15回）	単 位 数	必修（2）	種 類 講義
対象学年	--	2年	3年	--
担当者	田沼 朗	タヌマ アキラ	tanuma akira	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】				
特別教育活動とは何か、その理論、制度上の位置づけと変遷、生徒の自治能力を育む実践的課題について、概説します。				
【授業修了時の達成課題（到達目標）】				
学習指導要領では、中学・高校の教育課程を構成する教育活動のうち、教科指導、道徳、総合的学習以外の領域を特別活動と呼んでいる。授業では、子どもの自律性と自治的能力をどう育成するかということに焦点を当て、これまでの議論を整理しながら、実践的課題について検討していく。特別活動の歴史的変遷と現代直面する課題と主要な実践について理解することを目標とする。				
【授業方法（フィードバックの内容）】				
教科書は特に使用しない。授業ごとに資料を配布し参考文献を紹介する。場合によっては、学生諸君に報告をお願いする。				
【授業外学修の方法（時間数）】				
事前学習120分：指示されたテキストや資料をあらかじめ読んでおく。事後学習120分：テキストや資料を読み直し、ノートにまとめる。				
【成績評価（方法・基準）】				
レポートを含む期末試験70%、授業への取組の姿勢30%				
【授業計画（各回の授業内容）】				
第1回	オリエンテーション。現代における特別活動の意義			
第2回	日本教育史における特別活動の歩み（1）戦前			
第3回	日本教育史における特別活動の歩み（2）戦後			
第4回	学級活動と学級集団づくり			
第5回	生徒会活動と自治能力の育成			
第6回	クラブ活動			
第7回	学校行事の意義とその内容（1）入学式、卒業式			
第8回	学校行事の意義とその内容（2）修学旅行			
第9回	学校行事の意義とその内容（3）文化祭			
第10回	学校行事の意義とその内容（4）体育祭			
第11回	長野・辰野高校学校三者会議の実践			
第12回	長野・軽井沢高校「軽高会議」の実践			
第13回	修学旅行の企画づくり（1）			
第14回	修学旅行の企画づくり（2）			
第15回	まとめ			
【教科書・参考書】				
竹内常一『おとなが子どもと出会うとき、子どもが世界を立ちあげるとき』（桜井書店）、浦和商業高校定時制四者協議会編『この学校がオレを変えた』（ふきのとう書房）、宮下与兵衛『学校を変える生徒たち』（かもがわ出版）、宮下聡『中学生の失敗する権利、責任をとる体験』（ふきのとう書房）				
【学生へのメッセージ】				
日頃から新聞、雑誌の教育記事に関心を持ってほしい。				
【オフィスアワー】				
月曜日12時から13時、火曜日12時から12時30分、水曜日12時から13時。				
【実務経験】				
なし				

対象年度	学科・科目	分野
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目	教職課程

講義名	[05135] 道德教育の研究【平成30年度生まで】
-----	----------------------------

期 間	前期（15回）	単 位 数	必修（2）	種 類	講義
-----	---------	-------	-------	-----	----

対象学年	--	2年	3年	--
------	----	----	----	----

担当者	櫻井 勲	サクライ カン	sakurai kan
-----	------	---------	-------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

道德教育とは何か。人が道徳的に行為するとはどのようなことか。本科目ではこうした原理的な問いを大切にしながら道德教育への理解を深められるよう、その理論や歴史を概説するとともに、「学習指導要領」や「道德科」教材の研究、受講生による模擬授業とその検討などを行う。キーワード：道德教育、学習指導要領、模擬授業

【授業修了時の達成課題（到達目標）】

上記のような授業内容を学習することにより、道德教育の目標や内容、指導計画などを理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業などを通して、実践的な指導力を身に付けることを到達目標とする。

【授業方法（フィードバックの内容）】

担当教員による講義と、アクティブ・ラーニングの一環としての小グループによる意見交換、模擬授業などを有機的に組み合わせ、効果的に授業を行う。授業を対話的に展開するため、各回授業時に小レポートを書いてもらい、次の回で何人分かを紹介し、コメントする。

【授業外学修の方法（時間数）】

本科目では、授業への参加は言うまでもなく、授業外での準備学習がこれに劣らず重要である。各回の授業の復習のほか、テキストや配布プリントの予習、さらに学習指導案の作成、模擬授業の準備などについては、受講者各自による授業外での主体的な取り組みが求められる（各回120分以上の事前・事後学習を行うこと）。

【成績評価（方法・基準）】

学習指導案・模擬授業等の課題の達成度（40％）と学力確認テスト（60％）により評価する。学力確認テストでは、道德教育に関する基本的知識を獲得し、的確な言葉で道德教育について論述することができたかを評価基準とする。

【授業計画（各回の授業内容）】

第1回	開講にあたって（ガイダンス、導入の「道德」クイズ）
第2回	道德をどう捉えるか 道德の概念
第3回	道德性の発達と教育をめぐる理論
第4回	道德教育の歴史（1）西洋
第5回	道德教育の歴史（2）日本
第6回	現代社会の道德教育課題（いじめ・情報モラルなど）【ICT機器の活用】
第7回	宗教教育と道德教育
第8回	「学習指導要領」にみる道德教育【グループワーク】
第9回	学校の教育活動全体を通じての道德教育
第10回	「特別の教科 道德」（道德科）の学習指導案
第11回	道德科の学習評価
第12回	道德教育教材の研究
第13回	道德教育実践の研究【映像教材の活用】
第14回	模擬授業の実施とふり返り【プレゼンテーション】
第15回	学力確認テストと授業のまとめ

【教科書・参考書】

教科書：『道德教育の批判と創造』藤田昌士・奥平康照監修（エイデル研究所）2019年。参考書：『道德教育 その歴史・現状・課題』藤田昌士著（エイデル研究所）1985年、『道德教育の理論と方法』羽田積男・関川悦雄編（弘文堂）2016年、『中学校学習指導要領』（文部科学省）2017年。

【学生へのメッセージ】

受講生と担当講師、また受講生相互間での積極的な意見交換を通じて、道德教育への理解を深められるような授業としたい。学生諸君の意欲的な参加に期待する。なお、受講希望者は初回の授業より出席し、受講の意思表示を行うこと。

【オフィスアワー】

各回授業後に教室にて相談などを受け付ける。

【実務経験】

なし

対象年度	学科・科目	分野
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目	教職課程

講義名	[05136] 教育方法論【平成30年度生まで】		
-----	--------------------------	--	--

期 間	前期（15回）	単 位 数	必修（2）	種 類	講義
-----	---------	-------	-------	-----	----

対象学年	--	2年	3年	--
------	----	----	----	----

担当者	成田 雅博	ナリタ マサヒロ	narita masahiro
-----	-------	----------	-----------------

【授業の目的・ねらい/授業全体の内容の概要】

小・中・高校におけるデジタル版視聴覚教育ともいえる、コンピューターやネットワークを活用したICTを活用した授業を、設計・実施・評価できる実践力を育成します。学習指導要領で強調されている教育方法や、すぐれた教材、教育実践事例を検討、分析してもらいます。キーワード：ICT活用・教育方法・授業研究

【授業修了時の達成課題（到達目標）】

カリキュラム編成や教材研究、授業研究の枠組みを理解し、教育実践改善の具体的方法を修得します。ICT・視聴覚メディアを活用した教育方法、教材の開発・評価の手法を理解することにより、授業力を修得できます。また、学習指導案の作成・実施・評価やカリキュラム・マネジメントの方法についても修得します。

【授業方法（フィードバックの内容）】

授業記録のビデオ、コンピューターなどによる演示を視聴したり、授業時に配布・紹介した教育実践記録を熟読したりしたあと、そとで実践やカリキュラムについて考察し、評価できる点と改善について議論します。その際、インターネットを活用して、教材や実践事例の情報を集めたり、成果を共有したりします。

【授業外学修の方法（時間数）】

教材や教育実践事例等について、事前配布資料を分析、考察し小レポートを作成します。事後には、他の学生の意見や関連情報をさらに探究します。合計すると、1回の授業について4時間程度の授業外学修が必要です。

【成績評価（方法・基準）】

（1）レポート（30%：論理性・独創性・21世紀型学力の理解）、（2）授業中・事前・事後小レポート（40%：上記項目1と同じ）、（3）授業中の質問・建設的な意見表明・議論への貢献（30%）

【授業計画（各回の授業内容）】

第1回	教材「数あてゲーム」「ジュナイユの計算棒」を例に、教育内容と教材の関係を理解する
第2回	教育内容と教材の関係、カリキュラム（教育課程）、学習指導要領との関係、授業の3要素の理解、教育方法に関する理論と実際
第3回	21世紀型学力の概観と、学力育成の方法の探究
第4回	教育方法としての仮説実験授業・授業書
第5回	国際理解教育、異文化理解教育、多文化教育と、それらの典型的な教材である貿易ゲーム
第6回	教育方法としてのゲーム。シリアスゲーム・ゲーミング・ゲーミフィケーション
第7回	「教育の情報化の手引き」を講読して、ICTと教育の係わりに関して分析・発表
第8回	情報教育の目標・内容・方法。情報活用能力の育成と学校におけるICT環境整備
第9回	情報活用の実践力分野・情報の科学的な理解分野・情報社会に参画する態度分野の教材研究
第10回	情報モラル教育の教材・教育方法研究：特にケータイ・スマートフォン等の小中高生への普及にともなう諸問題について。
第11回	電子黒板・タブレット・電子教科書等のデジタル教材等ICTを活用した教育方法に関する探究（ICTを活用した探究）
第12回	学習指導案の役割の理解・すぐれた授業の学習指導案の検討・学習指導案と授業実践の関係
第13回	学習指導案、教科書等を参照して、学習指導案を作成・相互評価し、その結果を発表・質疑応答する
第14回	学習評価の理論・方法の理解。授業改善の方法
第15回	学校図書館の役割。これまでの授業のふりかえりとまとめ

【教科書・参考書】

教科書：なし。参考書：授業の研究 教師の学習. 秋田喜代美・キャサリン ルイス. 明石書店. 2008年。日本の授業研究 下巻 授業研究の方法と形態. 日本教育方法学会. 学文社. 2009年。授業研究と学習過程. 秋田喜代美. 放送大学教育振興会. 2010年。授業研究と教育工学. 教育工学選書 第6巻. 水越敏行他. ミネルヴァ書房. 2012年。教育の方法と技術. 平沢茂 編著. 図書文化社. 2014年。幼稚園教育要領, 小学校学習指導要領, 中学校学習指導要領, 高等学校学習指導要領, 特別支援学校学習指導要領。

【学生へのメッセージ】

これまでに小・中・高校で受けてきた授業の良い点, 改善すべき点をあらためて振り返り、事前・授業中・事後に提示されるすぐれた授業と比較しながら、自分が授業を設計・実施・評価する立場で熟考してほしい。

【オフィスアワー】

授業日の、昼休み及び開講日のすべての授業の終了後に、教室にて受け付けます。

【実務経験】

留萌高等学校・釧路西高等学校教員（数学・情報処理）5年。教育方法やICT活用に関し、具体的にイメージできる授業にします。

対象年度	学科・科目		分野	
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目		教職課程	
講義名	[05138] 社会福祉体験実習【平成30年度生まで】			
期 間	通年（1回）	単 位 数	必修（1）	種 類 実習
対象学年	--	2 年	3 年	--
担当者	建守 善之	タテモリ ヨシユキ		tatemori yoshiyuki
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】				
社会福祉の制度はどのような学問か、福祉の制度を中心に学習し介護技術等の支援方法を学び専門知識と援助技術を取得する。				
【授業修了時の達成課題（到達目標）】				
高齢者福祉施設や、支援学校での実習を通して社会福祉及び介護等の体験を行う。				
【授業方法（フィードバックの内容）】				
実習内容の詳細は各実習施設及び支援学校の実習指導者の指示に従うこと。				
【授業外学修の方法（時間数）】				
毎回それぞれ2時間以上の事前・事後の学習を行うこと。事前の学習では、毎回の授業時に指定された文献を必ず読んでくること。事後の学習では、授業中に提示した専門用語の復習を行うこと。				
【成績評価（方法・基準）】				
全日程出席の上、実習先の指導者評価50%、実習記録50% 実習前に授業・前日の実習内容を必ず復習すること、実習後は内容の習得が得られるよう反復すること。				
【授業計画（各回の授業内容）】				
第1回	社会教育主事及び社会福祉主事資格取得の場合：高齢者福祉施設実習 5 日間 教育職員免許状取得の場合：高齢者福祉施設実習 5 日間・支援学校 2 日間			
【教科書・参考書】				
必要に応じて指示する。				
【学生へのメッセージ】				
実習は一瞬の不注意が大きな怪我や事故につながる恐れがあります。細心の注意を払ってください。				
【オフィスアワー】				
火曜日 14：00から17：00、水曜日 14：00から15：30				
【実務経験】				
教育実習と高齢者施設実習に向けたオリエンテーションや模擬授業を行い、専門知識を学ぶ。				

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目				社会教育主事資格取得課程		
講義名	[05201] 社会教育計画 【平成31年度生まで】						
期 間	前期（15回）		単 位 数	必修（2）		種 類	講義
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	栗田 真司		クリタ シンジ		kurita shinji		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
社会教育の催しを実際に計画するに際し、考慮すべき事柄や方法論について概説します。特にコミュニケーション心理学に基づく集団思考法やワークショップの技法について実践的に検討します。							
【授業修了時の達成課題（到達目標）】							
我が国における社会教育の経緯、方法、内容について学びます。							
【授業方法（フィードバックの内容）】							
毎回のテーマについての参考資料やプリントなどを配布して授業を進めます。							
【授業外学修の方法（時間数）】							
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うことを望みます。							
【成績評価（方法・基準）】							
授業中の小テストや課題など60%、学期末の発表40%により総合的に評価します。定量的な評価方法ではなく、定性的な評価方法を採用します。							
【授業計画（各回の授業内容）】							
第1回	オリエンテーション (授業の概要説明)						
第2回	生涯学習推進行政と社会教育行政						
第3回	社会教育の意義と内容						
第4回	社会教育の方法・形態						
第5回	公民館とは						
第6回	図書館とは						
第7回	博物館とは						
第8回	コミュニケーション・スキル						
第9回	ワークショップの技法						
第10回	集団思考法、組織心理学						
第11回	コーディネーター、ファシリテーター、アドミニストレーター、インタープリター、アドバイザー、アセッサー						
第12回	プランニング						
第13回	プレゼンテーション						
第14回	ワークショップの計画						
第15回	ワークショップの実際						
【教科書・参考書】							
講義の中で適宜紹介します。							
【学生へのメッセージ】							
受講前に前回の講義ノートや資料に必ず目を通しておきましょう。受講後はノートの整理を行い、講義内容の理解を深め、次回に備えましょう。							
【オフィスアワー】							
毎週授業の前後に教室にて受け付けます。メールでの連絡は、pico@olive.ocn.ne.jpをお願いします。							
【実務経験】							
なし							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目				社会教育主事資格取得課程		
講義名	[05202] 社会教育計画 【平成31年度生まで】						
期 間	後期（15回）		単 位 数	必修（2）		種 類	講義
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	栗田 真司		クリタ シンジ		kurita shinji		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
社会教育の催しを実際に計画するに際し、考慮すべき事柄や方法論について概説します。特にコミュニケーション心理学に基づく集団思考法やワークショップの技法について実践的に検討します。							
【授業修了時の達成課題（到達目標）】							
多様な主体と連携・協働を図りながら、生涯学習の成果を地域課題解決やまちづくりにつなげていくための知識・技能を習得し、発表します。							
【授業方法（フィードバックの内容）】							
毎回のテーマについての参考資料やプリントなどを配布して授業を進めます。							
【授業外学修の方法（時間数）】							
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うことを望みます。							
【成績評価（方法・基準）】							
授業中の小テストや課題など60%、学期末の試験40%							
【授業計画（各回の授業内容）】							
第1回	社会教育の方法						
第2回	社会教育と学校教育の関係						
第3回	アメリカとヨーロッパと日本の社会教育財政事情						
第4回	学習成果の活用方法・評価方法						
第5回	教育普及活動						
第6回	アドミニストレーター、インタープリター、ファシリテータ						
第7回	ワークシートの要点						
第8回	NPOの役割 アソシアシオン法						
第9回	市民と行政のパートナーシップ、PFI、PPP						
第10回	アウトリーチの歴史と方法						
第11回	ハンズ・オンとプリーズタッチ						
第12回	リピーターへの視点						
第13回	ボランティアの養成						
第14回	指定管理者制度						
第15回	総括						
【教科書・参考書】							
講義の中で適宜紹介します。							
【学生へのメッセージ】							
社会教育計画1を履修済みであることが望ましい。							
【オフィスアワー】							
毎週授業の前後に教室にて受け付けます。メールでの連絡は、pico@olive.ocn.ne.jpにお願いします。							
【実務経験】							
なし							

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目				社会教育主事資格取得課程
講義名	[05203] 社会教育課題研究 【平成31年度生まで / 05211令和2年度生より】				
期 間	前期（15回）		単 位 数	必修（2）	種 類 講義
対象学年	1年	2年	3年	4年	
担当者	田沼 朗		タヌマ アキラ		tanuma akira
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
生涯学習の広がりの中での社会教育活動の歴史と現状を、主として地域、自治体における施設・事業・団体・グループとの係わりで検討していく。場合によっては、テーマを絞って共同学習することもある。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
社会教育活動の現状を理解し、各自が主体的にテーマを決めて、学習し発表・討論する力を身につけることを目標とする。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
講義形式で行う。教科書は特に使用しない。授業ごとに資料を配布し参考文献を紹介する。場合によっては、学生諸君に報告をお願いする。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修 120分 指示されたテキストや資料をあらかじめ読んでおく。 事後学修 120分 テキストや資料を読み直し、ノートにまとめる。					
【成績評価（方法・基準）】					
レポートを含む期末試験70%、授業への取組の姿勢30%					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	オリエンテーション。社会教育の意義				
第2回	成人の学習の国際的展開				
第3回	日本における社会教育活動の展開（1）				
第4回	日本における社会教育活動の展開（2）				
第5回	生涯教育と生涯学習				
第6回	地域づくり・まちづくり実践から（1）東京・谷中				
第7回	地域づくり・まちづくり実践から（2）大分・湯布院				
第8回	地域づくり・まちづくり実践から（3）沖縄・伊江島				
第9回	地域づくり・まちづくり実践から（4）福島・三春				
第10回	地域づくり・まちづくり実践から（5）新潟・聖籠				
第11回	地域づくり・まちづくり実践から（6）東京・国立				
第12回	地域づくり・まちづくり実践から（7）合併しない町・村サミット				
第13回	地域づくり・まちづくり実践から（8）沖縄・名護				
第14回	地域づくり・まちづくり実践から（9）森は海の恋人				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
参考書 佐藤一子 『生涯学習と社会参加』（東京大学出版会）、太田政男 『人を結う』（ふきのとう書房）、太田政男 『まちづくりは面白い』（ふきのとう書房）					
【学生へのメッセージ】					
日頃から新聞、雑誌の教育記事に関心を持ってほしい。授業の性格上、学生諸君の積極的参加を期待する。					
【オフィスアワー】					
月曜日12時から13時、火曜日12時から12時30分、水曜日12時から13時。					
【実務経験】					
なし					

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目				社会教育主事資格取得課程
講義名	[05204] 社会教育課題研究 【平成31年度生まで / 05212令和2年度生より】				
期 間	後期（15回）		単位数	必修（2）	種 類 講義
対象学年	1年	2年	3年	4年	
担当者	田沼 朗		タヌマ アキラ		tanuma akira
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
「社会教育課題研究」と連続している。社会教育に関する今日的課題を取り上げ、実際の取り組みを学習し検討することを目的とする。参加者の課題意識が一致すれば、テーマを絞って共同学習することもある。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
社会教育活動の現状を理解し、各自が主体的にテーマを決めて学習し、発表・討論する力を身につけることを目標とする。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
講義形式で行う。教科書は特に使用しない。授業ごとに資料を配布し参考文献を紹介する。場合によっては、学生諸君に報告をお願いする。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修120分 指示されたテキストや資料をあらかじめ読んでおく。 事後学修120分 テキストや資料を読み直し、ノートにまとめる。					
【成績評価（方法・基準）】					
レポートを含む期末試験70%、授業への取り組み姿勢30%					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	現代青年の文化活動（1）				
第2回	現代青年の文化活動（2）				
第3回	平和・軍縮学習と平和文化の創造（1）				
第4回	平和・軍縮学習と平和文化の創造（2）				
第5回	子育て・文化協同（1）				
第6回	子育て・文化協同（2）				
第7回	環境問題に取り組む市民（1）				
第8回	環境問題に取り組む市民（2）				
第9回	人権学習（1）				
第10回	人権学習（2）				
第11回	ボランティア活動（1）				
第12回	ボランティア活動（2）				
第13回	青年の自立支援（1）				
第14回	青年の自立支援（2）				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
参考書 佐藤一子『生涯学習と社会参加』（東京大学出版会）、太田政男『人を結う』（ふきのとう書房）、太田政男『まちづくりは面白い』（ふきのとう書房）、金子郁容『ボランティア』（岩波新書）、井上ひさし・樋口陽一『「日本国憲法」を読み直す』（講談社）、深山正光『国際教育の研究』桐書房					
【学生へのメッセージ】					
日頃から新聞、雑誌の教育記事に関心を持ってほしい。授業の性格上、学生諸君の積極的参加を期待する。					
【オフィスアワー】					
月曜日12時から13時、火曜日12時から12時30分、水曜日12時から13時。					
【実務経験】					
なし					

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目				社会教育主事資格取得課程
講義名	[05207] 社会教育経営論 【令和2年度生より】				
期 間	前期（15回）		単 位 数	必修（2）	
種類	講義				
対象学年	1年	2年	3年	4年	
担当者	栗田 真司		クリタ シンジ		kurita shinji
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
社会教育計画の計画体系と評価体系、学習展開計画案、各地の具体的な推進計画について解説する。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
多様な主体と連携・協働を図りながら、学習成果を地域課題解決やまちづくりにつなげていくための知識・技能を習得する。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
毎回のテーマについての参考資料やプリントなどを配布して授業を進めます。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うことを望みます。					
【成績評価（方法・基準）】					
授業中の小テストや課題など60%、学期末の発表40%により総合的に評価します。定量的な評価方法ではなく、定性的な評価方法を採用します。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	対話型討論：「社会教育とは何を指すのか」				
第2回	教育基本法第13条（学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力）				
第3回	社会教育計画の計画体系と評価体系				
第4回	社会教育計画の具体的な学習展開計画案				
第5回	社会教育計画の実例の検討				
第6回	社会教育関連施設のネットワーク化				
第7回	人的ネットワークの活用（NPO、地縁団体、テーマ別グループ、人材バンク）				
第8回	コーディネーターによる学習支援（橋渡し、循環、情報提供、コーチングなど）				
第9回	社会教育調査とデータの活用				
第10回	学習成果を発表する場づくり				
第11回	子ども読書活動推進計画				
第12回	芸術文化振興に関する計画				
第13回	スポーツ振興に関する計画				
第14回	家庭の教育力向上の支援、親力向上推進計画				
第15回	総括 振り返りとシェアリング				
【教科書・参考書】					
講義の中で適宜紹介します。					
【学生へのメッセージ】					
受講前に前回の講義ノートや資料に必ず目を通しておきましょう。受講後はノートの整理を行い、講義内容の理解を深め、次回に備えましょう。					
【オフィスアワー】					
毎週授業の前後に教室にて受け付けます。メールでの連絡は、pico(a)olive.ocn.ne.jpにお願いします。					
【実務経験】					
なし					

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目				社会教育主事資格取得課程		
講義名	[05208] 社会教育経営論 【令和2年度生より】						
期 間	後期（15回）		単 位 数	必修（2）		種 類	講義
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	栗田 真司		クリタ シンジ		kurita shinji		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
生涯学習の成果を地域課題解決やまちづくりにつなげていく方法論や実際の具体的な事例について解説します。							
【授業修了時の達成課題（到達目標）】							
多様な主体と連携・協働を図りながら、生涯学習の成果を地域課題解決やまちづくりにつなげていくための知識・技能を習得し、発表します。							
【授業方法（フィードバックの内容）】							
毎回のテーマについての参考資料やプリントなどを配布して授業を進めます。							
【授業外学修の方法（時間数）】							
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うことを望みます。							
【成績評価（方法・基準）】							
授業中の小テストや課題など60%、学期末の発表40%により総合的に評価します。定量的な評価方法ではなく、定性的な評価方法を採用します。							
【授業計画（各回の授業内容）】							
第1回	まちづくり・地域活性化策としての社会教育						
第2回	社会教育と住民参加						
第3回	社会教育施設と専門職員・コーディネーターが果たす役割						
第4回	地域フィールドワークによる学習課題の抽出						
第5回	学習成果の公開と評価						
第6回	ヨコのネットワークとタテのネットワーク						
第7回	青少年の居場所づくりと青少年リーダーの育成						
第8回	障害者とともに学ぶ仕組み						
第9回	事例の検討：静岡県富士宮市、長野県飯田市						
第10回	事例の検討：徳島県上勝町、長野県下條村						
第11回	事例の検討：滋賀県長浜市、石川県輪島市						
第12回	事例の検討：長野県飯山市、京都府美山町						
第13回	事例の検討：新潟県村上市、大分県豊後高田市						
第14回	成果発表						
第15回	総括 振り返りとシェアリング						
【教科書・参考書】							
講義の中で適宜紹介します。							
【学生へのメッセージ】							
受講前に前回の講義ノートや資料に必ず目を通しておきましょう。受講後はノートの整理を行い、講義内容の理解を深め、次回に備えましょう。社会教育経営論1を履修済みであることが望ましい。							
【オフィスアワー】							
毎週授業の前後に教室にて受け付けます。メールでの連絡は、pico(a)olive.ocn.ne.jpにお願いします。							
【実務経験】							
なし							

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目				社会教育主事資格取得課程
講義名	[05209] 社会教育課題研究【令和2年度生より】				
期 間	前期（15回）		単 位 数	必修（2）	
種類	講義				
対象学年	1年	2年	3年	4年	
担当者	田沼 朗		タヌマ アキラ		tanuma akira
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
社会教育主事としての職務を遂行するために必要な資質及び能力の総合的かつ実践的な定着を図ることをねらいとします。この授業では、地域住民が主体的に学ぶ社会教育活動の課題について、主として地域づくり、まちづくりに関する実践例を取り上げて、相互に検討していきたい。授業の性格上、参加者が主体的にテーマを決めて参加してほしい。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
社会教育制度及びその理念、社会教育施設の役割、職員の任務を理解する。社会教育活動が直面する所課題について、理解する。参加者が主体的にテーマを決め、学習し発表・討論する力を身につける。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
講義・演習の併用方式で行う。教科書は特に使用しない。授業ごとに資料を配布し参考文献を紹介する。学生諸君にも報告をお願いする。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修 120分 指示されたテキストや資料をあらかじめ読んでおく。事後学修 120分 テキストや資料を読み直し、ノートにまとめる。					
【成績評価（方法・基準）】					
レポートを含む期末試験70%、授業への取組の姿勢30%					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	ガイダンス				
第2回	社会教育の理念と制度				
第3回	ユネスコ学習権宣言とその展開				
第4回	戦後日本社会の変容と社会教育の課題				
第5回	地域開発、公害問題				
第6回	森林保護と漁業の発展				
第7回	原子力発電をめぐる諸問題				
第8回	少子高齢化、過疎化とまちづくり				
第9回	日本社会の格差と貧困				
第10回	子ども食堂				
第11回	義務教育費の無償化とまちづくり				
第12回	性的マイノリティの人権				
第13回	地域づくり実地調査...柴又、谷中、根津、千駄木				
第14回	社会的ひきこもり者支援				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
参考書 佐藤一子『生涯学習と社会参加』（東京大学出版会）、太田政男『人を結う』（ふきのとう書房）、太田政男『まちづくりは面白い』（ふきのとう書房）					
【学生へのメッセージ】					
日頃から新聞、雑誌の教育記事に関心を持ってほしい。授業の性格上、学生諸君の積極的参加を期待する。					
【オフィスアワー】					
月曜日12時から13時、火曜日12時から12時30分、水曜日12時から13時。					
【実務経験】					
なし					

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目				社会教育主事資格取得課程		
講義名	[05210] 社会教育演習【令和2年度生より】						
期 間	後期（15回）		単位数	必修（1）		種 類	演習
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	田沼 朗		タヌマ アキラ		tanuma akira		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
社会教育主事としての職務を遂行するために必要な資質及び能力の総合的かつ実践的な定着を図ることをねらいとします。地域住民が主体的に学ぶ拠点である社会教育施設の具体的役割について、実践的に学ぶことを目的とします。身延町をはじめ山梨、長野、東京各地の公民館活動、住民が企画する学びの実態について具体的事例を通して学びます。必要に応じて、文献研究、実地調査も行います。							
【授業修了時の達成課題（到達目標）】							
地域における人々の学びの拠点である社会教育施設の機能、学習支援者としての職員の枠割を理解する。学習講座企画と省察を通して、社会教育支援者としての実践的力をつける。グループ活動を通して、仲間と共に探求、実践し、地域社会を形成する力をつける。							
【授業方法（フィードバックの内容）】							
演習形式で行う。教科書は特に使用しない。授業ごとに資料を配布し参考文献を紹介する。学生諸君に発表をお願いする。							
【授業外学修の方法（時間数）】							
事前学修120分 指示されたテキストや資料をあらかじめ読んでおく。事後学修120分 テキストや資料を読み直し、ノートにまとめる。							
【成績評価（方法・基準）】							
発表を含む期末レポート70%、授業への取り組み姿勢30%							
【授業計画（各回の授業内容）】							
第1回	ガイダンス						
第2回	学びの拠点としての社会教育施設						
第3回	学習支援者としての社会教育主事の専門性						
第4回	身延町の社会教育施設（公民館）						
第5回	身延町の社会教育施設(中富和紙の里)						
第6回	身延町の社会教育施設（金山博物館）						
第7回	参加者からの講座企画案の検討（1）						
第8回	参加者からの講座企画案の検討（2）						
第9回	環境問題の講座企画事例						
第10回	平和教育の講座企画事例						
第11回	社会の格差と貧困についての講座企画事例						
第12回	家族支援についての講座企画事例						
第13回	文化活動についての講座企画事例						
第14回	地域の過疎化対策についての講座企画事例						
第15回	まとめ						
【教科書・参考書】							
参考書 佐藤一子 『生涯学習と社会参加』（東京大学出版会）、太田政男 『人を結う』（ふきのとう書房）、太田政男 『まちづくりは面白い』（ふきのとう書房）、金子郁容 『ボランティア』（岩波新書）、井上ひさし・樋口陽一 『「日本国憲法」を読み直す』（講談社）、深山正光 『国際教育の研究』 桐書房							
【学生へのメッセージ】							
日頃から新聞、雑誌の教育記事に関心を持ってほしい。授業の性格上、学生諸君の積極的参加を期待する。							
【オフィスアワー】							
月曜日12時から13時、火曜日12時から12時30分、水曜日12時から13時。							
【実務経験】							
なし							

対象年度	学科・科目			分野	
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目			社会教育主事資格取得課程	
講義名	[05231] 社会教育主事実習【平成31年度生まで】				
期 間	通年（1回）	単 位 数	必修（2）	種 類	実習
対象学年	--	2年	3年	--	
担当者	田沼 朗		タヌマ アキラ		tanuma akira
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
社会教育主事の実務実践及び諸問題を学ぶために、身延町役場及び身延町教育委員会において、社会教育主事として業務の一部を実習又は補助参加をおこないます。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
身延町役場及び身延町教育委員会においての実習 1週間。身延町役場及び身延町教育委員会の主催する行事の補助 1週間。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
実習内容に関しては、身延町役場及び教育委員会に一任します。実施期間は10月の下旬となっています。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うこと。 事前学習は、指導担当職員から指示された課題を必ず行っておくこと。 事後学習は、一日を振り返りながら実習日誌をまとめ、指導担当職員の点検を受けること。					
【成績評価（方法・基準）】					
実習先の評価と実習記録の記入内容とを総合的に勘案して行います。。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	実習				
【教科書・参考書】					
実習なのでテキストや参考文献は掲載しません。					
【学生へのメッセージ】					
実習中は社会教育主事として業務を実施しますので、社会人としての自覚をもって実習に臨んでください。また、指導担当者の指導及び留意事項は必ず守ってください。なお、実習中の遅刻・早退及び欠席は認められません。学務課が主催する諸資格ガイダンス及び掲示板等で指示されるガイダンスには、必ず参加してください。					
【オフィスアワー】					
月曜日12時から13時、火曜日12時から12時30分、水曜日12時から13時。					
【実務経験】					
なし					

対象年度	学科・科目	分野
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目	社会教育主事資格取得課程

講義名	[05232] 視聴覚教育メディア論【平成31年度生まで】
-----	-------------------------------

期 間	前期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類	講義
-----	---------	-------	-------	-----	----

対象学年	--	2年	3年	--
------	----	----	----	----

担当者	成田 雅博	ナリタ マサヒロ	narita masahiro
-----	-------	----------	-----------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

小・中・高校におけるデジタル版視聴覚教育ともいえる、コンピューターやネットワークを活用したICTを活用した授業を、設計・実施・評価できる実践力を育成します。学習指導要領で強調されている教育方法や、すぐれた教材、教育実践事例を検討、分析してもらいます。キーワード：ICT活用・教育方法・授業研究

【授業修了時の達成課題（到達目標）】

カリキュラム編成や教材研究、授業研究の枠組みを理解し、教育実践改善の具体的方法を修得します。ICT・視聴覚メディアを活用した教育方法、教材の開発・評価の手法を理解することにより、授業力を修得できます。また、学習指導案の作成・実施・評価やカリキュラム・マネジメントの方法についても修得します。

【授業方法（フィードバックの内容）】

授業記録のビデオ、コンピューターなどによる演示を視聴したり、授業時に配布・紹介した教育実践記録を熟読したりしたあと、そと実践やカリキュラムについて考察し、評価できる点と改善について議論します。その際、インターネットを活用して、教材や実践事例の情報を集めたり、成果を共有したりします。

【授業外学修の方法（時間数）】

教材や教育実践事例等について、事前配布資料を分析、考察し小レポートを作成します。事後には、他の学生の意見や関連情報をさらに探究します。合計すると、1回の授業について4時間程度の授業外学修が必要です。

【成績評価（方法・基準）】

(1) レポート(30%：論理性・独創性・21世紀型学力の理解)、(2) 授業中・事前・事後小レポート(40%：上記項目1と同じ)、(3) 授業中の質問・建設的な意見表明・議論への貢献(30%)

【授業計画（各回の授業内容）】

第1回	教材「数あてゲーム」「ジュナイユの計算棒」を例に、教育内容と教材の関係を理解する
第2回	教育内容と教材の関係、カリキュラム（教育課程）、学習指導要領との関係、授業の3要素の理解、教育方法に関する理論と実際
第3回	21世紀型学力の概観と、学力育成の方法の探究
第4回	教育方法としての仮説実験授業・授業書
第5回	国際理解教育、異文化理解教育、多文化教育と、それらの典型的な教材である貿易ゲーム
第6回	教育方法としてのゲーム。シリアスゲーム・ゲーミング・ゲーミフィケーション
第7回	「教育の情報化の手引き」を講読して、ICTと教育の係わりに関して分析・発表
第8回	情報教育の目標・内容・方法。情報活用能力の育成と学校におけるICT環境整備
第9回	情報活用の実践力分野・情報の科学的な理解分野・情報社会に参画する態度分野の教材研究
第10回	情報モラル教育の教材・教育方法研究：特にケータイ・スマートフォン等の小中高生への普及にともなう諸問題について
第11回	電子黒板・タブレット・電子教科書等のデジタル教材等ICTを活用した教育方法に関する探究（ICTを活用した探究）
第12回	学習指導案の役割の理解・すぐれた授業の学習指導案の検討・学習指導案と授業実践の関係
第13回	学習指導案、教科書等を参照して、学習指導案を作成・相互評価し、その結果を発表・質疑応答する
第14回	学習評価の理論・方法の理解。授業改善の方法
第15回	学校図書館の役割。これまでの授業のふりかえりとまとめ

【教科書・参考書】

教科書：なし。参考書：授業の研究 教師の学習. 秋田喜代美・キャサリン ルイス. 明石書店. 2008年。日本の授業研究 下巻 授業研究の方法と形態. 日本教育方法学会. 学文社. 2009年。授業研究と学習過程. 秋田喜代美. 放送大学教育振興会. 2010年。授業研究と教育学. 教育学選書 第6巻. 水越敏行他. ミネルヴァ書房. 2012年。教育の方法と技術. 平沢茂 編著. 図書文化社. 2014年。幼稚園教育要領, 小学校学習指導要領, 中学校学習指導要領, 高等学校学習指導要領, 特別支援学校学習指導要領。

【学生へのメッセージ】

これまでに小・中・高校で受けてきた授業の良い点, 改善すべき点をあらためて振り返り、事前・授業中・事後に提示されるすぐれた授業と比較しながら、自分が授業を設計・実施・評価する立場で熟考してほしい。

【オフィスアワー】

授業日の、昼休み及び開講日のすべての授業の終了後に、教室にて受け付けます。

【実務経験】

留萌高等学校・釧路西高等学校教員（数学・情報処理）5年。教育方法やICT活用に関し、具体的にイメージできる授業にします。

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09005] 文法 (Grammar)						
期 間	前期 (15回)		単 位 数	選 択 (1)		種 類	演習
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	金 炳坤		キム ビョンコン		kim byung kon		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
日本語能力試験 (JLPT) N2のレベル認定を目指します。交換留学生と一般留学生が対象になります。							
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】							
幅広い話題について書かれた新聞や雑誌の記事・解説、平易な評論など、論旨が明快な文章を読んで文章の内容を理解することができる。一般的な話題に関する読み物を読んで、話の流れや表現意図を理解することができる。							
【授業方法 (フィードバックの内容)】							
教科書に沿って進めていきます。毎回小テスト (成績評価の対象) を行いますので、予習・復習に励んでください。							
【授業外学修の方法 (時間数)】							
毎回4時間程度の授業外学修が望まれます。教科書の語彙は単語帳を作って憶えるようにしてください。教科書の文法はノートに整理し活用できるようにしておいてください。							
【成績評価 (方法・基準)】							
授業への取り組み姿勢 (30%)、小テスト (30%)、学力確認テスト (40%) により総合評価します。							
【授業計画 (各回の授業内容)】							
第1回	ガイダンス						
第2回	1課：～とき・～直後に、2課：～している (進行中)						
第3回	3課：～後で、4課：範囲の始まりと終わり・その間						
第4回	5課：～だけ、6課：～だけではなく・それに加えて						
第5回	7課：～について・～を相手にして、8課：～を基準にして						
第6回	9課：～に関連して・～に対応して、10課：～や～など						
第7回	11課：～に関係なく・無視して、12課：強く否定する・強く否定しない						
第8回	13課：～ (話題) は、14課：～けれど						
第9回	15課：もしそうなら・たとえそうでも、16課：～だから (理由)						
第10回	17課：～だから (理由) 、18課：～できない・困難だ・～できる						
第11回	19課：～を見て評価すると・～の立場で評価すると、20課：結果はどうなったか						
第12回	21課：強く言う・軽く言う、22課：～だろうと思う						
第13回	23課：感想を言う・主張する、24課：提案する・意志を表す						
第14回	25課：強くそう感じる・思いが強いられる、26課：願う・感動する						
第15回	まとめ						
【教科書・参考書】							
教科書：『新完全マスター文法日本語能力試験N2』友松悦子他著 (スリーイーネットワーク) 2011年。参考書：『日本語能力試験公式問題集：公式問題集；N2 (第二集)』国際交流基金他編集 (凡人社) 2018年。							
【学生へのメッセージ】							
今年の日本語能力試験の実施日は、第1回：7月5日 (日)、第2回：12月6日 (日) です。 [https://www.jlpt.jp/application/domestic_index.html]							
【オフィスアワー】							
授業の前後、火曜日の1時限目、木曜日の4時限目に対応します。							
【実務経験】							
同時通訳・翻訳業務の実績あり							

対象年度	学科・科目				分野	
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程	
講義名	[09006] 文法 (Grammar)					
期 間	後期 (15回)		単 位 数	選 択 (1)		種 類
対象学年	1 年	2 年	3 年	4 年		
担当者	金 炳坤		キム ビョンコン		kim byung kon	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】						
日本語能力試験 (JLPT) N1のレベル認定を目指します。交換留学生と一般留学生が対象になります。						
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】						
幅広い話題について書かれた新聞の論説、評論など、論理的にやや複雑な文章や抽象度の高い文章などを読んで、文章の構成や内容を理解することができる。さまざまな話題の内容に深みのある読み物を読んで、話の流れや詳細な表現意図を理解することができる。						
【授業方法 (フィードバックの内容)】						
教科書に沿って進めていきます。毎回小テスト (成績評価の対象) を行いますので、予習・復習に励んでください。						
【授業外学修の方法 (時間数)】						
毎回4時間程度の授業外学修が望まれます。教科書の語彙は単語帳を作って憶えるようにしてください。教科書の文法はノートに整理し活用できるようにしておいてください。						
【成績評価 (方法・基準)】						
授業への取り組み姿勢 (30%)、小テスト (30%)、学力確認テスト (40%) により総合評価します。						
【授業計画 (各回の授業内容)】						
第1回	第2部1課：文の組み立て ; 決まった形					
第2回	第2部2課：同上 ; 名詞を説明する形式					
第3回	第2部3課：同上 ; 接続に注意					
第4回	第3部1課：時制					
第5回	第3部2課：条件を表す文					
第6回	第3部3課：視点を動かさない手段 ; 動詞の使い方、自動詞・他動詞の使い分け					
第7回	第3部4課：同上 ; 「～てくる・～ていく」の使い分け					
第8回	第3部5課：同上 ; 受身・使役・使役受身の使い分け					
第9回	第3部6課：同上 ; 「～てあげる・～てもらう・～てくれる」の使い分け					
第10回	第3部7課：指示表現「こ・そ・あ」の使い分け					
第11回	第3部8課：「は・が」の使い分け					
第12回	第3部9課：接続表現					
第13回	第3部10課：省略・繰り返し・言い換え					
第14回	第3部11課：文体の一貫性					
第15回	第3部12課：話の流れを考える					
【教科書・参考書】						
教科書：『新完全マスター文法日本語能力試験N1』友松悦子他著 (スリーエーネットワーク) 2011年。参考書：『日本語能力試験公式問題集：公式問題集；N1 (第二集)』国際交流基金他編集 (凡人社) 2018年。						
【学生へのメッセージ】						
今年の日本語能力試験の実施日は、第1回：7月5日 (日)、第2回：12月6日 (日) です。 〔 https://www.jlpt.jp/application/domestic_index.html 〕						
【オフィスアワー】						
授業の前後、火曜日の1時限目、木曜日の4時限目に対応します。						
【実務経験】						
同時通訳・翻訳業務の実績あり						

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09007] 文法 (Grammar)						
期 間	前期 (15回)		単 位 数	選 択 (1)		種 類	演習
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	金 炳坤		キム ビョンコン		kim byung kon		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
日本語能力試験 (JLPT) N1のレベル認定を目指します。交換留学生と一般留学生が対象になります。							
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】							
幅広い話題について書かれた新聞の論説、評論など、論理的にやや複雑な文章や抽象度の高い文章などを読んで、文章の構成や内容を理解することができる。さまざまな話題の内容に深みのある読み物を読んで、話の流れや詳細な表現意図を理解することができる。							
【授業方法 (フィードバックの内容)】							
教科書に沿って進めていきます。毎回小テスト (成績評価の対象) を行いますので、予習・復習に励んでください。							
【授業外学修の方法 (時間数)】							
毎回4時間程度の授業外学修が望まれます。教科書の語彙は単語帳を作って憶えるようにしてください。教科書の文法はノートに整理し活用できるようにしておいてください。							
【成績評価 (方法・基準)】							
授業への取り組み姿勢 (30%)、小テスト (30%)、学力確認テスト (40%) により総合評価します。							
【授業計画 (各回の授業内容)】							
第1回	ガイダンス						
第2回	1課：時間関係、2課：範囲の始まり・限度						
第3回	3課：限定・非限定・付加、4課：例示						
第4回	5課：関連・無関係、6課：様子						
第5回	7課：付随行動、8課：逆接						
第6回	9課：条件、10課：逆接条件						
第7回	11課：目的・手段、12課：原因・理由						
第8回	13課：可能・不可能・禁止、14課：話題・評価の基準						
第9回	15課：比較対照、16課：結末・最終の状態						
第10回	17課：強調、18課：主張・断定						
第11回	19課：評価・感想、20課：心情・強制的思い						
第12回	模擬試験						
第13回	模擬試験						
第14回	模擬試験						
第15回	まとめ						
【教科書・参考書】							
教科書：『新完全マスター文法日本語能力試験N1』友松悦子他著 (スリーエーネットワーク) 2011年。参考書：『日本語能力試験公式問題集：公式問題集；N1 (第二集)』国際交流基金他編集 (凡人社) 2018年。							
【学生へのメッセージ】							
今年の日本語能力試験の実施日は、第1回：7月5日 (日)、第2回：12月6日 (日) です。 〔 https://www.jlpt.jp/application/domestic_index.html 〕							
【オフィスアワー】							
授業の前後、火曜日の1時限目、木曜日の4時限目に対応します。							
【実務経験】							
同時通訳・翻訳業務の実績あり							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09011] 作文 (Composition)						
期間	前期 (15回)		単位数	選択 (1)		種類	演習
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	木村 中一		キムラ チュウイチ		kimura chuichi		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
本講義において日本語の基礎的文法表現をみていく。							
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】							
本講義受講によって、自らの意見を作文として表現することができるようになる。							
【授業方法 (フィードバックの内容)】							
日本語科目にて習得した力を作文として表現するため、積極的な予習復習が望まれる。							
【授業外学修の方法 (時間数)】							
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学修を行うこと。							
【成績評価 (方法・基準)】							
授業への参加姿勢20%、質疑応答10%、課題作文70%							
【授業計画 (各回の授業内容)】							
第1回	オリエンテーション						
第2回	代名詞の使い方 1						
第3回	代名詞の使い方 2						
第4回	代名詞の使い方 3 まとめ						
第5回	接続詞の使い方 1						
第6回	接続詞の使い方 2						
第7回	接続詞の使い方 3 まとめ						
第8回	モノの表現法 相違点と相似点 1						
第9回	モノの表現法 相違点と相似点 2						
第10回	モノの表現法 相違点と相似点 3						
第11回	意見を述べる 1						
第12回	意見を述べる 2						
第13回	意見を述べる 3						
第14回	課題作文 (原稿用紙を使用)						
第15回	課題作文 (レポート用紙を使用)						
【教科書・参考書】							
教科書：『表現テーマ別 にほんご作文の方法 (改訂版)』 (第三書房)、『新完全マスター読解 日本語能力試験N1』 (スリーエーネットワーク)。参考書：適宜指示する。							
【学生へのメッセージ】							
語学は弛まない積み重ねでやっと力になります。宿題・課題を毎回課すので地道に取り組んでください。							
【オフィスアワー】							
火曜日4時限目、水曜日2時限目、質問はemailでも可 (kimura(a)min.ac.jp)							
【実務経験】							
宗教法人法養寺代表役員							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09012] 作文 (Composition)						
期 間	後期 (15回)		単 位 数	選 択 (1)		種 類	演習
対象学年	1 年	2 年	3 年	4 年			
担当者	木村 中一		キムラ チュウイチ		kimura chuichi		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
本講義において日本語の基礎的文法表現をみていく。							
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】							
本講義受講によって、自らの意見を作文として表現することができるようになる。							
【授業方法 (フィードバックの内容)】							
読む事から書く事へ。文章作成の基礎を学ぶ。日本語科目にて習得した力を作文として表現するため、積極的な予習復習が望まれる。							
【授業外学修の方法 (時間数)】							
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学修を行うこと。							
【成績評価 (方法・基準)】							
講義への取り組み姿勢20%、質疑応答10%、課題作文70%							
【授業計画 (各回の授業内容)】							
第1回	オリエンテーション 日本語能力試験にむけて						
第2回	まぎらわしい表現 1						
第3回	まぎらわしい表現 2						
第4回	まぎらわしい表現 3						
第5回	使用されている間違った日本語表現 接続詞						
第6回	使用されている間違った日本語表現 否定						
第7回	使用されている間違った日本語表現 敬語						
第8回	使用されている間違った日本語表現 代名詞						
第9回	使用されている間違った日本語表現 口語表現						
第10回	中間報告 レポート作成						
第11回	討論 その1						
第12回	討論 その2						
第13回	討論 その3						
第14回	課題・報告書作成						
第15回	課題・報告書作成						
【教科書・参考書】							
教科書：『表現テーマ別 にほんご作文の方法 (改訂版)』 (第三書房)、『新完全マスター読解 日本語能力試験N1』 (スリーエーネットワーク)。参考書：適宜指示する。							
【学生へのメッセージ】							
語学は弛まない積み重ねでやっと力になります。宿題・課題を毎回課すので地道に取り組んでください。							
【オフィスアワー】							
火曜日4時限目、水曜日2時限目、質問はemailでも可 (kimura(a)min.ac.jp)							
【実務経験】							
宗教法人法養寺代表役員							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09013] 聴解 (Listening Comprehension)						
期間	前期 (15回)		単位数	選択 (1)		種類	演習
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	手塚 知子		テヅカ トモコ		tezuka tomoko		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
日本人の会話レベルの聴解ができるよう、さまざまな状況下の「会話」や近年の「時事」について、テキストをもとに概説する。また学生が興味・関心を持つ「時事」やニュース等についても取り上げ、幅広く内容理解ができるようにする。							
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】							
この授業では、受講生が日本語の聴き取りに慣れ、日本語能力検定試験合格レベルまで日本語の聴解レベルを持っていくことを目指す。基礎的な聴き取りから複合的な内容まで含め、日本人の会話レベルの聴解ができるようにする。また、ラジオ放送を理解できるようにする。この授業を受講することで、受講生は日本語を聴き取り理解する力を養うことができる。							
【授業方法 (フィードバックの内容)】							
日本語能力検定試験の問題をヒアリングしながら解いていき、試験問題に慣れていくようにする。また、日常生活やニュース、時事問題に関する内容について会話をするので、実践的な日本語の理解・習得を図る。							
【授業外学修の方法 (時間数)】							
この授業では、毎回それぞれ90分以上の事前・事後の学習を行うこと。普段からテレビやラジオを聴くようにし、事前学習として、自分が関心を持ったニュースや時事問題について簡単にまとめてくるようにすること。事後学習では、授業の内容をさらに深める自主学習を行ったり、苦手なところについて練習してくるようにすること。							
【成績評価 (方法・基準)】							
練習問題の成績 (50%)、授業への取り組み (40%)、課題への取り組み (10%) により総合的に評価する。							
【授業計画 (各回の授業内容)】							
第1回	オリエンテーション 簡単な聞き取り						
第2回	会話 (その1)						
第3回	会話 (その2)						
第4回	会話 (その3)						
第5回	会話 (その4)						
第6回	会話 (その5)						
第7回	会話 (その6)						
第8回	会話 (その7)						
第9回	会話 (その8)						
第10回	時事 (その1)						
第11回	時事 (その2)						
第12回	時事 (その3)						
第13回	時事 (その4)						
第14回	時事 (その5)						
第15回	まとめ 聴解 への布石						
【教科書・参考書】							
『新完全マスター聴解 日本語能力試験』中村かおり・福島佐知・友松悦子著 (スリーエーネットワーク) 2011年。							
【学生へのメッセージ】							
授業内だけでは、日本語に耳が慣れることはできません。普段の生活の中で、積極的に日本語での会話を行ったり、日本のテレビやラジオ等を聴くようにしましょう。また、テレビやラジオで聴いたフレーズや文章を、同じように発声してみましょう。練習の方法は授業で解説します。							
【オフィスアワー】							
火曜日 : 11 : 55 ~ 12 : 25、木曜日 : 11 : 55 ~ 12 : 25							
【実務経験】							
峡南地域就学相談員							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09014] 聴解 (Listening Comprehension)						
期 間	後期 (15回)		単 位 数	選 択 (1)		種 類	演習
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	手塚 知子		テヅカ トモコ		tezuka tomoko		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
日本人の会話レベルの聴解ができるようテキストをもとに概説する。また学生が興味・関心を持つ「時事」やニュース等について、学生が調べ、プレゼンテーションをする機会を設ける。日本語能力試験を視野に、練習問題に取組むことで、必要なスキルを修得する。							
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】							
この授業では、聴解 に引き続き、日本語能力検定試験合格レベルまで受講生の日本語の聴解レベルを持っていくことを目指す。複雑な内容でも、日本人の会話レベルの聴解ができるようにする。また、ラジオ放送を理解できるようにする。この授業を受講することで、受講生は日本語を聴き取り理解する力を養うことができる。							
【授業方法 (フィードバックの内容)】							
日本語能力検定試験の問題をヒアリングしながら解いていき、試験問題に慣れていくようにする。また、日常生活やニュース、時事問題に関する内容について会話をするので、さらなる実践的な日本語の理解・習得を図る。							
【授業外学修の方法 (時間数)】							
この授業では、毎回それぞれ90分以上の事前・事後の学習を行うこと。普段からテレビやラジオを聴くようにし、事前学習として、自分が関心を持ったニュースや時事問題について簡単にまとめてくるようにすること。事後学習では、授業の内容をさらに深める自主学習を行ったり、苦手なところについて練習してくるようにすること。							
【成績評価 (方法・基準)】							
練習問題の成績 (50%)、授業への取り組み (40%)、課題への取り組み (10%) により総合的に評価する。							
【授業計画 (各回の授業内容)】							
第1回	オリエンテーション						
第2回	練習問題 (その1)						
第3回	練習問題 (その2)						
第4回	練習問題 (その3)						
第5回	練習問題 (その4)						
第6回	練習問題 (その5)						
第7回	練習問題 (その6)						
第8回	練習問題 (その7)						
第9回	練習問題 (その8)						
第10回	練習問題 (その9)						
第11回	練習問題 (その10)						
第12回	練習問題 (その11)						
第13回	練習問題 (その12)						
第14回	模擬試験・解説 (その1)						
第15回	模擬試験・解説 (その2)						
【教科書・参考書】							
『新完全マスター聴解 日本語能力試験』中村かおり・福島佐知・友松悦子著 (スリーエーネットワーク) 2011年。							
【学生へのメッセージ】							
授業内だけでは、日本語に耳が慣れることはできません。普段の生活の中で、積極的に日本語での会話を行ったり、日本のテレビやラジオ等を聴くようにしましょう。また、テレビやラジオで聴いたフレーズや文章を、同じように発声してみましょう。授業では映画なども見ていくことを予定しています。							
【オフィスアワー】							
火曜日：11：55～12：25、木曜日：11：55～12：25							
【実務経験】							
峡南地域就学相談員							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09016] 会話 (Conversation)						
期間	後期 (15回)		単位数	選択 (1)		種類	演習
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	伊東 久実		イトウ クミ		ito kumi		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
目的に応じた自然な会話や口頭発表ができるように、実際の場面を模擬的に体験、練習する。							
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】							
話すべき内容とその構成を意識しながら話す力を身につける。自分の考えや気持ちを根拠を示して伝えることができるようになる。抽象的なことが話せ、聞き手の理解や反応に応じた話し方ができるようになる。							
【授業方法 (フィードバックの内容)】							
会話 で習得した技能をもとに、学生自身が話題提供を行ったり、提案されたテーマについてディスカッションを行う。学外において発表の機会を持つ。							
【授業外学修の方法 (時間数)】							
この授業では、毎回1時間以上の事前・事後の学習を行うこと。事前の学習では、テキストの指定された箇所を解き、疑問点等を明確にしておくこと。事後の学習では、ノートや配布資料を整理して授業内容の理解に努めること。							
【成績評価 (方法・基準)】							
授業への取り組み姿勢 (50%)、学力確認テストおよび発表 (50%) により総合的に判断します。							
【授業計画 (各回の授業内容)】							
第1回	好きなシーンを紹介しよう						
第2回	子どもたちに母国の行事を紹介しよう						
第3回	グラフや表を説明しよう						
第4回	困った状況を伝えて交渉しよう						
第5回	不満に対処しよう						
第6回	就職試験制度について説明しよう						
第7回	働くことの意義について討論しよう						
第8回	身延中学校での交流授業に向けて：内容の検討						
第9回	身延中学校での交流授業に向けて：発表原稿の作成 / 授業の進め方の検討と練習						
第10回	スピーチコンテストのリハーサル						
第11回	身延中学校での交流授業に向けて：プレゼンテーション						
第12回	心に残る言葉						
第13回	留学生生活を振り返って						
第14回	将来の夢を語ろう						
第15回	まとめ・発表						
【教科書・参考書】							
教科書：『日本語超級話者への道 きちんと伝える技術と表現』荻原 稚佳子、斉藤 真理子著 (スリーエーネットワーク)、2010年。参考書：『日本語おしゃべりのたね第2版』西口光一監修 (スリーエーネットワーク) 2011年、『中上級学習者のためのブラッシュアップ日本語会話』清水崇文編 (スリーエーネットワーク) 2013年、『ロールプレイで学ぶ中級上級への日本語会話』山内博之著 (凡人社) 2014年。その他、日本語能力試験問題集や文献、視聴覚教材を適宜に紹介する。							
【学生へのメッセージ】							
自身の意見や考えを積極的に述べることを求める。							
【オフィスアワー】							
火曜日10:30～12:00と金曜日15:30～17:00(大学事務室を通じて予約してください)							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09018] 漢字 (Chinese Character)						
期 間	後期 (15回)		単 位 数	選 択 (1)		種 類	演習
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	桑名 法晃		クワナ ホウコウ		kuwana hoko		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
留学生の日本語教育に関する科目の一つであるので、漢字の成り立ちや類義語等、幅広く指導していく。							
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】							
日本語能力試験 (N1) 合格レベルの日本語能力を取得することを、本授業の目標とします。							
【授業方法 (フィードバックの内容)】							
テキストに即しながら、講義を行います。小テストを毎回実施し、理解度を確認しながら進めていきます。							
【授業外学修の方法 (時間数)】							
事前学修は、シラバスに則してテキストにしっかり目を通しておくこと。事後学修は、授業内容の復習を行い、練習問題を解き理解を深めること。各120分の学修が必要となります。							
【成績評価 (方法・基準)】							
期末テスト50%、小テスト20%、受講態度30%で総合的に評価する。							
【授業計画 (各回の授業内容)】							
第1回	ガイダンス						
第2回	同じ部分、同じ音読みを持つ漢字を覚えよう その1						
第3回	同じ部分、同じ音読みを持つ漢字を覚えよう その2						
第4回	訓読みを覚えよう その1						
第5回	訓読みを覚えよう その2						
第6回	難しい読みを覚えよう その1						
第7回	難しい読みを覚えよう その2						
第8回	語彙で覚えよう その1						
第9回	語彙で覚えよう その2						
第10回	語彙で覚えよう その3						
第11回	語彙で覚えよう その4						
第12回	いろいろな覚え方をしよう その1						
第13回	いろいろな覚え方をしよう その2						
第14回	新聞を読もう その1						
第15回	新聞を読もう その2						
【教科書・参考書】							
教科書：『日本語能力試験対策、日本語総まとめN1』（アスク出版）2010年。他に『漢字マスターN1』（三修社）2011年も用いる。参考書：『漢字ビギナーズ、24の法則でわかる』武部良明（アルク）2014年。ほか講義時に指示する。							
【学生へのメッセージ】							
語学学習には事前・事後学習に時間をかけることが必要です。繰り返し繰り返し身につくまで徹底して習練しましょう。							
【オフィスアワー】							
水曜日1時限目と木曜日5時限目							
【実務経験】							
なし							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09019] 語彙 (Vocabulary)						
期 間	前期 (15回)		単 位 数	選 択 (1)		種 類	演習
対象学年	1 年	2 年	3 年	4 年			
担当者	岡田 文弘		オカダ フミヒロ		okada fumihiro		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
本授業は、留学生を対象に実施されるものである。最終的には、日本語能力試験に合格することを目標とする。							
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】							
日本語能力試験 (N 1、N 2) 合格レベルの日本語能力を取得する。							
【授業方法 (フィードバックの内容)】							
教科書に沿って練習問題をこなし、確認しつつ進める。							
【授業外学修の方法 (時間数)】							
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うこと。							
【成績評価 (方法・基準)】							
毎回の演習50%、課題50%							
【授業計画 (各回の授業内容)】							
第1回	ガイダンス						
第2回	演習						
第3回	演習						
第4回	演習						
第5回	演習						
第6回	演習						
第7回	演習						
第8回	演習						
第9回	演習						
第10回	演習						
第11回	演習						
第12回	演習						
第13回	演習						
第14回	演習						
第15回	演習						
【教科書・参考書】							
『新完全マスター語彙、日本語能力試験N1』(スリーエーネットワーク)2011年							
『日本語能力試験問題集N1語彙スピードマスター』(ジェイ・リサーチ出版)2011							
『日本人の心がわかる日本語』森田六郎著(アスク出版)2011年							
【学生へのメッセージ】							
語学学習は、事前学習と事後学習がとても重要です。たくさん課題も出しますががんばって受講してください。							
【オフィスアワー】							
木曜12:00-13:00 (要予約、ookada@min.ac.jp)							
【実務経験】							
なし							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09021] 漢字 (Chinese Character)						
期間	前期 (15回)		単位数	選択 (1)		種類	演習
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	桑名 法晃		クワナ ホウコウ		kuwana hoko		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
留学生の日本語教育に関する科目の一つであるので、漢字の成り立ちや類義語等、幅広く指導してゆく。							
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】							
日本語能力試験 (N1) 合格レベルの日本語能力を取得することを、本授業の目標とします。							
【授業方法 (フィードバックの内容)】							
テキストに即しながら、講義を行います。小テストを毎回実施し、理解度を確認しながら進めていきます。							
【授業外学修の方法 (時間数)】							
事前学修は、シラバスに則してテキストにしっかり目を通しておくこと。事後学修は、授業内容の復習を行い、練習問題を解き理解を深めること。各120分の学修が必要となります。							
【成績評価 (方法・基準)】							
期末テスト50%、小テスト20%、受講態度30%で総合的に評価する。							
【授業計画 (各回の授業内容)】							
第1回	ガイダンス						
第2回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第1～第2回						
第3回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第3～第4回						
第4回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第5～第6回						
第5回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第7～第8回						
第6回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第9～第11回						
第7回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第12～第13回						
第8回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第14～第17回						
第9回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第18～第21回						
第10回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第22～第24回						
第11回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第25～第28回						
第12回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第29～第31回						
第13回	言葉の構成について						
第14回	音の変化について						
第15回	まとめ						
【教科書・参考書】							
教科書：『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』。参考書：『漢字引きナース 24の原則でわかる』武部良明 (アルク社) 2014年、『漢字のなりたち (日英対訳)』白川静 (平凡社) 2016年。							
【学生へのメッセージ】							
語学学習には事前・事後学習に時間をかけることが必要です。繰り返し繰り返し身につくまで徹底して習練しましょう。							
【オフィスアワー】							
水曜日1時限目と木曜日5時限目							
【実務経験】							
なし							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09022] 語彙 (Vocabulary)						
期 間	後期 (15回)		単 位 数	選 択 (1)		種 類	演習
対象学年	1 年	2 年	3 年	4 年			
担当者	岡田 文弘		オカダ フミヒロ		okada fumihiro		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
本授業は、留学生を対象に実施されるものである。最終的には、日本語能力試験に合格することを目標とする。							
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】							
日本語能力試験 (N 1、N 2) 合格レベルの日本語能力を取得する。							
【授業方法 (フィードバックの内容)】							
教科書に沿って練習問題をこなし、確認しつつ進める。							
【授業外学修の方法 (時間数)】							
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うこと。							
【成績評価 (方法・基準)】							
毎回の演習50%、課題50%							
【授業計画 (各回の授業内容)】							
第1回	ガイダンス						
第2回	演習						
第3回	演習						
第4回	演習						
第5回	演習						
第6回	演習						
第7回	演習						
第8回	演習						
第9回	演習						
第10回	演習						
第11回	演習						
第12回	演習						
第13回	演習						
第14回	演習						
第15回	演習						
【教科書・参考書】							
『新完全マスター語彙、日本語能力試験N1』(スリーエーネットワーク)2011年							
『日本語能力試験問題集N1語彙スピードマスター』(ジェイ・リサーチ出版)2011							
『日本人の心がわかる日本語』森田六郎著(アスク出版)2011年							
【学生へのメッセージ】							
事前・事後学習をきちんと行って、日本語習得につとめてください。							
【オフィスアワー】							
水曜2限(要予約、ookada@min.ac.jp)							
【実務経験】							
なし							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09023] 文法 (Grammar)						
期 間	後期 (15回)		単 位 数	選 択 (1)		種 類	演習
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	桑名 法晃		クワナ ホウコウ		kuwana hoko		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
本授業は、基本的には読解に力を入れ、その中で必要に応じて文法事項の確認を行っていく。							
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】							
日本語能力試験 (N1) 合格レベルの日本語能力を取得することを、本授業の目標とします。							
【授業方法 (フィードバックの内容)】							
テキストに即しながら、講義を行います。小テストを毎回実施し、理解度を確認しながら進めていきます。							
【授業外学修の方法 (時間数)】							
事前学修は、シラバスに則してテキストにしっかり目を通しておくこと。事後学修は、授業内容の復習を行い、練習問題を解き理解を深めること。各120分の学修が必要となります。							
【成績評価 (方法・基準)】							
授業への取り組み30%、模擬試験70%							
【授業計画 (各回の授業内容)】							
第1回	ガイダンス：テキストの例題をやってみよう						
第2回	実力養成編 第1部 評論・解説・エッセイなど その1						
第3回	実力養成編 第1部 評論・解説・エッセイなど その2						
第4回	実力養成編 第1部 評論・解説・エッセイなど その3						
第5回	実力養成編 第1部 評論・解説・エッセイなど その4						
第6回	第2部 広告・お知らせ・説明書きなど その1						
第7回	第2部 広告・お知らせ・説明書きなど その2						
第8回	第2部 広告・お知らせ・説明書きなど その3						
第9回	第2部 広告・お知らせ・説明書きなど その4						
第10回	第3部 実戦問題 その1						
第11回	第3部 実戦問題 その2						
第12回	第3部 実戦問題 その3						
第13回	第3部 実戦問題 その4						
第14回	模擬試験						
第15回	まとめおよび振り返り						
【教科書・参考書】							
教科書：『新完全マスター読解日本語能力試験N1』福岡・清水・初鹿野・中村・田代著 (スリーエーネットワーク) 2011年、 『新完全マスター読解日本語能力試験N2』田代・中村・初鹿野・清水・福岡著 (スリーエーネットワーク) 2011年							
【学生へのメッセージ】							
間違えることを恐れず、数多くの問題に取り組んでまいりましょう。							
【オフィスアワー】							
水曜日1時限目と木曜日5時限目							
【実務経験】							
なし							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09024] 読解 (Reading Comprehension)						
期間	前期 (15回)		単位数	選択 (1)		種類	演習
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	岡田 文弘		オカダ フミヒロ		okada fumihiro		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
本授業は、留学生を対象に実施されるものである。最終的には、日本語能力試験に合格することを目標とする。							
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】							
日本語能力試験 (N1、N2) 合格レベルの日本語能力を取得する。							
【授業方法 (フィードバックの内容)】							
指定されたテキストに沿って、授業を進めていく。							
【授業外学修の方法 (時間数)】							
この授業では、毎回それぞれ2時間以上の事前・事後の学習を行うこと。							
【成績評価 (方法・基準)】							
毎回の演習50%、課題50%							
【授業計画 (各回の授業内容)】							
第1回	ガイダンス、テキストの例題をやってみる。						
第2回	実力養成編 第1部 評論・解説・エッセイなど (1)						
第3回	同上 (2)						
第4回	同上 (3)						
第5回	同上 (4)						
第6回	第2部 広告・お知らせ・説明書きなど (1)						
第7回	同上 (2)						
第8回	同上 (3)						
第9回	同上 (4)						
第10回	第3部 実戦問題 (1)						
第11回	同上 (2)						
第12回	同上 (3)						
第13回	同上 (4)						
第14回	模擬試験						
第15回	まとめと振り返り						
【教科書・参考書】							
『新完全マスター読解日本語能力試験N1』福岡・清水・初鹿野・中村・田代著 (スリーエーネットワーク) 2011、『日本語能力試験問題集N1読解スピードマスター』(ジェイ・リサーチ出版) 2011、『新完全マスター読解日本語能力試験N2』田代・中村・初鹿野・清水・福岡著 (スリーエーネットワーク) 2011。							
【学生へのメッセージ】							
間違えることを恐れず、数多くの問題に取り組んでまいりましょう。							
【オフィスアワー】							
木曜12:00-13:00 (要予約、ookada@min.ac.jp)							
【実務経験】							
なし							

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程
講義名	[09025] 読解 (Reading Comprehension)				
期間	後期 (15回)		単位数	選択 (1)	
種類	演習				
対象学年	1年	2年	3年	4年	
担当者	伊東 久実		イトウ クミ		ito kumi
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
日本語能力試験のN1あるいはN2の合格を目標として、指定されたテキストに沿って読解力を高める授業を行う。					
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】					
本授業は、留学生を対象に実施されるものである。最終的には、日本語能力試験のN1あるいはN2に合格することを目標とする。					
【授業方法 (フィードバックの内容)】					
指定されたテキストに沿って、授業を進めていく。					
【授業外学修の方法 (時間数)】					
この授業では、毎回それぞれ2時間以上の事前・事後の学習を行うこと。					
【成績評価 (方法・基準)】					
授業での取り組み：70%、N1あるいはN2模擬試験：30%。					
【授業計画 (各回の授業内容)】					
第1回	ガイダンス、テキストの例題をやってみる				
第2回	実力養成編 第1部 評論・解説・エッセイなど (1)				
第3回	同上 (2)				
第4回	同上 (3)				
第5回	同上 (4)				
第6回	第2部 広告・お知らせ・説明書きなど (1)				
第7回	同上 (2)				
第8回	同上 (3)				
第9回	同上 (4)				
第10回	第3部 実戦問題 (1)				
第11回	同上 (2)				
第12回	同上 (3)				
第13回	同上 (4)				
第14回	模擬試験				
第15回	まとめと振り返り				
【教科書・参考書】					
教科書：『新完全マスター読解日本語能力試験N1』福岡・清水・初鹿野・中村・田代著 (スリーエーネットワーク) 2011年 『新完全マスター読解日本語能力試験N2』田代・中村・初鹿野・清水・福岡著 (スリーエーネットワーク) 2011年					
【学生へのメッセージ】					
間違えることを恐れず、数多くの問題に取り組んでまいりましょう。					
【オフィスアワー】					
火曜日10:30～12:00と金曜日15:30～17:00(大学事務室を通じて予約してください)					
【実務経験】					
なし					

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09026] 会話 (Conversation)						
期間	前期 (15回)		単位数	選択 (1)		種類	演習
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	手塚 知子		テヅカ トモコ		tezuka tomoko		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
この授業では「話す」技能に焦点をあて、日常生活の会話が円滑にできるよう毎回テーマを決め、発表をする機会を設ける。またテキストやディスカッション、ロールプレイを通して多角的に「話す」力の向上ができるよう、授業展開をする。							
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】							
個人的、一般的な興味に関する話題についての詳細な説明、描写、叙述する力を身につける。この授業を受けることにより、日常生活で円滑なコミュニケーションができるようになる。また、日本語で分かりやすく発表できるようになる。							
【授業方法 (フィードバックの内容)】							
「話す」技能に焦点を当てた授業である。会話やプレゼンテーションについて、分かりやすく伝えるためにどのような話し方が適切かをテキストやディスカッション、ロールプレイを通して学ぶ。							
【授業外学修の方法 (時間数)】							
この授業では、毎回2時間以上の事前・事後の学習を行うこと。事前の学習では、テキストの指定された箇所を解き、疑問点等を明確にしておくこと。事後の学習では、ノートや配布資料を整理して授業内容の理解に努めること。							
【成績評価 (方法・基準)】							
授業への取り組み姿勢 (50%)、期末試験および発表 (50%) により総合的に判断します。							
【授業計画 (各回の授業内容)】							
第1回	オリエンテーション						
第2回	自己紹介で好印象を与えよう						
第3回	きっかけを話そう						
第4回	町の様子を話そう						
第5回	健康について話そう						
第6回	自分の特技について伝えよう						
第7回	言い換えて説明しよう						
第8回	印象に残った出来事を話そう						
第9回	比べて良さを伝えよう						
第10回	動きの順序を説明しよう						
第11回	ストーリーを話そう						
第12回	最近の出来事を話そう						
第13回	身延中学校での交流授業に向けて：内容の検討 その1						
第14回	身延中学校での交流授業に向けて：内容の検討 その2						
第15回	まとめ・発表						
【教科書・参考書】							
教科書：『日本語上級話者への道 きちんと伝える技術と表現』荻原 稚佳子、斉藤 真理子著 (スリーエーネットワーク)、2010年。参考書：『日本語おしゃべりのたね第2版』西口光一監修 (スリーエーネットワーク) 2011年、『中上級学習者のためのブラッシュアップ日本語会話』清水崇文編 (スリーエーネットワーク) 2013年、『ロールプレイで学ぶ中級上級への日本語会話』山内博之著 (凡人社) 2014年。その他、日本語能力試験問題集や文献、視聴覚教材を適宜に紹介する。 日本語能力試験問題集や文献、視聴覚教材を適宜に紹介する。							
【学生へのメッセージ】							
自身の意見や考えを積極的に述べることを求める。							
【オフィスアワー】							
火曜日：11：55～12：25、木曜日：11：55～12：25							
【実務経験】							
峡南地域就学相談員							

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	福祉学専攻 専門科目		福祉理論系科目		
講義名	[01613] 教育原理【資格06613】				
期 間	後期（15回）	単 位 数	選 択（2）	種 類	講義
対象学年	1 年	2 年	--	--	
担当者	田沼 朗		タヌマ アキラ	tanuma akira	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
教育の思想や理念と制度の変遷、現代の教育が直面する課題について概説します。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
近代から現代に至る日本の教育の思想と歴史をたどり、現在子どもが直面する課題と子どもの権利を保障する教育改革の原理およびその内容を探りたい。子どもが直面する課題と教育改革の理論とその内容について理解できることを目標とする。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
基本的に講義形式。教科書は特に使用しない。授業ごとに資料を配布し参考文献を紹介する。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うこと。事前学修：あらかじめ指示されたテキストや資料を読み、自分の意見をまとめておく。事後学修：授業を振り返り、要点をノートに整理する。					
【成績評価（方法・基準）】					
レポートを含む期末試験70%、授業への取組の姿勢30%					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	オリエンテーション 教育学を学ぶ意義				
第2回	近代公教育制度の発足（1）近代学校成立の意味				
第3回	近代公教育制度の発足（2）教育目的をめぐる論争				
第4回	教育勅語の成立とその意味				
第5回	大正新教育運動と教育改革				
第6回	ファシズムと教育				
第7回	戦後教育改革（1）敗戦と教育				
第8回	戦後教育改革（1）敗戦と教育				
第9回	教育の逆コース				
第10回	高度成長期の教育思想				
第11回	現代教育問題（1）おちこぼれ・体のおかしさ・非行・家庭内暴力				
第12回	現代教育問題（2）校内暴力・管理教育（体罰、校則）				
第13回	現代教育問題（3）いじめ・不登校				
第14回	臨時教育審議会の設置と新自由主義改革				
第15回	子どもの権利条約の意義、まとめ				
【教科書・参考書】					
テキストは使用しないが教職課程共通に使用する資料として、浪本勝年・他編『ハンディ教育六法』（北樹出版）を用意してほしい。適宜資料を配布し、参考文献を紹介する。とりあえず竹内常一『少年期不在』（青木書店）、竹内常一『教育を変える』（桜井書店）、田沼朗・他編『いま、なぜ教育基本法の改正なのか』（国土社）、山住正己『日本教育小史』（岩波書店）に目を通してほしい。					
【学生へのメッセージ】					
日頃から新聞、雑誌の教育記事に関心を持ってほしい。					
【オフィスアワー】					
月曜日12時から13時、火曜日12時から12時30分、水曜日12時から13時。					
【実務経験】					
なし					

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	福祉学専攻 専門科目				福祉理論系科目		
講義名	[01614] 保育原理						
期 間	後期（15回）		単 位 数	選 択（2）		種 類	講 義
対象学年	1 年	2 年	--	--			
担当者	伊東 久実		イトウ クミ		ito kumi		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
保育の基本的な理念や意義について学びます。							
【授業修了時の達成課題（到達目標）】							
この授業を受けることにより、保育実践に必要な子どもの理解や発達の捉え方、さらに保育の制度や現状について理解することができます。							
【授業方法（フィードバックの内容）】							
主として講義形式ですが、活発な意見交流を促し双方向授業を行います。理解を深めるために地域の保育所、児童館等で実際に学ぶことも含めます(保育所訪問後のフィードバックを大切にします)。							
【授業外学修の方法（時間数）】							
この授業では、毎回それぞれ2時間以上の事前・事後の学習を行うこと。事前の学習では、テキストの指定された箇所を熟読し、疑問点等を明確にしておくこと。事後の学習では、ノート(実習ノートも含む)や配布資料を整理して授業内容の理解に努めること。							
【成績評価（方法・基準）】							
授業への取り組み姿勢(30%)、学力確認テスト(70%)により総合評価します。							
【授業計画（各回の授業内容）】							
第1回	保育とは何か						
第2回	保育の基本となること						
第3回	同上						
第4回	保育の実際について(1) - 保育所訪問/観察実習 -						
第5回	保育の基盤としての子ども観						
第6回	同上						
第7回	子どもが育つ環境の理解						
第8回	保育の実際について(2) - 子育て支援施設訪問/観察実習 -						
第9回	保育の環境・方法						
第10回	子どもの発達特性と発達の捉え方						
第11回	現代の子育てと子育て支援						
第12回	保育者に求められるもの						
第13回	保育の記録と実践の原理						
第14回	保育の現状と課題						
第15回	まとめ						
【教科書・参考書】							
教科書：『新しい保育講座 保育原理』渡邊英則（ミネルヴァ書房）2018。参考書：『育ての心（上）倉橋惣三文庫』・『育ての心（上）倉橋惣三文庫』津守真著（フレール館）1988年、『子ども理解と援助』高嶋景子著（ミネルヴァ書房）2011年。							
【学生へのメッセージ】							
保育のよりよいあり方について、積極的に学ぶことを希望します。保育所訪問は、時間割を調整して、別の日時に実施することもあるので注意すること。							
【オフィスアワー】							
火曜日10:30～12:00と金曜日15:30～17:00(大学事務室を通じて予約してください)							
【実務経験】							
私立幼稚園教諭、国立大学附属幼稚園教諭。保育者経験を生かして、保育の現場での表現活動について実践に生かせる技術や指導方法を伝えます。							

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	福祉学専攻 専門科目				福祉理論系科目
講義名	[01615] 仏教と社会活動				
期 間	前期（15回）		単 位 数	選択（2）	種 類
					講義と演習、実践
対象学年	1年	2年	3年	4年	
担当者	池上 要靖		イケガミ ヨウセイ		ikegami yosei
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
ボランティア活動と宗教的实践について学ぶ。ボランティアとは何か、具体的な活動の事例、遵守事項と振り返りについての理解を深め、間違いの起こらない活動、つまりはリスクを回避して、行すべき活動がしっかりと遂行できるノウハウを学ぶ。そして、その活動の支柱となる仏教の精神性についての理解を深め、実際の活動との整合を確かめる。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
現代社会における実践的仏教行動論とその精神的基盤の紹介（救援活動、現代社会における宗教活動、若年者との関わり、終末期のヴィハーラ活動）と、自分自身のいのち、および現代社会における寺院・僧侶のあり方を考え、具体へと結び付けられるプロセスを学び、自己実現へのスキルを獲得できることを目標とする。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
考え方の基礎となる部分を講義で、具体的な実践活動の紹介をディスカッションを通して学び、仏教福祉の社会活動に対する考えをまとめる。福祉施設の現状や問題を理解して、当事者に寄り添うことを学べるように事例を研究する。そして、実際の活動現場に赴き、五感を使い体験を通して、スキルの獲得に努める。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
この授業では、毎回授業形態が異なるので事前学習に要する時間も異なるが、講義の場合は、概ね2時間の事前事後学習時間、演習の場合は、事前が3時間、事後が2時間、活動現場に赴く際はその活動に見合った基礎スキルが獲得されるまでが事前学習と定め、事後学習はその振り返りとする。					
【成績評価（方法・基準）】					
講義内容の確認を試験で30%、演習と事例研究が40%でレポートによる、そして実際の活動スキルが獲得されているかが30%（ルーブリック形式）である。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	講座開設の趣旨、目的と成果、評価方法と仏教と福祉の関係からいのちに関するオートノミーの解説。				
第2回	仏教的な社会貢献と身延山大学				
第3回	寄り添うとはどういうことか～大学の社会的貢献に関するディスカッション				
第4回	いのちの尊厳～福島放射能汚染（DVDの視聴とディスカッション）				
第5回	東日本大震災と日本人の死生観				
第6回	若年者と仏教との関わり				
第7回	こども食堂や学習支援活動の方法				
第8回	こどもをどうやって支えていくか？（事例とディスカッション）				
第9回	ヴィハーラ活動とは何か。歴史的観点から定義する。				
第10回	高齢者との関わり方、障がい者との関わり方と仏教的方法論				
第11回	ヴィハーラ活動としての寺院のあり方を考える（事例とディスカッション）				
第12回	寺院の時代的ニーズを探る（青少年活動、育英会活動等、ボランティア活動等社会に訴える）				
第13回	寺院の時代的ニーズを探る（永代供養、葬儀の必要性）				
第14回	仏教福祉活動の実践（実際の活動を行う）				
第15回	まとめ（実際の活動報告と振り返り）				
【教科書・参考書】					
講義回ごとに紹介する。事前に購入するものは無いが、『仏教社会福祉入門』（法蔵館）と『仏教社会福祉辞典』は頻繁に使用する。					
【学生へのメッセージ】					
楽しく授業に参加、ディスカッションを通して自分の意見や考えを持って毎回授業に望むこと。資料をよく読んで自分で考えること。					
【オフィスアワー】					
火曜日 4 時限目、金曜日 4・5 時限目。質問はメールでも可（ikegami@min.ac.jp）。					
【実務経験】					
宗教法人智寂坊代表役員、保護司、元教育委員、身延町ふるさと創生委員					

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	福祉学専攻 専門科目				福祉理論系科目		
講義名	[01618] カウンセリング入門						
期 間	後期（15回）		単 位 数	選 択（2）		種 類	講義
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	稲永 澄子		イナナガ スミコ		inanaga sumiko		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
心の治療（カウンセリング）とは何かを、さまざまな技法を学びながら考えていく。「野の医者は笑う 心の治療とは何か」東畑開人著（誠信書房）を副読本とする。授業開始日までに読み終えておくこと。							
【授業修了時の達成課題（到達目標）】							
カウンセリングとは何か、その目的や方法を理解し、真のカウンセリングマインドを身につける。							
【授業方法（フィードバックの内容）】							
講義を主体とし、演習も取り入れる。							
【授業外学修の方法（時間数）】							
この授業では、毎回60分程度の事後の学習を行うこと。事後学習では、授業を振り返りながら要点をノートに整理する。整理してわからなかったところを次回の授業最初の質問時間に質問して明らかにすること。							
【成績評価（方法・基準）】							
期末試験（50％）、授業への取組の姿勢（50％）。出席率が50％に満たない場合は、試験を受けることができない。							
【授業計画（各回の授業内容）】							
第1回	「野の医者は笑う」の読後ディスカッション						
第2回	ここはどこにあるの？（こころのとらえ方）						
第3回	カウンセリングの理論1：精神分析療法1（フロイトの時代）フロイト、ユング						
第4回	カウンセリングの理論2：条件反射（パブロフ）						
第5回	カウンセリングの理論3：精神分析療法2（新フロイト派）A.フロイト、M.クライン						
第6回	カウンセリングの理論4：クライアント中心療法（ロジャーズ）						
第7回	カウンセリングの理論5：認知療法（ベック）うつ病の認知療法						
第8回	カウンセリングの理論6：認知行動療法（認知再構成法、行動活性化）						
第9回	カウンセリングの理論7：行動療法（スキナー）ABA行動分析						
第10回	カウンセリングの理論8：第3世代の認知行動療法 マインドフルネスと瞑想						
第11回	カウンセリングの理論9：日本のカウンセリング理論（森田療法）						
第12回	カウンセリングの理論10：グループカウンセリング（エンパワメントとセルフヘルプグループ）						
第13回	カウンセリングの理論11：ポストモダンの心理療法（解決志向・エリクソン催眠・自我状態療法）						
第14回	カウンセリングの理論12：身体志向のカウンセリング(EMDR・SE・BSPなど)						
第15回	まとめ						
【教科書・参考書】							
「野の医者は笑う 心の治療とは何か」東畑開人著（誠信書房）、「精神科医松井紀和が語るカウンセリングを学ぶ人のための心理療法の基礎と実際」、「『うつ』を生かすーうつ病の認知療法」大野裕著（星和書店）、「いじめられっ子の流儀」ケイト・コーエン・ポージー著 奥田健次監訳（学苑社）							
【学生へのメッセージ】							
真剣にカウンセリングを学びたい学生を望む。							
【オフィスアワー】							
講義の時間帯							
【実務経験】							
借成会住吉病院心理士（30年）クライアントのニーズに応じたカウンセリングの基本を実例や模擬実習を取り入れて講義する。							

対象年度	学科・科目	分野
令和2年度	福祉学専攻 専門科目	福祉理論系科目

講義名	[01622] 家庭教育【資格06617】
-----	-----------------------

期 間	後期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類	講義
-----	---------	-------	-------	-----	----

対象学年	1年	2年	3年	4年
------	----	----	----	----

担当者	手塚 知子	テヅカ トモコ	tezuka tomoko
-----	-------	---------	---------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

家庭で子どもを教育する際の基礎知識の修得を目指す。また学生自身が子どもや保護者の支援方法の視点を培うことができるよう、具体的に説明をする。現代の家庭教育について子どもや家庭教育をめぐる諸問題について各回で取り上げ、受講生の理解を深める。

【授業修了時の達成課題（到達目標）】

この授業では、現代の家庭教育における諸問題について考察し、子どもの発達過程における家庭教育の役割やその方法について理解することを目的とする。授業を通じて、受講生は、家庭教育の現状と課題について理解するとともに、家庭で保護者がすぐにチャレンジできる知識や技術を習得できる。

【授業方法（フィードバックの内容）】

毎回テーマにそって講義を進める。内容によって、演習、ディスカッションも行う。授業の中では、家庭で子どもを教育する場合の知識や技術について具体的に紹介する。受講生同士アイデアを出し合い、できる限り多くの知識・技術を習得できるようにする。さらに、毎回学んだ内容をまとめることで定着を図る。

【授業外学修の方法（時間数）】

この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学修を行うこと。事前学習では、予め次回テーマを伝えるので、それに関する情報収集等の予習を行うこと。事後学習では、毎回課題を課すため、必ず取り組み、学んだことを整理すること。

【成績評価（方法・基準）】

授業内容確認テスト（50％）、授業への取り組み（30％）、課題への取り組み（20％）により総合的に評価する。

【授業計画（各回の授業内容）】

第1回	家庭教育とは？ / 現代の家庭教育における課題
第2回	子どもの発達と家庭教育（その1）
第3回	子どもの発達と家庭教育（その2）
第4回	遊ぶこととしつけ
第5回	しつけをバッドサイクルからグッドサイクルへ / 家庭教育のポイント
第6回	家庭教育がうまくいかなるとき
第7回	子どもの発達を促す日常生活の工夫
第8回	子どもがかかえる要因別生活スキルの身につけ方（その1）
第9回	子どもがかかえる要因別生活スキルの身につけ方（その2）
第10回	子どもがかかえる要因別ソーシャルスキルの身につけ方（その1）
第11回	子どもがかかえる要因別ソーシャルスキルの身につけ方（その2）
第12回	子どもがかかえる要因別運動スキルの身につけ方
第13回	子どもがかかえる要因別認知 / 学習スキルの身につけ方
第14回	子どもの問題行動への対応
第15回	まとめ：授業全体の振り返り

【教科書・参考書】

教科書：毎回プリントを配布する。参考書：『むずかしい子を育てるペアレント・トレーニング』野口啓示著（明石書店）2009年、『家庭教育論』住田正樹著（放送大学教育振興会）2012年、『イラスト版 発達障害児の楽しくできる感覚統合 感覚とからだの発達をうながす生活の工夫と遊び』太田篤志著（合同出版）2013年、『発達に気になる子への生活動作の教え方』立石加奈子・中島そのみ著（中央法規）2013年、『発達に気になる子へのソーシャルスキルの教え方』立石加奈子・中島そのみ著（中央法規）2013年

【学生へのメッセージ】

家庭での教育は、保育所、幼稚園、学校以外を除いた場合、子どもにとってもっとも重要な経験です。子育ての専門家として関わる場合には、子育て支援について知識と技術を必要とします。もちろん欠席や遅刻は厳禁です。

【オフィスアワー】

火曜日：11：55～12：25、木曜日：11：55～12：25

【実務経験】

峡南地域就学相談員・山梨県立こころの発達総合支援センター臨時職員・障害児支援児童発達施設非常勤職員

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	福祉学専攻 専門科目		福祉理論系科目		
講義名	[01625] チームマネジメント【平成31年度生より】 法定科目				
期 間	後期（15回）	単 位 数	必修（2）	種 類	講義
対象学年	1年	2年	--	--	
担当者	中野 宏子		ナカノ ヒロコ	nakano hiroko	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
<p>(1) 対人援助に必要な人間の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得する学習とする。 (2) 介護の質を高めるために必要な、チームマネジメントの基礎的な知識を理解し、チームで働くための能力を養う学習とする。介護実践をマネジメントするために必要な組織の運営管理、人材の育成や活用等の人材管理、それらに必要なリーダーシップ・フォロワーシップ等、チーム運営の基本を理解する内容とする。</p>					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
利用者に対して、あるいは多職種協働で進めるチームマネジメントにおいて、円滑なコミュニケーションをとるための基礎的なコミュニケーション能力を養う。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
<p>多様化する社会に対応するために、医療・福祉・保健の分野では多職種が連携して利用者を支援していくのが主流となっています。連携・協働する際に求められるのが確かな力量のある専門職です。その専門職に必要とされるのが「チームマネジメント」の知識と実践力です。援助を行うのに必要な人間の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識、組織の運営管理、人材の育成や活用等の人材管理、それらに必要なリーダーシップ・フォロワーシップ等、チーム運営の基本を具体的に講義します。</p> <p>講義、グループワーク、個別指導など課題に応じて、コミュニケーション方法やリーダーシップを学習します。また、一定のトレーニングにより、各自のコミュニケーションの方法を振り返り、コミュニケーション力・ファシリテーション力を高めていきます。</p>					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学習120分：講義前に提示された課題について学修してくること。事後学習120分：講義後はノートや資料の整理を行い、講義内容の理解を深めること。					
【成績評価（方法・基準）】					
レポート(60%)、授業内テスト(30%)、授業参画度(10%) 授業参画度はリアクションペーパーなどによりを総合的に評価します。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	チームとは				
第2回	チームマネジメントとは				
第3回	チームマネジメントとコミュニケーション				
第4回	チームマネジメントと介護福祉士の役割				
第5回	多職種連携とチームマネジメント				
第6回	チームマネジメントと運営管理				
第7回	チームマネジメントと人材育成				
第8回	チームマネジメントの人材活用				
第9回	チームマネジメントと人材管理				
第10回	チームマネジメントとリーダーシップ				
第11回	リーダーシップと介護福祉士の役割				
第12回	チームマネジメントとフォロワーシップ				
第13回	チームマネジメントとチーム運営の基本				
第14回	チームマネジメントとチーム運営（応用）				
第15回	まとめ・総括				
【教科書・参考書】					
『人間の理解』第3版 介護福祉士養成講座1 介護福祉士養成講座編集委員会（編）中央法規2019年。参考書：『人間の理解のグループ・ダイナミクス』吉田道雄（ナカニシヤ出版）2001年、『チームワークの心理学：エビデンスに基づいた実践へのヒント』マイケルAウェスト（東京大学出版会）2014年。					
【学生へのメッセージ】					
多くのチームワークはうまくいかないということをよく聞きます。なぜなのか。メンバー、リーダーを問わずどうしたら問題解決につなげることができるのか、自分の問題として捉え、学修して下さい。					

【オフィスアワー】

火曜日10：30～12：00と水曜日1時限目（大学事務室を通じて予約してください）

【実務経験】

山梨県中央市社会福祉協議会7年。地域福祉全般の業務に携わり、各種団体と連携して地域事業を実施してきた経験を活かした授業にしたいと考えます。

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	福祉学専攻 専門科目		福祉理論系科目		
講義名	[01631] 社会調査の基礎				
期 間	前期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類	講義
対象学年	--	2 年	--	--	
担当者	國枝 俊弘		クニエダ トシヒロ	kunieda toshihiro	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
社会調査は社会の実態を把握するために必須な手法であると同時に、世論調査など普段の生活においても身近なものです。社会福祉の視点で、社会調査の目的、歴史と社会的意義について概説します。既存の社会調査の活用方法、および基本的な社会調査の設計方法を指導します。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
社会調査に関する基本的事項、社会調査の目的、歴史、方法論、各種調査方法とその長所と短所、調査倫理など知識と設計、分析の技本的な技能の習得を目標とします。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
パワーポイントを用いた講義形式ですが、可能な範囲で授業内で調査に関連するワーク等を通じて可能な限りディスカッションを行います。日常生活における社会調査に関する資料を見つける等を課題とする場合があります。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
この授業では、毎回それぞれ1時間以上の事前・事後の学習を行うこと。事前・事後では、学習講義中に作成したノートを見直しを行い、理解を深め、不明点を明確にすること。					
【成績評価（方法・基準）】					
学力確認テスト（80%）、およびレポート / 課題（20%）により総合評価します。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	社会調査とは - 社会調査の目的 -				
第2回	社会調査における倫理と個人情報の取り扱い				
第3回	社会調査の種類				
第4回	量的調査の手順				
第5回	アンケート票の設計の技術				
第6回	量的データの処理と解釈				
第7回	統計法（1）基礎的な統計処理				
第8回	統計法（2）多変量解析				
第9回	調査設計実習				
第10回	質的調査の特徴と種類				
第11回	観察法と面接法				
第12回	社会福祉における質的データの取り扱い				
第13回	インタビュー実習				
第14回	社会調査の実施におけるIT技術の活用				
第15回	総括				
【教科書・参考書】					
教科書なし。参考書：宮本和彦 梶原孝之 山村豊 編著 「社会福祉士シリーズ5 社会調査の基礎」 弘文堂 2008年、NHK放送文化研究所（編集） 「現代日本人の意識構造[第九版]」NHK放送文化研究所 2020年、木本書店・編集部 「2019年版 白書の白書」 木本書店 2019年					
【学生へのメッセージ】					
様々な情報が発信される現代社会において調査リテラシーは、社会福祉の場面だけでなく、日常生活でもより必要な力です。社会福祉に関わらず身近な情報について考え、発信することを求めます。					
【オフィスアワー】					
毎週授業の前後に教室にて受け付けます。					
【実務経験】					
社会調査会社に所属し、社会調査の実務だけでなく、統計分析の指導を行っています。					

対象年度	学科・科目	分野
令和2年度	福祉学専攻 専門科目	福祉理論系科目

講義名	[01634] 福祉行財政と福祉計画
-----	--------------------

期 間	後期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類	講義
-----	---------	-------	-------	-----	----

対象学年	--	2年	--	--
------	----	----	----	----

担当者	中野 宏子	ナカノ ヒロコ	nakano hiroko
-----	-------	---------	---------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

2000年の社会福祉法改正により、社会福祉分野に関わる施策、制度は大きく変化し、地方、特に市町村の主体的、積極的な対応の重要性が増しています。福祉専門職は現場実践の専門性のみならず、行財政を含む福祉の制度的な仕組と計画の意義についての理解が求められるようになりました。本授業では福祉行政の実施体制、福祉財政の動向、福祉計画の意義や目的、方法などに関する基礎的事項を体系的に講義します。

【授業修了時の達成課題（到達目標）】

福祉専門職に求められる行財政を含む福祉の制度的な仕組と計画の意義についての理解できる。さらに福祉行政の実施体制、福祉財政の動向、福祉計画の意義や目的、方法などに関する基礎的事項を理解できることを目標とします。

【授業方法（フィードバックの内容）】

授業は各回資料を提示します。その資料を基に体系的に講義します。また、講義に対する受講生のリアクションペーパーに記載された内容へのフィードバックを行います。これらを通して福祉行政の実施体制の役割、福祉の財源における国と地方の関係、福祉計画の目的や意義を踏まえ、具体的な各種計画の実際を理解する力を高めていきます。

【授業外学修の方法（時間数）】

この授業では、毎回それぞれ2時間以上の事前・事後の学習を行うこと。事前の学習では、授業ごとに該当する教科書の予習を行うこと。事後の学習では、授業中に提示した資料を基にまとめをしておくこと。

【成績評価（方法・基準）】

授業への取り組み姿勢（10%）小テスト（40%）学力確認テスト（50%）により総合的評価します。

【授業計画（各回の授業内容）】

第1回	福祉と制度
第2回	福祉の法制度の展開
第3回	福祉の法制度の展開
第4回	福祉行政の組織
第5回	福祉行政の実施体制
第6回	福祉財政（社会保障関係費の動向）
第7回	福祉財政（福祉サービスの利用と費用負担）
第8回	福祉行政の組織と団体
第9回	福祉行政の組織と団体と専門職の役割
第10回	福祉計画の意義・目的
第11回	福祉計画の基本的視点
第12回	福祉計画におけるニーズ把握・評価・住民参加
第13回	福祉計画の実際（介護保険事業計画等）
第14回	福祉計画の実際（地域福祉計画等）
第15回	総括

【教科書・参考書】

テキスト：「新・社会福祉士養成講座 第10巻 福祉行財政と福祉計画」 中央法規出版 2017年。参考書：『社会福祉行政』畑本祐介（法律文化社）2012年、『よくわかる福祉行財政と福祉計画』永田祐（ミネルヴァ書房）2018年。

【学生へのメッセージ】

授業内容に応じた資料を配布しますので、各自まとめておくようにしてください。授業中に扱った時事問題は、各自その問題の全容を確認して問題点を整理するようにしてください。また、日頃から各種メディアを通して福祉行財政等に関する諸問題をメモしておくようにしてください。

【オフィスアワー】

火曜日10：30～12：00と水曜日1時限目（大学事務室を通じて予約してください）

【実務経験】

山梨県中央市社会福祉協議会7年。地域福祉、高齢者団体事務局、居宅サービス、相談業務等、行政との関りの経験をかき、福祉現場の現実にも即した授業をします。

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	福祉学専攻 専門科目		福祉理論系科目		
講義名	[01638] 障害者福祉論 法定科目				
期 間	前期（15回）	単 位 数	選 択（2）	種 類	講義
対象学年	--	2年	--	--	
担当者	畠山 千春		ハタケヤマ チハル		hatakeyama chiharu
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
障害者の生活実態とこれを取巻く社会情勢について理解し、障害者の自立支援のための法律と支援の方策、専門職の役割等について考える。講義を中心とし、サービス施設訪問や障害者自身の声を聞く等の機会を設ける。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
共生社会を目指すため、障害者自立支援法における専門職の役割と実際について適確な知識と判断力を持つこと。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
テキストによって進める。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
この授業では、毎回それぞれ2時間以上の事前・事後の学習を行うこと。事前の学習では事前に配布する資料を予習すること。事後の学習では授業で提示したポイントや考え方をノートに整理すること。					
【成績評価（方法・基準）】					
授業への取り組み姿勢（20%）、中間レポート（30%）、小テスト（50%）の割合で総合的に評価します。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	障害者の生活実態 ～障害者が置かれている状況を中心に～				
第2回	「障害」とは、「障害者」とは ～改正障害者基本法、法律上の定義、障害者福祉の歩み～				
第3回	障害者福祉の思想と理念（1）：障害の概念 障害者観、人権尊重 ～障害者の権利に関する条約、障害者虐待防止法～				
第4回	障害者福祉の思想と理念（2）：ノーマライゼーション、インクルージョン、自立生活の思想				
第5回	障害者福祉の思想と理念（3）：リハビリテーション、エンパワメント、QOL				
第6回	DVDを鑑賞し課題をまとめる ～障害者運動草創期を戦った人々～				
第7回	障害者自立支援制度（1）障害者自立支援法・障害者総合支援法の創設の背景及び目的				
第8回	障害者自立支援制度（2）障害者総合支援法の仕組みと基礎的理解				
第9回	障害者総合支援法における組織及び団体、相談支援事業所の役割と実際				
第10回	障害者総合支援法における専門職の役割と実際、他職種連携、ネットワークング				
第11回	障害者が利用する各種制度 ～保健・医療、教育、雇用・労働～				
第12回	障害者を支援する生活基盤 ～経済生活、生活環境～				
第13回	障害者福祉の関連分野 ～スポーツ、芸術、ボランティア～				
第14回	当事者参加と諸活動				
第15回	まとめ ～障害者福祉の課題と展望～				
【教科書・参考書】					
テキスト：『障害者に対する支援と障害者自立支援制度』新・社会福祉士養成講座14 社会福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版。参考書：『こんな夜更けにばななかよ』渡辺一史著（北海道新聞社）2003年、『ノーマライゼーション原理とは何か』河東田博著（現代書館）2009年。					
【学生へのメッセージ】					
日頃から図書館を活用し、福祉に関係するニュース等をスクラップするなど、自分なりの勉強方法を見つけて欲しい。					
【オフィスアワー】					
授業の前後に教室にて対応します。					
【実務経験】					
なし					

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	福祉学専攻 専門科目		福祉理論系科目		
講義名	[01639] 児童福祉論【平成30年度生まで】				
期 間	前期（15回）	単 位 数	選 択（2）	種 類	講義
対象学年	--	2年	--	--	
担当者	小田切 則雄		オtagiri ノリオ		otagiri norio
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
児童福祉の必要性についての基本的視点について学ぶ。児童が健全に成長・発達する権利を有していることを理解する。児童福祉法やサービス体系について理解する。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
子どもを大切にする社会・地域環境とは何か、そのために家庭や地域・社会としてどのようなサポートをすればよいか、また児童福祉の歴史や児童福祉法及びその他の関連法規について学び、今後必要な施策などについて理解させる。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
教科書に沿って進めます。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
受講前にシラバスに示されたテキストの該当箇所を熟読し、用語の理解に努めること。受講後はノートを整理して講義内容の理解に努めること。事前事後学習時間についてはそれぞれ120分を目安とする。					
【成績評価（方法・基準）】					
授業への取り組み姿勢（25%）、試験結果（75%）などを総合的に評価する。受講前にシラバスに示されたテキストの該当箇所を熟読し、用語の理解に努めること。受講後はノートを整理して講義内容の理解に努めること。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	はじめに：児童福祉とは				
第2回	児童福祉の理念				
第3回	児童福祉の発展：日本における児童福祉の歩み				
第4回	児童福祉の発展：欧米における児童福祉の歩み				
第5回	子どもの権利				
第6回	子どもと家庭の権利保障				
第7回	現代社会と児童家庭福祉問題				
第8回	子ども家庭支援サービス				
第9回	社会的養護と自立支援サービス				
第10回	児童福祉の法体系				
第11回	児童福祉の体制				
第12回	児童福祉の財政				
第13回	福祉・保健・医療に係わる施策：児童健全育成				
第14回	福祉・保健・医療に係わる施策：保育				
第15回	まとめ - 児童福祉の動向 テスト				
【教科書・参考書】					
『社会福祉士養成講座 児童福祉論』 福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版					
【学生へのメッセージ】					
授業はビデオ等を用いてできるだけ具体的に進める嵐関があるが、学生も積極的に参加し意欲的な学習態度を期待する。					
【オフィスアワー】					
質問などは講義時間の前後で受け付ける。					
【実務経験】					
なし					

対象年度	学科・科目	分野
令和2年度	福祉学専攻 専門科目	福祉理論系科目

講義名	[01640] 就労支援・更生保護制度	
-----	---------------------	--

期 間	前期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類	講義
-----	---------	-------	-------	-----	----

対象学年	--	2年	--	--
------	----	----	----	----

担当者	濱島 幸彦	ハマジマ ユキヒコ	hamajima yukihiko
-----	-------	-----------	-------------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

社会内処遇を担う更生保護制度は、馴染みのない分野ですが、各種就労支援策とともにその重要性が見直されています。更生保護制度の概要、新たに打ち出されている就労支援策等について幅広く概説します。

【授業修了時の達成課題（到達目標）】

本講義では、各種の就労支援施策、更生保護制度の概要について理解する。社会内処遇を担う更生保護及び保護司等ボランティアの重要性について理解する。再犯防止のための就労支援施策、多機関連携及び協力雇用主の重要性について理解する。再犯率が上昇している高齢出所者等への支援策、特に福祉との連携の重要性について理解する。

【授業修了時の達成目標（到達目標）】

更生保護制度を幅広く理解するとともに、就労支援施策の活用や関係団体・組織との連携により就労支援を円滑に行う方法を学習することを、本授業の目標とします。

【授業方法（フィードバックの内容）】

講義は集中講義となります。講義内容は授業計画のとおりで、講義資料を配布します。特に、更生保護制度は馴染みがないため、DVDを使用するほか、事例研究等を行い、理解しやすいように配慮します。更生保護制度、就労支援は、社会福祉士資格取得のために必修科目となっており、各授業では社会福祉士国家試験問題（過去）にも取り組みます。

【授業外学修の方法（時間数）】

受講前に、シラバスに示されたテキストを熟読し、用語の理解に努めるとともに、受講後においては、ノートを整理するなどして、講義内容の理解に努めてください。

【成績評価（方法・基準）】

授業への取り組み姿勢（40%）及び課題レポート又は講義内試験の成績（60%）により総合的に評価します。

【授業計画（各回の授業内容）】

第1回	「社会内における再犯防止対策で重要と思う事項について」～レポートを作成する～
第2回	犯罪、非行の状況（平成27年版犯罪白書）、刑事司法手続き及び少年審判手続きと更生保護
第3回	更生保護とは。更生保護を担う機関・団体と人々
第4回	仮釈放等と生活環境の調整の概要
第5回	再犯防止のための新しい施策～就労支援策、住居確保策、刑の一部の執行猶予制度～
第6回	労働法規、労働市場の動向
第7回	働き方改革
第8回	障害者、低所得者等に対する就労支援
第9回	保護観察の概要（その1 指導・監督機能）
第10回	保護観察の概要（その2 援助・福祉的機能）～協力雇用主、地方自治体の就労支援、更生保護施設等～
第11回	医療観察制度の概要～医療観察事例等～
第12回	犯罪被害者支援施策の概要
第13回	恩赦、犯罪予防活動の概要
第14回	就労支援、更生保護の課題
第15回	まとめ・総括

【教科書・参考書】

テキスト：『更生保護入門』松本勝編著第5版（成文堂）及び社会福祉養成講座編集委員会編『就労支援サーブス』第2版（2010年・中央法規）

【学生へのメッセージ】

刑事司法の分野では、近年、社会福祉との連携強化が求められており、更生保護、就労支援関係では社会福祉系の学生が職員等として採用されることが増えています。この科目は、文献が少ないので、独自での勉強がしにくいところがあります。講義を聞く中で、疑問点は積極的に質問し、理解を深めて下さい。

【オフィスアワー】

集中講義のため、1日目、2日目は講義の前後に教室で受け付けます。

【実務経験】

更生保護40年の経験（東京観察所長等）を活かして、社会福祉士試験の過去問題にも取り組むことにしています。

対象年度	学科・科目			分野	
令和2年度	福祉学専攻 専門科目			福祉理論系科目	
講義名	[01642] 社会福祉援助技術論				
期 間	前期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類	講義
対象学年	--	2年	--	--	
担当者	檜木 博之		ナラキ ヒロユキ		naraki hiroyuki
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
ソーシャルワークとは何か、その中の一つであるグループワーク、ソーシャルアクションについて学ぶ科目です。ソーシャルワークの定義、グループワークの展開過程、ソーシャルアクション等について共に考えていきます。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
相談援助における人と環境との相互作用に関する理論について理解し、ソーシャルワークとは何かについて調べ、相談援助ができるようになる。相談援助の実際（権利擁護活動を含む）について理解し、グループワーク、社会活動の方法について調べ、実際に行うことができるようになる。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
テキストを中心に講義形式で授業を行う。授業中に毎回、いくつか課題を提示し考えてまとめていく。授業終了後はリアクションペーパーに授業のまとめ、感想等を記述する。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学習（120分）：該当のテキストを事前に読み、課題を明確にしておく。事後学習（120分）：授業で行った内容をテキストで確認し、リアクションペーパーにまとめる。レポート課題を作成する。					
【成績評価（方法・基準）】					
定期試験50% レポート提出30% リアクションペーパーの内容20% の配分で評価する。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	グループ援助の必要性				
第2回	グループ計画と援助チームの合意				
第3回	個別援助技術と集団援助技術の調和				
第4回	グループ援助と援助者の役割				
第5回	援助者の援助技術				
第6回	グループの特徴と規範				
第7回	プログラム活用の技術				
第8回	援助の終結期の援助行動				
第9回	グループのまとめと評価				
第10回	終結後の計画と記録				
第11回	社会福祉援助技術の適用と対象分野の現況				
第12回	社会福祉の運営管理 施設と行政				
第13回	社会活動のあゆみと現状				
第14回	社会活動のあゆみと現状				
第15回	総括				
【教科書・参考書】					
テキスト：『相談援助の理論と方法（第3版）』 新・社会福祉士養成講座8 福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版					
【学生へのメッセージ】					
社会福祉援助技術とは人と人との関係を良好にするための支援をねらいとするものでだれにも応用できるものであることを承知して受講されたい。					
【オフィスアワー】					
毎週授業の前後に教室にて受け付けます。					
【実務経験】					
社会福祉士					

対象年度	学科・科目		分野	
令和2年度	福祉学専攻 専門科目		福祉理論系科目	
講義名	[01643] 社会福祉援助技術論			
期 間	後期（15回）	単 位 数	選 択（2）	種 類 講義
対象学年	--	2 年	--	--
担当者	中野 宏子	ナカノ ヒロコ	nakano hiroko	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】				
日本の社会福祉は1990年の社会福祉法の改正以降、誰もが住み慣れた地域で暮らし続けられるように「地域での自立した生活」に主眼を置いた「地域福祉」が主流となっています。「地域福祉」に求められているものが「コミュニティソーシャルワーク」です。「コミュニティソーシャルワーク」の方法、技術、機能とはどのようなものか。従来の「社会福祉」とどのように違うのか、比較検討しながら「コミュニティソーシャルワーク」について概説します。				
【授業修了時の達成課題（到達目標）】				
社会福祉行政の動向の中で、求められる「コミュニティソーシャルワーク」の機能、技術、方法を理解する。地域の再構築とはどのようなことなのか、自分の考えをまとめられることを目標とします。				
【授業方法（フィードバックの内容）】				
テキストを中心に講義形式で授業を行う。授業中に毎回、いくつか課題を提示し考えてまとめていく。授業終了後はリアクションペーパーに授業のまとめ、感想等を記述する。				
【授業外学修の方法（時間数）】				
この授業では、毎回それぞれ2時間以上の事前・事後の学修を行うことを求めます。事前の学修では該当するテキストの章を読むこと。事後の学修では、授業で学んだ内容が実社会でどのように具現化されているのかをまとめること。				
【成績評価（方法・基準）】				
学力確認テスト50%・レポート提出30%・リアクションペーパーの内容20%の配分で評価する。				
【授業計画（各回の授業内容）】				
第1回	コミュニティワークとの理論と技術 地域援助技術の概念と基本的性格			
第2回	コミュニティワークとの理論と技術 地域社会の組織化			
第3回	コミュニティワークとの理論と技術 地域援助技術			
第4回	コミュニティワークとの理論と技術 地域援助技術の援助過程（その1）			
第5回	コミュニティワークとの理論と技術 地域援助技術の援助過程（その2）			
第6回	コミュニティワークとの理論と技術 地域援助技術の原則			
第7回	相談援助の記録（その1）			
第8回	相談援助の記録（その2）			
第9回	スーパービジョン			
第10回	スーパービジョン			
第11回	ケアマネジメントの意義			
第12回	ケアマネジメントとチームアプローチ			
第13回	ケアマネジメントの展開過程			
第14回	ケアマネジメントとケアプラン			
第15回	総括			
【教科書・参考書】				
テキスト：『コミュニティソーシャルワークの理論と実践』日本地域福祉研究所（中央法規）2015年。参考書：『コミュニティソーシャルワーク』平野隆之（有斐閣）2008年、『コミュニティソーシャルワークの新たな展開：理論と先進事例』宮城孝2019年。				
【学生へのメッセージ】				
日本の社会福祉で求められている「地域福祉」「コミュニティソーシャルワーク」とはどのようなものなのか。自分とどのような関りがあるのかを自分の問題として学修に取り組むようにしてください。				
【オフィスアワー】				
火曜日10：30～12：00と水曜日1時間目（大学事務室を通じて予約してください）				
【実務経験】				
山梨県中央市社会福祉協議会7年。地域福祉全般の業務、相談業務等に携わっていた経験を活かした授業にしたいと考えます。				

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	福祉学専攻 専門科目		福祉理論系科目		
講義名	[01645] 介護概論 法定科目				
期 間	前期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類	講義
対象学年	--	2年	--	--	
担当者	田淵 和子		タブチ カズコ	tabuchi kazuko	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
<p>「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習。また、介護における安全やチームケア等について理解する。自立支援の観点から介護予防につながるリハビリテーション論を学び介護実践できる能力を養う。介護福祉士の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を、支援するためのしくみを理解し、介護福祉士の専門職としての能力と態度を養う学習とする。ICFの視点に基づくアセスメントを理解し、エンパワメントの観点から、個々の状態に応じた自立を支援するための環境整備や介護予防、リハビリテーション等の意義や方法を理解する。</p>					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
リハビリテーションやレクリエーションの意義や必要性を学び、介護実践を通して介護を必要としている人の生きる意欲を引き出す生活環境や人間関係を支援できる。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
ビデオ、DVDを使用した講義を中心に討議や演習を取り入れながら進める。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うこと。					
【成績評価（方法・基準）】					
学力確認テスト（80％）、授業参画度（20％）。授業参画度は、毎回のリアクションペーパーなどにより評価します。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	オリエンテーション、 自立に向けた介護福祉のあり方（1）自立支援の考え方				
第2回	（2）ICFの考え方、1）介護におけるICFのとらえ方				
第3回	（3）自立支援とリハビリテーション、1）リハビリテーションとは、2）リハビリテーションの実際、3）リハビリテーションを考えるうえでの障害の理解と評価				
第4回	4）リハビリテーションのなかでの自立のとらえ方、リハビリテーションにおける介護福祉士の役割				
第5回	（4）福祉用具の意義、1）生活支援における福祉用具の重要性				
第6回	2）福祉用具の種類、3）適切な福祉用具を選ぶための視点				
第7回	（5）自立支援と介護予防、1）介護予防の概要、2）介護予防の種類と特徴、3）高齢者の身体特性と介護予防、				
第8回	4）介護予防の実際、5）自立支援と介護予防、6）介護予防における介護福祉士の役割				
第9回	（6）介護予防事例の検討、1）急性に発症する疾患をもつ利用者の事例検討、				
第10回	2）慢性に進行する疾患をもつ利用者の事例検討、				
第11回	3）急激に進行する疾患をもつ利用者の事例検討				
第12回	4）廃用症候群利用者の事例検討				
第13回	5）介護者への支援、6）他職種との連携による生活の再構築				
第14回	7）レクリエーションの視点と介護予防				
第15回	まとめ及び振り返り				
【教科書・参考書】					
『最新・介護福祉士養成講座3 介護の基本』介護福祉士養成講座編集委員会編（中央法規出版）2019、『最新・介護福祉士養成講座6 生活支援技術』介護福祉士養成講座編集委員会編（中央法規出版）2019。					
【学生へのメッセージ】					
受講前には、前回のテキストや資料に目を通し、テキスト、資料を必ず持参すること。					
【オフィスアワー】					
月曜日16:00～17:00と水曜日16:00～17:00。e-mail:tabuchi(a)min.ac.jp					
【実務経験】					
看護師経験：北里大学病院、千葉県がんセンター、日本赤十字社医療センター					

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	福祉学専攻 専門科目		福祉理論系科目		
講義名	[01646] 介護概論 法定科目				
期 間	前期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類	講義
対象学年	--	2年	--	--	
担当者	田淵 和子		タブチ カズコ	tabuchi kazuko	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習。また、介護における安全やチームケア等について理解する。介護福祉士の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を、支援するためのしくみを理解し、介護福祉士の専門職としての能力と態度を養う学習とする。介護を必要とする人の生活の個別性に対応するために、生活の多様性や社会との関りを理解する内容とする。介護をする人の生活を支援するという観点から、介護サービスや地域連携等、フォーマル・インフォーマルな支援を理解する内容とする。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
人間の多様性・複雑性の理解、高齢者や障害のある人の暮らしを理解する。介護を必要とする人の生活環境の理解。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
資料とビデオ・DVDを使用した講義を進める。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うこと。					
【成績評価（方法・基準）】					
学力確認テスト（80％）、授業参画度（20％）。授業参画度は、毎回のリアクションペーパーなどにより評価します。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	オリエンテーション、介護における安全確保とリスクマネジメント、（1）介護における安全の確保、1）介護福祉士の責務と安全の確保、2）介護の場におけるセーフティマネジメント				
第2回	3）安全を重要視する組織風土の醸成、4）利用者の尊厳の保持と安全な暮らしの提供を第一に考える				
第3回	（2）リスクマネジメントとは何か、1）尊厳のある暮らしの継続のためのリスクマネジメント、過誤・事故・苦情とは、苦情解決制度				
第4回	2）ルールや約束事を守ることの重要性、身体拘束				
第5回	3）福祉サービスに求められる安全・安心、予測する力、利用者の健康状態の観察、環境の整備				
第6回	3）正しい介護技術を理解する、介護者のストレスを軽減する、利用者・家族とのコミュニケーション 利用者の権利を守る				
第7回	4）事故防止のための対策、事故直後の対応、事故原因の分析と対策、リスクマネジメントの組織体制、生活の場の安全管理				
第8回	（3）感染症対策、1）介護福祉職に必要な感染に関する知識、感染症対策は目に見えないものへの対応				
第9回	生活の場における感染症対策、感染症対策の3原則、介護福祉職自身の健康管理が感染予防のはじめの一步 手洗いは感染症対策の基本、標準予防策の重要性、感染症対策の適切な考え方とその普及				
第10回	同上 施設内の整理整頓および清潔保持、利用者の健康状態について把握しておく、他職種との連携の必要性、感染発生時の対応、				
第11回	個別の感染症対策：よく見られる感染症の原因・感染源、症状・特徴、感染予防、発生時の対応（その1）				
第12回	個別の感染症対策：よく見られる感染症の原因・感染源、症状・特徴、感染予防、発生時の対応（その2）				
第13回	個別の感染症対策：よく見られる感染症の原因・感染源、症状・特徴、感染予防、発生時の対応（その3）				
第14回	薬剤耐性の知識、2）安全な薬物療法を支える視点・連携、服薬管理の工夫・留意事項、利用者本人を含めて、他職種で連携する				
第15回	まとめ及び振り返り				
【教科書・参考書】					
『新・介護福祉士養成講座4 介護の基本』介護福祉士養成講座編集委員会編（中央法規出版）2017、『最新・介護福祉士養成講座4 介護の基本』介護福祉士養成講座編集委員会編（中央法規出版）2019、『最新・介護福祉士養成講座6 生活支援技術』介護福祉士養成講座編集委員会編（中央法規出版）2019。					
【学生へのメッセージ】					
受講前には、前回のテキストや資料に目を通し、テキスト、資料を必ず持参すること。受講後は、復習をし大切なポイントを整理しておくこと。					

【オフィスアワー】

月曜日16:00～17:00と水曜日16:00～17:00、e-mail:tabuchi(a)min.ac.jp

【実務経験】

看護師経験：北里大学病院、千葉県がんセンター、日本赤十字社医療センター

対象年度	学科・科目		分野	
令和2年度	福祉学専攻 専門科目		福祉理論系科目	
講義名	[01647] コミュニケーション技術 法定科目			
期 間	前期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類 講義
対象学年	--	2年	--	--
担当者	田淵 和子		タブチ カズコ	tabuchi kazuko
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】				
対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う学習とする。本人、家族等との関係性の構築やチームケアを実践するための、コミュニケーションの基礎的な知識・技術を習得する。/ 本人の置かれている状況を理解し、支援関係の構築や意志決定を支援するためのコミュニケーションの基本的な技術を習得する内容とする。家族の置かれている状況・場面を理解し、家族への支援やパートナーシップを構築するためのコミュニケーションの基本的な技術を習得する内容とする。				
【授業修了時の達成課題（到達目標）】				
家族及び利用者に対する精神的支援や援助のために、実践的なコミュニケーション能力を養う。				
【授業方法（フィードバックの内容）】				
講義を中心に演習、実習（ロールプレイング）等を取り入れながら進める。				
【授業外学修の方法（時間数）】				
事前学習90分：前回の学習内容を復習し理解しておくこと。事後学習90分：当日の学習内容のポイントをノートに整理しておくこと。				
【成績評価（方法・基準）】				
学力確認テスト（80％）、授業参画度（20％）。授業参画度は、毎回のリアクションペーパーなどにより評価します。				
【授業計画（各回の授業内容）】				
第1回	1．介護におけるコミュニケーションの基本（1）介護におけるコミュニケーションとは、1）介護におけるコミュニケーションの意義と目的			
第2回	2）介護におけるコミュニケーションノ展開過程、(演習)あなたのコミュニケーションスタイルは			
第3回	(2)介護におけるコミュニケーションの対象、1)コミュニケーションの果たす役割、2)介護福祉職の職務とコミュニケーション、3)介護福祉職のコミュニケーション支援の対象、			
第4回	(3)援助関係とコミュニケーション、1)援助関係の特徴、2)援助関係を構築するための原則、3)介護における援助関係を意識したコミュニケーション			
第5回	2．コミュニケーションの基本技術（1）コミュニケーション態度に関する基本技術、1）傾聴			
第6回	2）受容、3）共感、			
第7回	4）コミュニケーションにおける距離、(演習)話を聴く態度			
第8回	(2)言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本、1)言語コミュニケーション、2)言語以外を使ったコミュニケーション、(演習)感情をあらわす言葉			
第9回	(3)目的別のコミュニケーション技術、1)動機づけ、2)もの見方に変化を生み出す技術、			
第10回	3)意思決定を支援するためのコミュニケーション、(演習)リフレーミングのトレーニング			
第11回	(4)集団におけるコミュニケーション技術、1)集団でコミュニケーションをはかる意義、2)集団とは、3)集団の種類、4)集団運営の留意点			
第12回	3．家族とのコミュニケーション（1）家族との関係づくり、			
第13回	(2)家族への助言・指導・調整、(3)家族関係と介護ストレスへの対応			
第14回	介護事例の検討、振り返り			
第15回	まとめ及び振り返り			
【教科書・参考書】				
『新・介護福祉士養成講座5 コミュニケーション技術』介護福祉士養成講座編集委員会編（中央法規出版）2017、『最新・介護福祉士養成講座5 コミュニケーション技術』介護福祉士養成講座編集委員会編（中央法規出版）2019。				
【学生へのメッセージ】				
受講前には、前回のテキストや資料に目を通し、テキスト、資料を必ず持参すること。受講後は、復習をし大切なポイントを整理しておくこと。				
【オフィスアワー】				
月曜日（16:00～17:00）と水曜日（16:00～17:00）、e-mail:tabuchi(a)min.ac.jp				

【実務経験】

看護師経験：北里大学病院、千葉県がんセンター、日本赤十字社医療センター

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	福祉学専攻 専門科目		福祉理論系科目		
講義名	[01648] コミュニケーション技術 法定科目				
期 間	後期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類	講義
対象学年	--	2年	--	--	
担当者	田淵 和子		タブチ カズコ	tabuchi kazuko	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う学習とする。本人、家族等との関係性の構築やチームケアを実践するための、コミュニケーションの基礎的な知識・技術を習得する。 / 情報を適切にまとめ、発信するために、介護実践における情報の共有化の意義を理解し、その具体的な方法や情報の管理について理解する内容とする。介護におけるチームのコミュニケーションの手段として記録による情報の共有化を学ぶ。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
介護現場で協働する関係者と情報を適切に共有するため、記録や報告書を作成する意味を理解し介護現場に活かせるようになる。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
ビデオ、DVD等の視聴覚教材を使用した講義を中心に演習、グループ討議を取り入れながら進める。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学習90分：前回の学習内容を復習し理解しておくこと。事後学習90分：当日の学習内容のポイントをノートにまとめておくこと。					
【成績評価（方法・基準）】					
学力確認テスト（80％）、授業参画度（20％）、授業参画度は毎回のリアクションペーパーなどにより評価します。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	.対象者の特性に応じたコミュニケーション、1.コミュニケーション障害への対応の基本（1）コミュニケーション障害とは、（2）コミュニケーション障害の原因				
第2回	（3）アセスメント、（4）コミュニケーション支援の基本				
第3回	2.さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援、（1）視覚障害のある人への支援				
第4回	（2）聴覚障害のある人への支援				
第5回	（3）構音障害のある人への支援、（4）失語症の人への支援				
第6回	（5）認知症の人への支援				
第7回	（6）うつ病・抑うつ状態の人への支援、（7）統合失調症の人への支援				
第8回	（8）知的障害に応じたコミュニケーション技術				
第9回	（9）発達障害のある人への支援				
第10回	（10）高次脳機能障害のある人への支援				
第11回	（11）重症心身障害のある人への支援、.家族とのコミュニケーション、（1）家族関係と介護ストレスへの対応				
第12回	.介護におけるチームのコミュニケーション、（1）チームのコミュニケーションとは、（2）報告・連絡・相談の技術				
第13回	（3）記録の技術、（4）会議・議事進行・説明の技術				
第14回	（5）事例検討に関する技術、（6）情報の活用と管理のための技術				
第15回	まとめ及び振り返り				
【教科書・参考書】					
『新・介護福祉士養成講座5 コミュニケーション技術』介護福祉士養成講座編集委員会編（中央法規出版）2017、『最新・介護福祉士養成講座5 コミュニケーション技術』介護福祉士養成講座編集委員会編（中央法規出版）2019。					
【学生へのメッセージ】					
受講前には、前回のテキストや資料に目を通し、テキスト、資料を必ず持参すること。受講後は、復習をし大切なポイントを整理しておくこと。					
【オフィスアワー】					
月曜日16:00～17:00と水曜日16:00～17:00、e-mail:tabuchi(a)min.ac.jp					
【実務経験】					
看護師経験：北里大学病院、千葉県がんセンター、日本赤十字社医療センター					

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	福祉学専攻 専門科目		福祉理論系科目		
講義名	[01649] 認知症の理解 法定科目				
期 間	前期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類	講義
対象学年	--	2年	--	--	
担当者	今沢 えみ子		イマザワ エミコ	imazawa emiko	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
認知症のある人の生活を支えるという観点から、医療職と連携し支援を行うための、心身の機能及び関連する障害や疾病の基礎的な知識を身につける。 / 認知症のケアの歴史や理念を含む、認知症を取り巻く社会的環境について理解する内容とする。 医学的・心理的側面から、認知症の原因となる疾病及び段階に応じた心身の変化や心理症状を理解し、生活支援を行うための根拠となる知識を理解する内容とする。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得する。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
テキスト中心に講義します。授業の前半には知識中心に講義し、後半では知識を基にした課題を行います。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うこと。					
【成績評価（方法・基準）】					
学力確認テスト50%、中間レポート20%、授業への取り組み姿勢30%					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	ガイダンス				
第2回	認知症の定義				
第3回	認知症ケアの歴史				
第4回	認知症の中核症状				
第5回	認知症の行動症状、心理症状				
第6回	脳の仕組み				
第7回	同上				
第8回	認知症原因疾患				
第9回	同上				
第10回	同上				
第11回	認知症の診断と治療				
第12回	認知症の予防				
第13回	認知症の人の心理的理解				
第14回	認知症の人の体験理解				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
教科書：新・介護福祉士養成講座12 認知症の理解 第3版。参考書：「私、バリバリの認知症です」太田正博著クリエイツかもがわ 認知症になった私が伝えたいこと」佐藤雅彦著 大月書店。					
【学生へのメッセージ】					
受講にあたり教科書、指示した参考書は必ず読んでおく事。授業中に指示した書籍を読み復習をし、まとめノートを作っておくことが望ましい。					
【オフィスアワー】					
毎週授業の前後に教室にて受け付けます。					
【実務経験】					
精神科病院、看護教員18年認知症の人のケアや心の理解など事例を取り入れる授業をします。					

対象年度	学科・科目			分野	
令和2年度	福祉学専攻 専門科目			福祉理論系科目	
講義名	[01650] 認知症の理解 法定科目				
期 間	後期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類	講義
対象学年	--	2 年	--	--	
担当者	今沢 えみ子		イマザワ エミコ		imazawa emiko
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
認知症のある人の心身の機能が生活に及ぼす影響について理解し、本人と家族が地域で自立した生活を継続するために必要とされる心理・社会的な支援について基礎的な知識を身につける。 / 認知症の人の生活及び家族や社会との関わりへの影響を理解し、その人の特性を踏まえたアセスメントを行い、本人主体の理念に基づいた認知症ケアの実践につながる内容とする。 認知症の人の生活を地域で支えるサポート体制や、多職種連携・協働による支援の基礎的な知識を理解する内容とする。 認知症の人を支える家族の課題について理解し、家族の受容段階や介護力に応じた支援につながる内容とする。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
認知症の人を中心に据え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアやサポート支援体制の在り方について理解するための基礎的な知識を習得する。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
授業の前半には講義中心に知識を習得し後半では視聴覚教材や課題を中心に授業をし受講生の理解度を深めていきます。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うこと。事前学習ではテキスト中心に学習し、事後学習では、授業中に提示した課題や書籍を読み、まとめノートを作成すること。					
【成績評価（方法・基準）】					
学力確認テスト50%、中間レポート20%、授業への取り組み姿勢30%。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	ガイダンス				
第2回	認知症の人の生活理解				
第3回	認知症の人をめぐる3つの環境要素				
第4回	若年性認知症の人の生活の理解と支援				
第5回	同上				
第6回	認知症の人の介護過程				
第7回	同上				
第8回	認知症の進行に応じた介護				
第9回	同上				
第10回	地域におけるサポート体制				
第11回	チームアプローチ				
第12回	家族への支援				
第13回	同上				
第14回	認知症に関する制度				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
教科書：新・介護福祉士養成講座12 認知症の理解 第3版。参考書：「若年性認知症になった夫と生きぬいて 800日の夜と朝」新井雅江著 harunosora。「認知症の9大法則50症状と対応策」杉山孝博著 法研。					
【学生へのメッセージ】					
事前に指示した参考書は必ず読んでおく事。講義中の課題をまとめノートを作成しまとめること。					
【オフィスアワー】					
毎週授業の前後に教室にて受け付けます。					
【実務経験】					
精神科病院、看護教員18年認知症の人のケアや心の理解の為に事例を取り入れる授業をします。					

対象年度	学科・科目			分野		
令和2年度	福祉学専攻 専門科目			福祉理論系科目		
講義名	[01651] 障害者の理解 法定科目					
期 間	前期（15回）		単 位 数	選 択（2）	種 類	講 義
対象学年	--	2年	--	--		
担当者	田淵 和子		タブチ カズコ		tabuchi kazuko	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】						
障害のある人の生活を支えるという観点から、医療職と連携し支援を行うための、心身の機能及び関連する障害や疾病の基礎的な知識を身につける。 / 障害のある人の生活を支援するという観点から、障害の概念や、障害の特性に応じた制度の基礎的な知識を理解する内容とする。 医学的・心理的側面から、障害による心身への影響や心理的な変化を理解する内容とする。						
【授業修了時の達成課題（到達目標）】						
障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得する。						
【授業方法（フィードバックの内容）】						
ビデオ・DVD等を使用した講義、演習で進める。						
【授業外学修の方法（時間数）】						
この授業では、毎回それぞれ90分以上の事前・事後の学習を行うこと。						
【成績評価（方法・基準）】						
学力確認テスト（80%）、授業参画度（20%）、授業参画度は、毎回のリアクションペーパーなどにより評価します。						
【授業計画（各回の授業内容）】						
第1回	オリエンテーション、 障害の概念と障害者福祉の基本理念、 1．傷害の概念、（1）障害のとらえ方					
第2回	（2）ICIDHからICFへの変遷、（3）障害者の概数、（4）障害者の定義					
第3回	2．障害者福祉の基本理念、（1）ノーマライゼーション、（2）リハビリテーション、（3）インクルージョン（4）エンパワメント、（5）ストレングス、（6）国際障害年、（7）障害者権利条約、（8）アドボカシー					
第4回	3．障害者福祉に関する制度（1）障害者総合支援法、（2）障害者差別解消法（3）障害者虐待防止法（4）障害者の就労支援（5）成年後見制度					
第5回	4．障害者福祉制度と介護保険制度、（1）障害者福祉制度よ介護保険制度の違い、（2）障害福祉サービスと介護保険サービスの併用					
第6回	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援、（1）障害のある人の心理					
第7回	（2）肢体不自由（運動機能障害）のある人への支援、（3）視覚障害のある人への支援					
第8回	（4）聴覚障害のある人への支援、（5）言語障害のある人への支援					
第9回	（6）重症心身障害のある人への支援、（7）知的障害のある人への支援					
第10回	（8）精神障害のある人への支援、（9）高次脳機能障害のある人への支援					
第11回	（10）発達障害のある人への支援、					
第12回	連携と協働 （1）地域のサポート体制、					
第13回	（2）チームアプローチ					
第14回	家族への支援、（1）家族への支援とは、（2）家族の介護力の評価と介護負担の軽減					
第15回	まとめおよび振り返り					
【教科書・参考書】						
『新・介護福祉士養成講座13 障害の理解』介護福祉士養成講座編集委員会編（中央法規出版）2017、 『最新・介護福祉士養成講座14 障害の理解』介護福祉士養成講座編集委員会編（中央法規出版）2019。						
【学生へのメッセージ】						
受講前には、前回のテキストや資料に目を通し、テキスト、資料を必ず持参すること。受講後は、復習をし大切なポイントを整理しておくこと。						
【オフィスアワー】						
月曜日16:00～17:00と水曜日16:00～17:00、 e-mail:tabuchi(a)min.ac.jp						
【実務経験】						
看護師経験：北里大学病院、千葉県がんセンター、日本赤十字社医療センター						

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	福祉学専攻 専門科目		福祉理論系科目		
講義名	[01652] 障害者の理解 法定科目				
期 間	後期（15回）	単 位 数	選 択（2）	種 類	講義
対象学年	--	2年	--	--	
担当者	今沢 えみ子		イマザワ エミコ	imazawa emiko	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
障害のある人の心身の機能が生活に及ぼす影響について理解し、本人と家族が地域で自立した生活を継続するために必要とされる心理・社会的な支援について基礎的な知識を身につける。 / 障害のある人のライフステージや障害の特性を踏まえ、機能の変化が生活に及ぼす影響を理解し、QOLを高める支援につながる内容とする。 障害のある人の生活を地域で支えるためのサポート体制や、多職種連携・協働による支援の基礎的な知識を理解する内容とする。 障害のある人を支える家族の課題について理解し、家族の受容段階や介護力に応じた支援につながる内容とする。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
障害のある人の地域での生活を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得する。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
授業の前半で、テキストを中心とした知識の習得 授業の後半で、テキストより学んだ知識について、DVDや事例をもとに障害のある人の支援方法を学ぶ。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うこと。事前学習90分：テキストをあらかじめ読んでおくこと。事後学習90分：授業中に解説した問題を復習すること。					
【成績評価（方法・基準）】					
学力確認テスト（40％）、授業への取り組み姿勢（20％）、中間レポート（10％）、小テスト（30％）					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	心臓機能障害のある人の生活				
第2回	腎臓機能障害のある人の生活				
第3回	呼吸機能障害のある人の生活				
第4回	膀胱、直腸機能障害のある人の生活				
第5回	ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害のある人の生活、肝機能障害のある人の生活				
第6回	難病のある人の生活				
第7回	障害のある人に対する介護の基本的視点（自己決定、エンパワーメント、権利擁護）				
第8回	基本的視点に基づいた個別支援（医学モデル、社会モデル等）				
第9回	社会資源の利用と開発（福祉用具、車椅子のフットイング、シーティング等）				
第10回	家族への支援				
第11回	家族の状態の把握と介護負担の軽減				
第12回	障害のある人の家族をささえる為に必要な事				
第13回	保健、医療、福祉、教育、労働サービスの連携				
第14回	地域におけるサポート体制				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
『障害の理解』第3版 新・介護福祉士養成講座13 中央法規出版					
【学生へのメッセージ】					
授業中に指示した書籍を読み、復習をして受講する事が望ましい。指示した参考書籍は必ず読んでおくこと。					
【オフィスアワー】					
毎週授業の前後に教室にて受け付けます。					
【実務経験】					
精神科病院、肢体不自由児施設、看護教員23年認知症の人のケアや心の理解の為に事例を取り入れる授業をします。					

対象年度	学科・科目	分野
令和2年度	福祉学専攻 専門科目	福祉理論系科目

講義名	[01653] 保育の心理学 【平成30年度生まで】				
-----	----------------------------	--	--	--	--

期 間	前期（15回）	単 位 数	選択（1）	種 類	演習
-----	---------	-------	-------	-----	----

対象学年	--	2年	--	--
------	----	----	----	----

担当者	手塚 知子	テヅカ トモコ	tezuka tomoko
-----	-------	---------	---------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

保育実践における具体的事例をもとに、子どもや保護者に対する支援方法や保育者の役割について学生同士の意見交換を行う。またディスカッションやロールプレイなどを通して、知識を多角的に身につけることができる機会を設ける。

【授業修了時の達成課題（到達目標）】

この授業では、保育の心理学の内容を踏まえて、より実践的に子どもの発達と保育者の役割について理解を深めることを目的としている。子ども同士のかかわりの広がりや、学びの過程で遊びが果たす役割、保育者の援助のポイントについて解説すると共に、発達援助について、事例検討など実践的な課題を通して理解を深める。この授業を受講することで、子どもの心身の発達ならびに保育実践について理解を深めることや、生活と遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習の過程を理解することができる。また、事例について自ら考え、話し合うことができる力も養える。

【授業方法（フィードバックの内容）】

授業はグループワークを中心に行う。教科書をもとに、基本的な用語について解説したのち、保育場面で子どもの行動にどう対応するか戸惑ったりする事例について、自分なりに理解や対応を考え、受講者同士で話し合い、理解を深めていく。

【授業外学修の方法（時間数）】

毎回それぞれ60分以上の事前・事後の学修を行うこと。事前学習では、教科書を読み、内容や用語について予習を行うこと。事後学習では、毎回課題を課すため、学んだことを整理し、必ず課題を行ってこること。

【成績評価（方法・基準）】

授業内容確認テスト（50％）授業への取り組み（30％）、課題への取り組み（20％）により総合的に評価する。

【授業計画（各回の授業内容）】

第1回	オリエンテーション / 言葉の発達
第2回	言葉の発達ワーク / 仲間関係の発達
第3回	仲間関係の発達ワーク / 自己主張と自己抑制
第4回	自己主張と自己抑制ワーク / 社会性と情緒の発達
第5回	社会性と情緒の発達ワーク / 知的発達
第6回	知的発達ワーク / 学習理論
第7回	学習理論ワーク / 身辺自立と自己決定
第8回	身辺自立に関するワーク / 個人差に配慮した保育
第9回	個人差に配慮した保育ワーク / 気になる行動の理解と対応に関するワーク
第10回	家族支援 / 子どもの様子を伝えるワーク
第11回	家族支援ワーク / 特別なニーズのある子どもに対する支援
第12回	特別なニーズのある子どもに対する支援ワーク / 保育におけるカウンセリングマインド
第13回	保育におけるカウンセリングマインドワーク / 就学に向けた支援
第14回	就学に向けた支援ワーク / 連絡帳や送迎時の保護者とのやりとりに関するワーク
第15回	まとめ：授業全体を振り返る

【教科書・参考書】

教科書：『実践・発達心理学ワークブック 子どもとかわる力を培う』青木紀久代編（みらい）2013年、参考書：『保育に生かす心理臨床』馬場禮子・青木紀久代編（ミネルヴァ書房）2002年、『保育の心理学』清水益治・無藤隆編（北大路書房）2011年

【学生へのメッセージ】

保育の心理学の内容を踏まえた演習となります。授業時間中だけでなく宿題の形で課題に取り組むことも多くなるので、きちんとやってくるのが何より大事になります。課題について自分なりに考えるようにしないと学びが半減してしまうので、この授業をきっかけに、具体例についてたくさん考えてみましょう。

【オフィスアワー】

火曜日：11：55～12：25、木曜日：11：55～12：25

【実務経験】

峡南地域就学相談員・山梨県立こころの発達総合支援センター臨時職員・障害児支援児童発達施設非常勤職員

対象年度	学科・科目		分野	
令和2年度	福祉学専攻 専門科目		福祉理論系科目	
講義名	[01654] 家庭支援論【平成30年度生まで】			
期 間	前期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類
対象学年	--	2年	--	--
担当者	稲永 澄子	イナナガ スミコ	inanaga sumiko	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】				
保育士の法的な位置づけを知り、その役割や仕事の内容を学ぶ。児童福祉法、保育所保育指針、幼稚園教育要領、全国保育士会倫理綱領、子育て支援施策の経緯、子ども・子育て関連3法、子ども子育て新制度、子ども・子育て会議、利用者支援事業、社会資源、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、虐待、不適切養育、逆境（ACEスコア）、要保護児童、社会的養護、発達障害、ペアレントプログラム、保護者指導、地域連携。				
【授業修了時の達成課題（到達目標）】				
現代の家庭が置かれている状況を理解し、適切に援助するための基礎知識を得る。実際の、家庭支援の現場を見学し、生きた知識を得る。				
【授業方法（フィードバックの内容）】				
講義とディスカッション。最後に見学実習（葦崎市子育て支援センターにらちび）を予定。				
【授業外学修の方法（時間数）】				
この授業では、毎回それぞれ1時間程度の事前・事後の学習を行うこと。事前学習は、あらかじめ指示された章を読み、各自、問題提起と下調べをしてくる。授業でディスカッションする。事後学習は、授業を振り返りながら教科書を読みなおし、要点をノートに整理する。				
【成績評価（方法・基準）】				
積極的に学ぶ姿勢を重視する。出席率が50%以下の場合、単位は与えられない。				
【授業計画（各回の授業内容）】				
第1回	子ども家庭支援の意義と必要性			
第2回	子ども家庭支援の目的と機能			
第3回	子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進			
第4回	子育て家庭の福祉を図るための社会資源			
第5回	保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義			
第6回	子どもの育ちの喜びの共有			
第7回	保護者および地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援			
第8回	保育士に求められる基本的態度			
第9回	家庭の状況に応じた支援			
第10回	地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力			
第11回	子ども家庭支援の内容と対象			
第12回	保育所等を利用する子供の家庭への支援			
第13回	地域の子育て家庭への支援			
第14回	要保護児童およびその家庭に対する支援			
第15回	拠点型子育て支援センター（にらちび）の見学実習			
【教科書・参考書】				
新基本保育シリーズ5「子ども家庭支援論」公益財団法人児童育成協会監修 松原康雄他編集（中央法規）をテキストとして使用する。				
【学生へのメッセージ】				
積極的に子ども家庭支援を学ぼうとする意欲溢れる学生を望む。				
【オフィスアワー】				
講義の時間帯				
【実務経験】				
小中学校で文科省スクールカウンセラー9年。約20年間住吉病院で、摂食障害家族会を医師と実施。様々な困難を抱える家族への支援のありかたを伝える。				

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	福祉学専攻 専門科目		福祉理論系科目		
講義名	[01655] 社会的養護【平成30年度生まで】				
期 間	前期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類	講義
対象学年	--	2 年	--	--	
担当者	小田切 則雄		オtagiri ノリオ	otagiri norio	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
児童養護はすべての児童の健全な成長発達過程を援助し、幸福で自立した生活を送る事ができるように働きかける活動や福祉サービスを意味する。子どもの養護を实践する上で理解すべき基本的な事柄である「子どもとは」「養護とは」などを根本から考えていく。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
児童養護の制度やその領域、対象となる児童、そして施設養護の特質、基本原理、社会福祉援助技術などの理解を深める。児童福祉施設の職員として、職員の果たすべき役割、仕事の内容などについても学ぶ。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
教科書に沿って進めます。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
受講前にシラバスに示されたテキストの該当箇所を熟読し、用語の理解に努めること。受講後はノートを整理して講義内容の理解に努めること。事前・事後学習時間については、それぞれ120分を目安とする。					
【成績評価（方法・基準）】					
授業への取組の姿勢（25%）、試験結果（75%）などを総合的に評価する。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	養護における子ども観				
第2回	子どもの権利について				
第3回	児童にとっての家庭と社会				
第4回	施設における児童養護				
第5回	児童養護の制度				
第6回	養育環境に問題がある児童の施設養護				
第7回	障害のある児童の施設養護				
第8回	情緒行動面に問題がある児童の施設養護				
第9回	家庭的養護：里親制度・養子制度・グループホーム				
第10回	施設養護の実践と方法 日常生活				
第11回	施設養護の実践と方法 自立に向けての援助				
第12回	治療的・支援的援助、親子関係、学校、地域などとの関係調整				
第13回	児童福祉施設の運営・管理と援助者				
第14回	児童養護における今後の課題				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
第8巻「養護原理」全国社会福祉協議会発行 改定・保育士養成講座編纂委員会編 2007年					
【学生へのメッセージ】					
授業はビデオ等を用いてできるだけ具体的に進める嵐開があるが、学生も積極的に参加し意欲的な学習態度を期待する。					
【オフィスアワー】					
質問などは講義時間の前後で受け付ける。					
【実務経験】					
なし					

対象年度	学科・科目		分野	
令和2年度	福祉学専攻 専門科目		福祉理論系科目	
講義名	[01656] 子どもの保健 - 1 【平成30年度生まで】			
期 間	後期（15回）	単 位 数	選 択（2）	種 類 講義
対象学年	--	2年	--	--
担当者	田淵 和子	タブチ カズコ	tabuchi kazuko	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】				
子どもの成長発達を支える保健活動の意義と目的、現代社会における子どもの健康に関する現状と課題、地域における保健活動と子どもの虐待防止について概説する。				
【授業修了時の達成課題（到達目標）】				
1. 子どもの成長発達過程及び成長発達に影響する要因について理解する。2. 現代社会の中の子どもの健康問題について関心を持ち考えられる。				
【授業方法（フィードバックの内容）】				
主としてプリント資料、視聴覚教材（ビデオ・DVDなど）を用いた講義。課題に沿ってディスカッション、演習も取り入れる。				
【授業外学修の方法（時間数）】				
事前学習90分 前回の学習内容をプリント、ノートなどで復習し理解しておくこと。事後学習90分 当日の学習内容のポイントをノートにまとめておくこと。				
【成績評価（方法・基準）】				
学力確認テスト(80%)、授業参画度(20%)、授業参画度は、毎回のリアクションペーパーなどにより評価します。				
【授業計画（各回の授業内容）】				
第1回	オリエンテーション .子どもの健康と保健（1）保健活動の意義と目的、1）子どもの保健とは、2）子どもの保健で扱うこと			
第2回	3）保育所保育指針での取り扱い、4）これからの子ども保健			
第3回	（2）子どもの出生と母子保健の意義、1）胎児の発育、2）出生の過程、3）出生後の新生児、4）母子保健の意義			
第4回	（3）現代社会における子どもの健康に関する現状と課題、1）母子保健の現状、2）出生に関する統計、3）死亡に関する統計、			
第5回	4）子どもの発育の変化、5）乳幼児の運動・言語機能発達の変化、6）子どもの体力・運動能力の変化			
第6回	.子どもの発育・発達と保健、（1）子どもの身体発育と運動機能の発達、1）子どもの発育と発達、2）乳幼児の身体計測の仕方			
第7回	3）標準的な子どもの身体発育、4）発育の評価の仕方			
第8回	5）身体発育に影響を与える因子、6）子どもの運動機能の発達			
第9回	（2）生理機能の発達と生活習慣、1）体温調節の発達、2）呼吸系の発達、3）循環系の発達、			
第10回	4）体液調節の発達、5）消化機能の発達、6）排泄機能の発達、7）睡眠の発達			
第11回	.子どもの健康状態の観察と体調不良時の把握（1）子どもの健康状態の把握、（2）子どもの体調不良時によくみられる症状			
第12回	.成長発達の評価、健康状態の評価（演習）			
第13回	V.地域における保健活動と子どもの虐待防止、（1）地域における保健活動、（2）子どもの虐待の現状			
第14回	（3）子どもの虐待の実際、（4）子どもの虐待への対応、（5）子どもの虐待防止の取り組み			
第15回	まとめ及び振り返り			
【教科書・参考書】				
『新版 子どもの保健』佐藤益子他著（ななみ書房）2017、『新版 子どもの保健』佐藤益子他著（ななみ書房）2018、『授業で現場で役に立つ！子どもの保健テキスト』小林美由紀編著（診断と治療社）2018。				
【学生へのメッセージ】				
受講前には、前回のテキストや資料に目を通し、テキスト、資料を必ず持参すること。受講後は、復習をし大切なポイントを整理しておくこと。				
【オフィスアワー】				
月曜日16:00～17:00と水曜日16:00～17:00、e-mail:tabuchi(a)min.ac.jp				
【実務経験】				
看護師経験：北里大学病院、千葉県がんセンター、日本赤十字社医療センター				

対象年度	学科・科目			分野	
令和2年度	福祉学専攻 専門科目			福祉理論系科目	
講義名	[01659] 福祉サービスの組織と経営				
期 間	後期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類	講義
対象学年	--	2年	--	--	
担当者	榎木 博之		ナラキ ヒロユキ	naraki hiroyuki	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
福祉サービスとは何か、福祉サービスに係わる団体とは何か、福祉サービスを経営するために必要なことは何か等について説明し、社会福祉士が福祉サービスの組織と経営を学ぶ意義を考えていく。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
福祉サービスに係わる組織や団体（社会福祉法人・医療法人・特定非営利活動法人・営利法人、市民団体、自治会など）について理解できる。福祉サービスの組織と経営に係わる基礎理論について理解できる。福祉サービスの経営と運営管理について理解する。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
テキストを中心に講義形式で授業を行う。授業中に毎回、いくつか課題を提示し考えてまとめていく。授業終了後はリアクションペーパーに授業のまとめ、感想等を記述する。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学習：毎回の授業で出される課題を行う（120分～）。事後課題：授業の要点をリアクションペーパーまとめて提出する（120分～）					
【成績評価（方法・基準）】					
試験50% レポート30% リアクションペーパー・授業で出される課題20%の配分で評価を行う。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	福祉サービスにおける組織と経営				
第2回	福祉サービスにおける組織と団体（法人とは）				
第3回	福祉サービスにおける組織と団体（社会福祉法人等）				
第4回	福祉サービスの組織と経営の基礎理論				
第5回	集団力学における基礎理論・リーダーシップ				
第6回	福祉サービスの管理運営の方法（サービス管理）				
第7回	福祉サービスの管理運営の方法（サービス管理）				
第8回	苦情対応とリスクマネジメント				
第9回	サービス提供のあり方の方向性				
第10回	福祉サービスの管理運営の方法（人事管理と労務管理）				
第11回	人材育成				
第12回	専門職のキャリアアップ				
第13回	福祉サービスの管理運営の方法（会計管理と財務管理）				
第14回	福祉サービスの管理運営の方法				
第15回	総括				
【教科書・参考書】					
「新・社会福祉士養成講座 第11巻 福祉サービスの組織と運営（第5版）」中央法規出版 2017年					
【学生へのメッセージ】					
授業内容に応じた資料を配布するので、各自まとめておくように。授業中に扱った時事問題は、各自その問題の全容を確認して問題点を整理するように。また、日頃から各種メディアを通して福祉サービスに関する諸問題をメモしておくように。					
【オフィスアワー】					
毎週授業前後に教室にて受け付けます。					
【実務経験】					
社会福祉士					

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	福祉学専攻 専門科目		福祉理論系科目		
講義名	[01660] 権利擁護と成年後見制度 法定科目				
期 間	後期（15回）	単 位 数	選 択（2）	種 類	講義
対象学年	--	2年	--	--	
担当者	中野 宏子		ナカノ ヒロコ	nakano hiroko	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
相談援助活動における権利擁護の観点から、成年後見制度の概要や実際、社会的排除や虐待などの権利侵害や認知症などの日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際について理解する。成年後見制度の概要、成年後見制度利用支援事業、成年後見制度を中心とした権利擁護活動の実際について学ぶ。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
社会的排除や虐待などの権利侵害や認知症など日常生活上の支援が必要な者に権利擁護が出来る。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
テキスト、資料を基に体系的に講義します。また、講義に対する受講生のリアクションペーパーに記載された内容へのフィードバックを行います。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学習120分：講義にのぞむ前には提示された課題について学習をしてくることを望みます。事後学習120分：受講後はノートの整理を行い、講義内容の理解を深め、次回に備えることを望みます。					
【成績評価（方法・基準）】					
小テスト40%、学力確認テスト50%、授業への取り組み姿勢10%により総合的に評価します。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	ガイダンス				
第2回	社会福祉基礎構造改革について その1				
第3回	社会福祉基礎構造改革について その2				
第4回	障害者自立支援法について				
第5回	介護保険制度について				
第6回	消費者契約法について				
第7回	行政処分について				
第8回	日本国憲法について				
第9回	憲法上の権利と基本的人権について				
第10回	成年後見制度の概要				
第11回	成年後見制度の種類				
第12回	後見人について				
第13回	保佐人について				
第14回	補助人について				
第15回	総括				
【教科書・参考書】					
テキスト：新・社会福祉士養成講座19『権利擁護と成年後見制度』（中央法規、2009年）。参考書：『成年後見制度—法の理論と実務』新井誠（有斐閣）2009年、『はじめて読む「成年後見」の本』馬場敏彰（明石書店）2010年）					
【学生へのメッセージ】					
契約制度における社会福祉利用者の自立を支援することは、一部の人の問題ではなく私たちの生活にも深く関わっています。私たちの生活がどのように「法」と関連しているのか、自分の問題として考え、学修に取り組んでください。					
【オフィスアワー】					
火曜日10：30～12：00と水曜日1時間目（大学事務室を通じて予約してください）					
【実務経験】					
山梨県中央市社会福祉協議会7年。地域福祉、高齢者団体事務局、居宅サービス、相談業務等の経験を活かし権利擁護の実態を理解できる授業にします。					

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	福祉学専攻 専門科目		福祉理論系科目		
講義名	[01662] 社会福祉援助技術論				
期 間	後期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類	講義
対象学年	--	2 年	--	--	
担当者	高橋 賢充	タカハシ マサミツ	takahashi masamitsu		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
相談援助実習、相談援助演習につながる科目として、「実践能力」を身につけるための相談援助の理論と方法の基礎を学ぶ。相談援助の実践場面において応用できる理論と方法の基本的事項について理解する。対象者への支援と実践理論の接点を知る。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
相談援助における人と環境との相互作用に関する理論について理解する。・相談援助の対象と様々な実践モデルについて理解する。相談援助の過程とそれに係る知識と技術について理解する（介護保険法による介護予\防サービス計画、居宅サービス計画や施設サービス計画及び障害者自立支援法によるサービス利用計画についての理解を含む）。相談援助における事例分析意義や方法について理解する。相談援助の実際（権利擁護活動を含む）について理解する。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
テキストを中心に講義形式で授業を行う。授業中に毎回、いくつか課題を提示し考えてまとめていく。授業終了後はリアクションペーパーに授業のまとめ、感想等を記述する。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
この授業では、毎回それぞれ90分以上の事前・事後の学習を行うこと。					
【成績評価（方法・基準）】					
試験50%・レポート30%・リアクションペーパー20%にて評価を行う。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	相談援助と個人情報の保護とは				
第2回	相談援助と個人情報の保護の意義				
第3回	相談援助と個人情報の保護の留意点				
第4回	相談援助における記録とは				
第5回	相談援助における記録の方法				
第6回	ネットワーキングの必要性				
第7回	ネットワーキングの実際（多職種協働）				
第8回	ネットワーキングの実際（多職種との連携）				
第9回	相談援助におけるITの活用				
第10回	事例分析とは				
第11回	事例分析の方法				
第12回	事例分析の方法				
第13回	相談援助の実際（倫理・価値に基づく実践）				
第14回	相談援助の実際（権利擁護活動）				
第15回	総括				
【教科書・参考書】					
「相談援助の理論と方法（第3版）」中央法規出版 社会福祉士養成講座					
【学生へのメッセージ】					
相談援助実践に係る基本的な知識を習得する。予習復習を行うこと。社会福祉援助技術論 ~ を受講していることが望ましい。					
【オフィスアワー】					
火曜日1限目と水曜日2限目					
【実務経験】					
福祉士、社会福祉協議会・老人福祉センター等福祉行政機関等での相談援助の実務					

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	福祉学専攻 専門科目		福祉理論系科目		
講義名	[11634] 社会保障論 法定科目				
期 間	前期（15回）	単 位 数	選 択（2）	種 類	講義
対象学年	--	2 年	--	--	
担当者	高木 寛之		タカギ ヒロユキ	takagi hiroyuki	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
社会保障制度の基本的な考え方としくみを理解するとともに、社会保障の現状と課題を捉える。社会保障を学ぶことは「私たちの日常生活にも役に立つ」ことであるし、社会全体の生きづらさを明らかにし国が保障すべき生活の水準を考える貴重な機会でもある。イギリスの社会保障の歴史から貧困を克服するために私たち国民が作り上げてきた社会保障制度をよく理解し、現代社会における問題と課題を自分たちの生活に照らして考えられるようにする。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
社会保障制度、社会保障の概念、理論と政策の歴史を理解し、社会保障の財政、機能、問題点を学ぶ。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
テキスト、映像資料の内容を参照しながら講義形式で進める。毎回コメントペーパーを書いてもらい理解度を確認しながら進めていく。試験では講義やレジュメの内容に基づきその理解度を確認する。そして、援助方法について理解できるよう、小グループによる事例検討などを交えた授業にしていく。社会福祉士国家試験受験資格取得のための必修科目である。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うこと。事前学習：テキストをあらかじめ読み、質問事項をまとめておくこと。事後学習：テキスト復習し、分からないところなどを明確にしておくこと。					
【成績評価（方法・基準）】					
評価方法及び基準：授業レポート（4点×14回=56点）、レポート（7点×2回=14点）授業内テスト（レポート形式・30点）の合計100点満点で評価します。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	オリエンテーション：社会保障のなかの社会保険とは（諸概念の説明・下位分野の説明など）				
第2回	日本における社会保障の展開（社会保障審議会の報告等を中心に）				
第3回	我が国の年金保険制度	戦前・戦後の年金制度の歴史			
第4回	我が国の年金保険制度	年金の概念 修正積立方式、完全積立方式は可能か？			
第5回	我が国の年金保険制度	制度の概要	全体の概要と一階部分		
第6回	我が国の年金保険制度	制度の概要	二階部分・三階部分		
第7回	我が国の年金保険制度	制度の概要	二階部分・三階部分		
第8回	我が国の年金保険制度	付加的な制度（障害年金・遺族年金など）+小テスト			
第9回	我が国の年金保険制度	社会保障財政と年金財政			
第10回	我が国の年金保険制度	ビデオ：歴史に見る社会保障改革			
第11回	我が国の年金保険制度	最近の制度改革と問題点および中間まとめ			
第12回	我が国の労働保険制度	労働にまつわる諸概念（失業の概念など）			
第13回	我が国の労働保険制度	雇用保険制度			
第14回	我が国の労働保険制度	労働保険労災保険制度			
第15回	まとめと振り返り+小テスト				
【教科書・参考書】					
『社会保障（新・社会福祉士養成講座）』第5版（中央法規、2016年）					
【学生へのメッセージ】					
社会保障制度の理解は困難を極めますが現代社会を生きる上では必ず必要になる知識です。苦勞しながらも身につければ必ず役に立ちます。社会保障論 と は一続きの講義です。両方を受講してください。社会福祉士国家試験科目ですので、受験希望者は必ず受講してください。					
【オフィスアワー】					
毎週授業前後に教室にて受け付けます。					
【実務経験】					
なし					

対象年度	学科・科目	分野
令和2年度	福祉学専攻 専門科目	福祉理論系科目

講義名	[11635] 社会保障論
-----	---------------

期 間	後期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類	講義
-----	---------	-------	-------	-----	----

対象学年	--	2年	--	--
------	----	----	----	----

担当者	高木 寛之	タカギ ヒロユキ	takagi hiroyuki
-----	-------	----------	-----------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

社会保障とは何か、社会福祉における医療制度の考え方と制度への理解、制度を活用する専門職への専門性、意義と実際を概説します。

【授業修了時の達成課題（到達目標）】

この社会保障論 は、社会保障論 の内容を引き継ぎ、主に医療保険制度について取り上げる。また、現在ニュースでも話題になる時事的なトピックを取り上げることにより、社会福祉を考える上での社会保障制度の視点を身につけるとともに、日常生活と社会保障制度の結びつきについても理解を深められるようにする。

（知識・理解）

医療保険制度を中心とした具体的な社会保険制度について理解し、説明できる。社会保障制度にまつわる最新の動向のうちいくつかについて理解し、説明できる。

（思考・技能・実践）

医療保険制度についての理論を理解したうえで、現代の同制度が抱える問題点について自分の見解を抱くための基礎を身につける。最新の社会保障制度を巡るトピックについてその概要を理解したうえで、自身の見解を抱く基礎を身につける。

【授業方法（フィードバックの内容）】

テキスト、映像資料の内容を参照しながら講義形式で進める。毎回コメントペーパーを書いてもらい理解度を確認しながら進めていく。試験では講義やレジュメの内容に基づきその理解度を確認する。そして、援助方法について理解できるよう、小グループによる事例検討などを交えた授業にしていく。社会福祉士国家試験受験資格取得のための必修科目である。

【授業外学習の方法（時間数）】

この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うこと。事前学習：テキストをあらかじめ読み、質問事項をまとめておくこと。事後学習：テキスト復習し、分からないところなどを明確にしておくこと。

【成績評価（方法・基準）】

評価方法及び基準：授業レポート（4点×14回=56点）、レポート（7点×2回=14点）授業内テスト（レポート形式・30点）の合計100点満点で評価します。

【授業計画（各回の授業内容）】

第1回	オリエンテーション：医療保険とは
第2回	医療保険制度の構造1：制度全体の概要
第3回	医療保険制度の構造2：国民健康保険
第4回	医療保険制度の構造3：被用者保険と医療保険制度の歴史
第5回	医療財政と国民健康保険改革
第6回	医療提供体制：病院と診療所（開業医）、医師不足問題など
第7回	医療費と制度統合の問題：保険者が分立することにより発生する問題 + 小テスト
第8回	ビデオ「国民保険料の問題」
第9回	高齢者医療制度1：財政調整と前期高齢者医療制度
第10回	高齢者医療制度2：後期高齢者医療制度
第11回	世界の医療保険制度 アメリカ
第12回	世界の医療保険制度 イギリスなど
第13回	病院システムと医療崩壊：地域医療の崩壊
第14回	ビデオ「わがまちに医師を」
第15回	まとめと振り返り

【教科書・参考書】

『社会保障（新・社会福祉士養成講座）』第5版（中央法規、2016年）

【学生へのメッセージ】

社会保障制度の理解は困難を極めますが現代社会を生きる上では必ず必要になる知識です。苦勞しながらも身につければ必ず役に立ちます。社会保障論 と は一続きの講義です。両方を受講してください。社会福祉士国家試験科目ですので、受験希望者は必ず受講してください。

【オフィスアワー】
毎週授業前後に教室にて受け付けます。
【実務経験】
なし

対象年度	学科・科目			分野
令和2年度	福祉学専攻 専門科目			福祉理論系科目
講義名	[11636] 地域福祉の理論と方法 【資格06632】			
期 間	前期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類 講義
対象学年	--	2年	--	--
担当者	中野 宏子	ナカノ ヒロコ	nakano hiroko	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】				
地方行政において1990年以降「地方分権化・地域主権化」が進み、多様な計画化が市町村行政に求められています。従来の縦割的対応の社会福祉の考え方を改める新しい「地域福祉」とは何か、新たなシステムとは何かについて概説します。				
【授業修了時の達成課題（到達目標）】				
この授業は、地域福祉の理論と方法についての基本的な理解を深めることをねらいとしています。受講生は、本授業を受講することにより、地域福祉の概念の変化と地域福祉の発展過程を理解する 新しい社会福祉サービスである地域福祉の理念と内容を理解する。権利擁護、地域自立生活支援、社会的包摂などを理解する。ことを目標とします。				
【授業方法（フィードバックの内容）】				
テキストによる講義や地域福祉関連のトピックスから地域福祉の全体像を把握し、住民に福祉サービスを保障するための地域福祉システムについて理解します。適宜、ビデオ等の視聴覚教材を使用します。本授業は、学生との双方向授業です。				
【授業外学修の方法（時間数）】				
この授業では、毎回それぞれ2時間以上の事前・事後の学習を行うことを求めます。事前の学習では、該当するテキストの章を読むこと。事後に学習では、授業で学んだ内容が実社会でどのように具現化されているのかを調べること。				
【成績評価（方法・基準）】				
授業への取り組み姿勢（30%）、レポート（30%）、学力確認テスト（60%）により総合評価します。				
【授業計画（各回の授業内容）】				
第1回	ガイダンス 私たちの暮らしと地域福祉			
第2回	地域福祉の歴史的発展			
第3回	新しい生活課題に対応する地域福祉			
第4回	福祉コミュニティの考え方と地域福祉の主体形成			
第5回	地域福祉理論の発展と広がり			
第6回	地域のとらえ方と福祉圏域			
第7回	地域福祉の主体と福祉教育			
第8回	社会福祉における地方分権化と地域福祉計画			
第9回	社会福祉協議会の役割と実際			
第10回	社会福祉法人の役割と意義			
第11回	特定非営利活動法人の役割とボランティア活動			
第12回	コミュニティソーシャルワークの考え方			
第13回	コミュニティソーシャルワークの方法			
第14回	地域アセスメント			
第15回	総括 ソーシャル・サポート・ネットワーク			
【教科書・参考書】				
教科書：新・社会福祉士養成講座 9 地域福祉の理論と方法 - 地域福祉 社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規。参考書：『地域福祉援助をつかむ』岩間伸之（有斐閣）2012年、『地域福祉論』岡村重夫（光生館）2009年。				
【学生へのメッセージ】				
大学コンソーシアムやまなし及びやまなし未来創造教育プログラム単位互換科目 地域福祉の理論と方法は、社会福祉法制定以降の社会福祉の主流となっており、利用者本位の社会福祉の構築とともに、地域における社会福祉利用者の自立を支援するものです。したがって、私たちの生活に深く関わりを持つものです。自分の問題として考え、学修に取り組んでください。社会福祉士国家試験の新カリキュラムでは前期後期の必修科目ですので、受験希望者は必ず受講してください。				
【オフィスアワー】				
火曜日10：30～12：00と水曜日1時間目（大学事務室を通じて予約してください）				
【実務経験】				
山梨県中央市社会福祉協議会7年。地域福祉、高齢者団体事務局、居宅サービス、相談業務等の経験を活かし高齢者の実態を理解できる授業にします。				

対象年度	学科・科目	分野
令和2年度	福祉学専攻 専門科目	福祉理論系科目

講義名	[11637] 地域福祉の理論と方法 【資格06633】	
-----	------------------------------	--

期 間	後期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類	講義
-----	---------	-------	-------	-----	----

対象学年	--	2年	--	--
------	----	----	----	----

担当者	中野 宏子	ナカノ ヒロコ	nakano hiroko
-----	-------	---------	---------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

地方行政において1990年以降「地方分権化・地域主権化」が進み、多様な計画化が市町村行政に求められています。従来の縦割的対応の社会福祉の考え方を改める新しい「地域福祉」とは何か、新たなシステムとは何かについて概説します。

【授業修了時の達成課題（到達目標）】

この授業は、地域福祉の理論と方法についての基本的な理解を深めることをねらいとしています。受講生は、本授業を受講することにより、地方分権改革などの政策動向と地域福祉の関係について理解する。地域福祉計画等の意義と内容、策定方法について理解する。地域福祉を推進する機関・人的資源等について理解する。地域福祉推進のための計画と課題について理解することを目標とします。

【授業方法（フィードバックの内容）】

テキストによる講義や地域福祉関連のトピックスから地域福祉の全体像を把握し、住民に福祉サービスを保障するための地域福祉システムについて理解します。適宜、ビデオ等の視聴覚教材を使用します。本授業は、学生との双方向授業です。

【授業外学修の方法（時間数）】

この授業では、毎回それぞれ2時間以上の事前・事後の学習を行うことを求めます。事前の学習では、該当するテキストの章を読むこと。事後に学習では、授業で学んだ内容が実社会でどのように具現化されているのかを調べること。

【成績評価（方法・基準）】

授業への取り組み姿勢（30%）、レポート（30%）、学力確認テスト（60%）により総合評価します。

【授業計画（各回の授業内容）】

第1回	ガイダンス 専門職の支援と地域福祉
第2回	地域福祉推進における住民参加の意義
第3回	住民の代表性と参加方法
第4回	ソーシャルサポートネットワークの考え方
第5回	社会資源の開発
第6回	地域における福祉ニーズの把握方法
第7回	地域における福祉ニーズの方法の実際
第8回	地域トータルケアシステムの必要性和考え方
第9回	地域包括ケアシステムと地域福祉
第10回	生活困窮者支援と地域福祉
第11回	地域における福祉サービスの評価方法
第12回	災害支援と地域福祉
第13回	まちづくりと地域福祉
第14回	地域福祉の政策・動向
第15回	地域福祉の今後の課題

【教科書・参考書】

教科書：新・社会福祉士養成講座 9 地域福祉の理論と方法 - 地域福祉 社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規。参考書：『地域福祉援助をつかむ』岩間伸之（有斐閣）2012年、『地域福祉論』岡村重夫（光生館）2009。

【学生へのメッセージ】

大学コンソーシアムやまなし及びやまなし未来創造教育プログラム単位互換科目
 地域福祉の理論と方法は、社会福祉法制定以降の社会福祉の主流となっており、利用者本位の社会福祉の構築とともに、地域における社会福祉利用者の自立を支援するものです。したがって、私たちの生活に深く関わりを持つものです。自分の問題として考え、学修に取り組んでください。社会福祉士国家試験の新カリキュラムでは前期後期の必修科目ですので、受験希望者は必ず受講してください。

【オフィスアワー】

火曜日10：30～12：00と水曜日1時間目（大学事務室を通じて予約してください）

【実務経験】

山梨県中央市社会福祉協議会7年。地域福祉、高齢者団体事務局、居宅サービス、相談業務等の経験を活かし高齢者の実態を理解できる授業にします。

対象年度	学科・科目			分野
令和2年度	福祉学専攻 専門科目			福祉理論系科目
講義名	[11638] 保育者論			
期 間	後期（15回）	単 位 数	選 択（2）	種 類 講義
対象学年	--	2 年	3 年	--
担当者	伊東 久実		イトウ クミ	ito kumi
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】				
保育者の役割と倫理、保育者の資質向上とキャリア形成について概説します。				
【授業修了時の達成課題（到達目標）】				
保育者の役割と倫理、および制度的な位置づけについて理解する。さらに保育者の専門性の理解とともに、保育者の協同についても学ぶ。これらを通して保育者に求められる力量とは何かを広い視点から考える力を獲得することが目標である。				
【授業方法（フィードバックの内容）】				
主として講義だが、理解を深めるために地域の保育所、児童館等で実地に学ぶことも含める。				
【授業外学修の方法（時間数）】				
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うこと。				
【成績評価（方法・基準）】				
評価：学力確認テスト80%、平常点（授業中の課題に対する取り組み、保育所訪問時に要求されるレポート提出）20%				
【授業計画（各回の授業内容）】				
第1回	「保育者になる」ということ その1			
第2回	同上			
第3回	保育者の一日			
第4回	子どもの思いや育ちを理解する仕事			
第5回	保育者の姿 保育所訪問・観察実習（1）- 保育士の役割と業務内容 -			
第6回	子どもと一緒に心と体を動かす仕事			
第7回	豊かな文化や自然との出会いをつなぐ仕事			
第8回	同上			
第9回	同上			
第10回	保育者の姿 保育所訪問・観察実習（2）- 子どもとの関わり -			
第11回	フィードバック 保育方法の基本的な考え方			
第12回	保護者や家庭と一緒に歩む仕事			
第13回	保護者の成長と同僚関係			
第14回	保育者の専門性向上とキャリア形成			
第15回	まとめ			
【教科書・参考書】				
教科書：『新しい保育講座 保育者論』 汐見稔幸（ミネルヴァ書房）2018年。 参考書：『育ての心（上）倉橋惣三文庫』・『育ての心（上）倉橋惣三文庫』津守真著（フレーベル館）1988年、『子ども理解と援助』高嶋景子著（ミネルヴァ書房）2011年、『子ども理解とカウンセリングマインド 保育臨床の視点から』青木久子著（萌文書林）2011年。				
【学生へのメッセージ】				
保育者に求められる力量とは何か、保育における現代的な課題と共に考えましょう。保育所および地域の子育て支援施設等の訪問時、観察して感じたことや考えたことを記録する習慣をつけましょう。				
【オフィスアワー】				
火曜日10:30～12:00と金曜日15:30～17:00(大学事務室を通じて予約してください)				
【実務経験】				
私立幼稚園教諭、国立大学附属幼稚園教諭。保育者経験を生かして、保育士の役割や質の向上、キャリア形成の必要性について講義します。				

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	福祉学専攻 専門科目				キャリア系科目		
講義名	[01731] インターンシップ						
期間	通年（4回）		単位数	選択（2）		種類	実習
対象学年	--	2年	3年	4年			
担当者	池上 要靖		イケガミ ヨウセイ		ikegami yosei		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
学生が一定期間将来に関連のある企業等の中で研修生として就労体験を行い、自分の進路先及び適正等に対する理解を深め、自己の将来設計に対する具体的なビジョンを形成する。キーワード：インターンシップ、就労体験、将来設計							
【授業修了時の達成課題（到達目標）】							
就労体験を通して将来の就職先を具体的にイメージできるようになることと、大学での学びにより培われた実践力を検証して、さらなるステップアップが図れるようになることを到達目標とする。							
【授業方法（フィードバックの内容）】							
本学が委託した「委託インターンシップ」と、各個人が縁故による「縁故インターンシップ」がある。一般企業等への就職希望者は、一定期間一般企業へ、僧道への就職希望者は身延山久遠寺及び本学周辺の仏具販売店等への就業体験を行う。合計2週間のインターンシップを行うことにより、2単位を修得できる。							
【授業外学修の方法（時間数）】							
事前学習として、インターンシップする企業等の概要について調べておくこと(3時間程度)。事後学習として、インターンシップで得たことについて纏め、報告書を作成すること（5時間程度）。							
【成績評価（方法・基準）】							
受け入れ側の評価及び勤務態度等の記されている報告書及び各自のレポートにより評価する。その他詳細については、『身延山大学インターンシップ細則』に準じる。							
【授業計画（各回の授業内容）】							
第1回	<p>自分自身の進路において非常に価値のある体験です。冷やかしか遊び半分で行うことの無いようにして下さい。文部科学省、経済産業省、厚生労働省や各経済団体は、インターンシップを積極的に推進しており、インターンシップを取り入れている企業は年々増加しています。特に中小企業やベンチャー企業にとっては、優秀な人材と出会う機会としても意義が大きいものといわれています。また、僧道を目指す場合も、久遠寺や仏具店におけるインターンシップは非常に価値ある体験と思われます。</p> <p>1、受講資格</p> <p>（1）一般企業等へのインターンシップ 本学開講科目『情報処理入門』『情報処理応用』を修得した学生。ワープロソフト及び表計算ソフトが使用できる学生。</p> <p>（2）身延山久遠寺及び寺院等へのインターンシップ 信行道場に入行できる程度の読経・所作及び声明のできる学生。</p>						
第2回	事前説明とマッチング（受け入れ先の理解、場合に寄っては事前面接を課す場合もある）						
第3回	インターンシップ活動（単一事業所の場合と複数事業所での活動をあらかじめ選択、それぞれの適正時間を認識しておくこと）90時間以上（2単位の場合）。						
第4回	事後の報告書作成と発表会						
【教科書・参考書】							
特になし。							
【学生へのメッセージ】							
自分の将来を見据えて、なすべきことに対して、これまで培ったスキルがどのように役立つかを意識して事前学習を行い、実習に備えるようにしてください。							
【オフィスアワー】							
火曜日4時限目、金曜日4・5時限目。質問はメールでも可（ikegami(a)min.ac.jp）。							
【実務経験】							
宗教法人智寂坊代表役員、保護司、元教育委員							

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	福祉学専攻 専門科目		キャリア系科目		
講義名	[01746] 手話実践(日常会話)				
期間	前期(15回)	単位数	選択(1)	種類	演習
対象学年	--	2年	--	--	
担当者	望月 香代		モチヅキ カヨ	mochizuki kayo	
【授業の目的・ねらい/授業全体の内容の概要】					
手話を学ぶことで知った聴覚障害者の存在を頭に入れながら、言語としての手話の力を深めていきます。演習することで手話を身に付け、手話を読み取れるようにします。					
【授業修了時の達成課題(到達目標)】					
前年までに、聴覚障害者とのコミュニケーションとはどのようなものか、体験を通して学んで来ています。そのことを基礎とし、本授業では、手話の特徴を学びながら語彙を増やしさらにコミュニケーション力が身につくようになります。また聴覚障害者の理解をさらに深めるため、聴覚障害者から話をしてもらおう時間を作り、実践的に学びます。					
【授業方法(フィードバックの内容)】					
テキストに添いながら、生活で使う手話の語彙を繰り返し覚えていきます。また、自分のことが手話で話せるように、毎回一人一人が発表をおこないます。実践を主にした授業を進めていきます。聴覚障害者とのコミュニケーションにより、聞こえないことを具体的に学べるようにします。					
【授業外学修の方法(時間数)】					
この授業では、毎回それぞれ2時間以上の事前・事後の学習をおこなうこと。事前学習では、自分で話したいことをまとめ、手話単語の確認をおこなうこと。事後学習では、授業の中で覚えた単語を復習すること。授業の中に指示されたことを確認し、レポートを書いておくこと。					
【成績評価(方法・基準)】					
授業への取り組み姿勢(40%)、小テスト(20%)、レポート(20%)、学力確認テスト(20%)により総合評価します。					
【授業計画(各回の授業内容)】					
第1回	自己紹介(名前・住所・家族・趣味・数字)表現と読み取り				
第2回	自己紹介(仕事・あなたの家・指文字)表現と読み取り				
第3回	話しかけてみましょう(一日・一ヶ月・一年)表現と読み取り				
第4回	話しかけてみましょう 表現と読み取り				
第5回	話しあってみましょう 表現と読み取り				
第6回	まとめ				
第7回	実践(聴覚障害者と交流)				
第8回	具体的表現(その1)(形・動作・状況を工夫して表現しましょう)				
第9回	具体的表現(その2)(意味をつかんで表現しましょう)				
第10回	置き換えの表現(意味に合った手話を表現しましょう)				
第11回	実践(聴覚障害者と交流)				
第12回	表情(表情の強弱・速度を工夫して表現しましょう)				
第13回	主語の明確化(その1)(位置・方向を工夫して表現しましょう)				
第14回	主語の明確化(その2)(位置・方向を工夫して表現しましょう)				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
教科書：『手にことばを』(公益社団法人東京都聴覚障害者総合支援機構東京都聴覚障害者連盟)2013年、参考書：『手話を学ぼう 手話で話そう』(社会福祉法人全国手話研修センター)2014年、『今すぐはじめる手話テキスト 聴さんと学ぼう!』(一般社団法人全日本ろうあ連盟)2014年					
【学生へのメッセージ】					
前年度学んだことを土台にし、自分が伝えたいことをまとめる準備をし授業に出席してください。コミュニケーションを通して伝えること・伝わることを感じられるように進めていきます。					
【オフィスアワー】					
水曜日：11:00～14:00と授業終了後。e-mail:kayomochi(a)min.ac.jp					
【実務経験】					
手話通訳士資格取得し22年。その通訳経験をもとに、演習を繰り返し、聴覚障害者の背景も具体的に学べるように進めます。					

対象年度	学科・科目			分野
令和2年度	福祉学専攻 専門科目			キャリア系科目
講義名	[01747] 手話実践(通常会話)			
期間	後期(15回)	単位数	選択(1)	種類 演習
対象学年	--	2年	--	--
担当者	望月 香代	モチヅキ カヨ	mochizuki kayo	
【授業の目的・ねらい/授業全体の内容の概要】				
今まで学んできた手話とはどのようなものなのか。自己紹介、実践会話を通して身に付けた手話をさらに使用言語となるように演習していきます。				
【授業修了時の達成課題(到達目標)】				
聴覚障害者は私たちと同じ社会で暮らしています。今後、出会うこともあるはず。その時、当たり前コミュニケーションができるのは大切なことです。また、聴覚障害者について他の人に話せることも大切です。今までの授業で学んだ手話をもとに、本授業では、自分ができるコミュニケーションを身につけられるように、実践を重視した授業を学びます。また、仲間とのコミュニケーションも必要だと再確認ができるように、グループで学びます。				
【授業方法(フィードバックの内容)】				
前半はテキストを使用しながら、語彙の確認を中心に実践練習を行ないます。後半は、聴覚障害者を考えて自分ができるコミュニケーションを考え、手話で発表できるように確認していきます。				
【授業外学修の方法(時間数)】				
この授業では、毎回それぞれ2時間以上の事前・事後の学習をおこなうこと。事前学習では、授業内容を確認すること。特に後半は自分の内容を考えてくること。事後学習では、授業中自分が気付いたことをまとめ、振り返りを行う。また、授業中指示されたことを確認する。				
【成績評価(方法・基準)】				
授業への取り組み姿勢(40%)、小テスト(20%)、学力確認テスト(40%)により総合評価します。				
【授業計画(各回の授業内容)】				
第1回	基本文法の確認			
第2回	手話の形・方向・位置のまとめ(その1)			
第3回	手話の形・方向・位置のまとめ(その2)			
第4回	手話の形・方向・位置のまとめ(その3)			
第5回	手話の形・方向・位置のまとめ(その4)			
第6回	手話の形・方向・位置のまとめ(その5)			
第7回	実践(聴覚障害者との交流)			
第8回	主語の明確化(その1)(指さしを使って表現しましょう)			
第9回	主語の明確化(その2)(指さしを使って表現しましょう)			
第10回	主語の明確化(その3)(体の向きをかえて表現しましょう)			
第11回	主語の明確化(その4)(体の向きをかえて表現しましょう)			
第12回	空間の活用(その1)			
第13回	空間の活用(その2)			
第14回	空間の活用(その3)			
第15回	まとめ			
【教科書・参考書】				
教科書:『手にことばを』(公益社団法人東京都聴覚障害者総合支援機構東京都聴覚障害者連盟)2013年、参考書:『手話を学ぼう 手話で話そう』(社会福祉法人全国手話研修センター)2014年、『今すぐはじめる手話テキスト 聴さんと学ぼう!』(一般社団法人全日本ろうあ連盟)2014年				
【学生へのメッセージ】				
授業中に仲間通しでやり取りしたことを考え、復習し次の受講をすることが望ましい。今後自分が人として成長していく上で、何が大切なのか、何をしなければならないかを、一人一人が考え、みんなで話せるようにしてほしい。				
【オフィスアワー】				
水曜日:11:00~14:00と授業終了後。e-mail:kayomochi(a)min.ac.jp				
【実務経験】				
手話通訳士資格取得し22年。その通訳経験をもとに、演習を繰り返し、聴覚障害者の背景も具体的に学べるように進めます。				

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	福祉学専攻 専門科目				キャリア系科目		
講義名	[01750] キャリア教育						
期 間	前期（15回）		単 位 数	選 択（1）		種 類	演習
対象学年	--	2年	3年	4年			
担当者	淡路 実春		アワジ ミハル		awaji miharu		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
就職支援							
【授業修了時の達成課題（到達目標）】							
自分の夢や人生の目標を持って豊かなキャリアを築くための基礎をつくること、学生と社会人の違いを考えつつ、社会人として必要な知識や心構えを習得することを主な課題として、4年生の春から本格的にスタートする就職活動に向けて一足早く準備を始めます。また、連絡を取り合う手段として頻繁に使用する電話対応のしかたを学びながら、社会で役立つ知識を習得していきます。							
【授業方法（フィードバックの内容）】							
配布資料に基づいて、講義、演習、ディスカッションなどを行います。講義の内容によっては、知識を得るだけでなく、簡単なゲームなどを通して「感じる」「考える」時間を作っています。							
【授業外学修の方法（時間数）】							
予習および復習は、講義時に配布するプリントにより進めてください。講義内容を振り返り、毎日20分間自分自身について、将来について、考える時間を作ってください。							
【成績評価（方法・基準）】							
小論文試験（30%）、授業への取り組み姿勢（40%）、課題提出（30%）によって評価します。							
【授業計画（各回の授業内容）】							
第1回	スキル開発その1 ビジネス電話						
第2回	スキル開発その2 ビジネス電話						
第3回	スキル開発その3 ビジネス電話						
第4回	スキル開発その4 ビジネス電話						
第5回	スキル開発その5 ビジネス電話						
第6回	スキル開発その6 ビジネス電話						
第7回	なりたい自分になる 夢の叶えかた						
第8回	コミュニケーションの基本その1						
第9回	コミュニケーションの基本その2						
第10回	マナーの基本1						
第11回	マナーの基本2						
第12回	社会人としての心構えその1						
第13回	社会人としての心構えその2						
第14回	知っておきたい法律・規則						
第15回	総括（小論文）						
【教科書・参考書】							
講義はプリントを配布します。							
【学生へのメッセージ】							
講義中は積極的に考え行動してください。また欠席・遅刻をしないよう心掛けてください。							
【オフィスアワー】							
授業の前後、毎週教室にて受け付けます。							
【実務経験】							
高等学校・専門学校・大学・企業研修を担当いたしました。							

対象年度	学科・科目			分野
令和2年度	福祉学専攻 専門科目			キャリア系科目
講義名	[01751] キャリア教育			
期 間	後期（15回）	単 位 数	選 択（1）	種 類 演習
対象学年	--	2 年	3 年	4 年
担当者	淡路 実春	アワジ ミハル		awaji miharu
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】				
就職支援				
【授業修了時の達成課題（到達目標）】				
全員が希望就職先で内定をもらうことを目的とします。就職面接試験は、あなたの人生を大きく左右するほどのとても大切な分岐点です。自己分析や企業研究のしかた、目的、効果を学ぶことで、あなたに合った就職先を見つけられるようになり、志望動機の書き方や自己アピールの作り方、履歴書の書き方などのコツを学ぶことで、自分の魅力をしっかり伝えられるようになり、また、面接やディスカッションのポイントやコツもお伝えしますので、面接で何を表現し、何を語ればよいのかが分かるようになります。				
【授業方法（フィードバックの内容）】				
配布資料に基づいて、講義、演習、ディスカッションを行います。実際に自己分析・企業研究をして、これに基づいた志望動機・自己アピールを考えて履歴書を作成します。講義の内容によっては、知識を得るだけでなく、簡単なゲームを通して「考える」「感じる」時間を作っています。				
【授業外学修の方法（時間数）】				
予習および復習は、講義時に配布するプリントにより進めてください。講義内容を振り返り、毎日10分間（1週間で70分）自分自身について、将来について考え、実際の就職活動に活かせるよう努めてください。				
【成績評価（方法・基準）】				
小論文試験（30%）、授業への取り組み姿勢（40%）、課題提出（30%）によって評価します。				
【授業計画（各回の授業内容）】				
第1回	就職活動のプロセス			
第2回	自己分析その1			
第3回	自己分析その2			
第4回	企業研究とマッチング			
第5回	志望動機			
第6回	自己アピール			
第7回	履歴書の書き方			
第8回	お礼状の書き方			
第9回	面接の種類と対策			
第10回	第一印象の重要性と身だしなみ			
第11回	美しい姿勢とお辞儀/面接の流れを確認する			
第12回	正しく聴いて分かりやすく答える（理解する力・伝える力） 質疑応答			
第13回	ディスカッションその1			
第14回	ディスカッションその2			
第15回	総括（小論文）			
【教科書・参考書】				
毎講義時にプリントを配布します。				
【学生へのメッセージ】				
就職活動に必要な知識を得るために、欠席はしないよう心掛けてください。講義中は積極的に考え行動してください。				
【オフィスアワー】				
授業の前後、毎週教室にて受け付けます。				
【実務経験】				
高等学校・専門学校・大学・企業研修を担当いたしました。				

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	福祉学専攻 専門科目				キャリア系科目		
講義名	[01752] キャリア教育						
期 間	前期（15回）		単 位 数	選択（1）		種 類	演習
対象学年	--	2年	3年	4年			
担当者	ジル・エマ・ストロースマン		ジル・エマ・ストロースマン		jill emma strothman		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
一歩進んだ英語を使えるようになるための授業です。							
【授業修了時の達成課題（到達目標）】							
学生の希望を聞いて、それぞれのキャリアに役立つ英語の学習をします。							
【授業方法（フィードバックの内容）】							
ここ数年、少人数のため時間を決めて研究室で一对一の学習をしています。人数が多いとまた教室になります。TOEIC狙いの学生にはTOEICの教材を使って、英語で会話をする希望のある学生には会話学習の教材で対応してきました。							
【授業外学修の方法（時間数）】							
事前学習90分 ミニテストの単語を暗記して、次のレッスンの予習をする。 事後学習90分 プリントを読み直して、難しかったところを理解する。							
【成績評価（方法・基準）】							
この場合、評価は平常点と試験と宿題を基準に行います。目安として、平常点と試験は40%ずつで、課題などその他は20%です。受講前に用語の理解に努めること。受講後はノートを整理して講義内容の理解に努めること。							
【授業計画（各回の授業内容）】							
第1回	Pronunciation						
第2回	Greetings						
第3回	You and Your Family						
第4回	Everyday Life in Minobu						
第5回	Future Dreams						
第6回	High School Days						
第7回	中間テスト						
第8回	Reading Comprehension						
第9回	Telephoning						
第10回	Fixing an Appointment						
第11回	Complaints						
第12回	Requests and Offers						
第13回	Specific Career Terminology 1						
第14回	Specific Career Terminology 2						
第15回	まとめと前期試験						
【教科書・参考書】							
テキスト：最初の授業の際、一緒に選んであげます。参考書：英和英辞典							
【学生へのメッセージ】							
高度な勉強ですし、発音などに関して厳しく指導しますので、しっかり話せるようになりたい方に受講していただきたいです。							
【オフィスアワー】							
月曜日 5時限							
【実務経験】							
なし							

対象年度	学科・科目			分野	
令和2年度	福祉学専攻 資格取得科目			社会福祉士国家試験受験資格取得課程	
講義名	[05333] 社会福祉援助技術現場実習指導				
期 間	前期（15回）	単 位 数	必修（1）	種 類	演習
対象学年	--	2年	3年	--	
担当者	高橋 賢充		タカハシ マサミツ		takahashi masamitsu
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
小グループによる実習事前指導及び事後指導を行う。また、実習中は週1回の巡回指導を行う。総括として、実習報告書を作成するとともに、実習報告会で報告し質疑応答を行う。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
相談援助実習の意義について理解する。相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に対応できる能力を習得する。具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
テキストを中心に講義・演習形式で授業を行う。授業中に毎回、いくつか課題を提示し、グループで議論したり、個人で考えてまとめていく。授業終了後はリアクションペーパーに授業のまとめ、感想等を記述する。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前課題～毎回の授業で出される課題を行う（120分～）。事後課題～授業の要点をリアクションペーパーにまとめて提出する（120分～）。					
【成績評価（方法・基準）】					
出席8割以上で成績評価を可能とする。レポート50% リアクションペーパー・授業課題50%の配分で評価を行う。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	実習の目的と意義				
第2回	介護・保育実習の振り返り				
第3回	実習施設研究				
第4回	実習施設研究				
第5回	実習施設研究発表会				
第6回	実習計画書の意義				
第7回	実習計画書の作成				
第8回	実習記録の書き方				
第9回	実習記録の書き方				
第10回	社会福祉援助技術の実際（視聴覚学習を含む）				
第11回	社会福祉援助技術の実際（社会福祉士実践者との意見交換）				
第12回	実習スーパービジョン				
第13回	実習における個人情報保護				
第14回	実習直前ガイダンス				
第15回	全体総括				
【教科書・参考書】					
『社会福祉士 相談援助実習（第2版）』 監修一般社団法人日本社会福祉士養成校協会（中央法規出版）2015年					
【学生へのメッセージ】					
欠席回数がそれぞれ累計3回を超える場合、配属済みでも実習は中止となる。また、遅刻は一切認めない。従って、始業時間に遅れて教室に入った者（口頭での出席確認終了以降）は、その日の受講を認めない。さらに日頃から出来る限りボランティア活動に参加するよう心掛けること。5月連休中にはフィールドワーク（市町村の制度やサービス調査や福祉計画の分析など）を課す予定である。本科目のみを履修するとはできず、「相談援助実習」が不可の場合、本科目も不可となる。					
【オフィスアワー】					
火曜日1限目と水曜日2限目					
【実務経験】					
社会福祉士、社会福祉協議会・老人福祉センター等福祉行政機関等での相談援助の実務					

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	福祉学専攻 資格取得科目				社会福祉士国家試験受験資格取得課程		
講義名	[05334] 社会福祉援助技術現場実習指導						
期 間	後期（15回）		単 位 数	必修（1）		種 類	演習
対象学年	--	2年	3年	4年			
担当者	高橋 賢充		タカハシ マサミツ		takahashi masamitsu		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
小グループによる実習事前指導及び事後指導を行う。また、実習中は週1回の巡回指導を行う。総括として、実習報告書を作成するとともに、実習報告会で報告し質疑応答を行う。							
【授業修了時の達成課題（到達目標）】							
相談援助実習の意義について理解する。相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に対応できる能力を習得する。具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。							
【授業方法（フィードバックの内容）】							
テキストを中心に講義・演習形式で授業を行う。授業中に毎回、いくつか課題を提示し、グループで議論したり、個人で考えてまとめていく。授業終了後はリアクションペーパーに授業のまとめ、感想等を記述する。							
【授業外学修の方法（時間数）】							
事前課題～毎回の授業で出される課題を行う（120分～）。事後課題～授業の要点をリアクションペーパーにまとめて提出する（120分～）。							
【成績評価（方法・基準）】							
出席8割以上で成績評価を可能とする。 レポート50% リアクションペーパー・面接技術評価・アセスメント50%の配分で評価を行う。							
【授業計画（各回の授業内容）】							
第1回	実習報告書の作成						
第2回	実習報告会						
第3回	実習後の振り返り（グループワーク）						
第4回	実習後スーパービジョン						
第5回	実習後スーパービジョン						
第6回	実習施設研究						
第7回	実習施設研究発表会						
第8回	実習計画書の意義						
第9回	実習計画書の作成						
第10回	相談援助の実際						
第11回	相談援助の実際						
第12回	実習記録の書き方						
第13回	実習記録の書き方						
第14回	実習直前ガイダンス						
第15回	全体総括						
【教科書・参考書】							
『社会福祉士 相談援助実習（第2版）』監修一般社団法人日本社会福祉士養成校協会 中央法規出版 2015年							
【学生へのメッセージ】							
欠席回数がそれぞれ累計3回を超える場合、配属済みでも実習は中止となる。また、遅刻は一切認めない。従って、始業時間に遅れて教室に入った者（口頭での出席確認終了以降）は、その日の受講を認めない。さらに日頃から出来る限りボランティア活動に参加するよう心掛けること。5月連休中にはフィールドワーク（市町村の制度やサービス調査や福祉計画の分析など）を課す予定である。本科目のみを履修するとはできず、「相談援助実習」が不可の場合、本科目も不可となる。							
【オフィスアワー】							
火曜日 1限目と水曜日 2限目							
【実務経験】							
社会福祉士、社会福祉協議会・老人福祉センター等福祉行政機関等での相談援助の実務							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	福祉学専攻 資格取得科目				社会福祉士国家試験受験資格取得課程		
講義名	[05335] 社会福祉援助技術現場実習						
期 間	前期（1回）		単 位 数	必修（1）		種 類	実習
対象学年	--	2年	3年	4年			
担当者	高橋 賢充		タカハシ マサミツ		takahashi masamitsu		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
実際に福祉現場を体験し、社会福祉士に必要な倫理・知識・技術を身につけるとともに、実践力のある対人援助専門職を目指して自己を振り返り、資質や専門性を磨く。							
【授業終了時の達成課題（到達目標）】							
相談援助実習のねらい。相談援助実習を通して、相談援助に関わる知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。							
【授業方法（フィードバックの内容）】							
実習の目的を理解した上で、実習目標に沿った実習を行う。を立てる。実習中は毎日実習日誌を記入し、実習施設に提出する。実習終了後は、実習報告書、自己評価表を作成し、その後実習スーパービジョンを行う。							
【授業外学修の方法（時間数）】							
事前学習～実習機関に応じた事前課題をまとめておく（120分～）。事後学習～実習報告書をまとめる（120分～）。							
【成績評価（方法・基準）】							
自己評価・実習記録・実習指導者評価と実習後スーパービジョン・実習報告を総合して評価を行う							
【授業計画（各回の授業内容）】							
第1回	社会福祉援助技術について実際の社会福祉現場において実習を行う。						
【教科書・参考書】							
『社会福祉士 相談援助実習（第2版）』 監修一般社団法人日本社会福祉士養成校協会（中央法規出版）2015年							
【学生へのメッセージ】							
実習～の実習時間（180時間以上）は全て実施しなければ履修したことにはならない。実習先での遅刻や欠席は認められない。また、真にやむを得ない事由であっても、実習時間が不足する場合は、後日その埋め合わせが必要になることもあるので、十分注意すること。本科目のみを履修することはできず、「相談援助実習指導」が不可となった場合、本科目も不可となる。。							
【オフィスアワー】							
火曜日 1限目と水曜日 2限目							
【実務経験】							
福祉士、社会福祉協議会・老人福祉センター等福祉行政機関等での相談援助の実務							

対象年度	学科・科目			分野	
令和2年度	福祉学専攻 資格取得科目			社会福祉士国家試験受験資格取得課程	
講義名	[05336] 社会福祉援助技術演習				
期間	通年（30回）	単位数	必修（2）	種類	演習
対象学年	--	2年	--	--	
担当者	高橋 賢充		タカハシ マサミツ		takahashi masamitsu
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
ソーシャルワーカーに求められる自己覚知及び価値観を中心とした他者理解を促進するとともに、援助的コミュニケーションの基礎についてもロールプレイ等の体験を通して学ぶ。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげること。個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行うこと。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
テキストを中心に演習形式で授業を行う。授業中に毎回、いくつか課題を提示し、グループで議論したり、個人で考えてまとめていく。授業終了後はリアクションペーパーに授業のまとめ、感想等を記述する。双方向の授業（アクティブラーニング）を実施している。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前課題～毎回の授業で出される課題を行う（120分～）。事後課題～授業の要点をリアクションペーパーにまとめて提出する（120分～）。					
【成績評価（方法・基準）】					
出席8割以上でテスト受験可能とする。レポート50% リアクションペーパー・実技・授業課題50%の配分で評価を行う。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	相談援助演習の意義				
第2回	相談援助演習の位置づけ				
第3回	相談援助における基本技術 「人」を理解する				
第4回	相談援助における基本技術 「人」を理解する				
第5回	相談援助における基本技術 「クライアント」を理解する				
第6回	相談援助における基本技術 「クライアント」を理解する				
第7回	相談援助における基本技術 「人のこころ」を理解する				
第8回	相談援助における基本技術 「人のこころ」を理解する				
第9回	相談援助における基本技術 「人の気持ち」を理解する				
第10回	相談援助における基本技術 「人の気持ち」を理解する				
第11回	相談援助における基本技術 「人の行動」を理解する				
第12回	相談援助における基本技術 「人の行動」を理解する				
第13回	相談援助における面接技術 相談援助面接の目的と特性				
第14回	相談援助における面接技術 面接の実際（インテーク面接）				
第15回	相談援助における面接技術 面接の実際（インテーク面接）				
第16回	相談援助における面接技術 面接における基本的応答技法				
第17回	相談援助における面接技術 面接における基本的応答技法				
第18回	相談援助における面接技術 面接における基本的応答技法				
第19回	相談援助における面接技術 非言語的コミュニケーション				
第20回	相談援助における面接技術 非言語的コミュニケーション				
第21回	相談援助における面接技術 面接の展開				
第22回	相談援助における面接技術 面接の展開				
第23回	相談援助における面接技術 面接の展開				
第24回	相談援助における面接技術 面接の展開				
第25回	相談援助における記録 記録の意義				
第26回	相談援助における記録 記録の意義				
第27回	相談援助における記録 記録の実際（面接記録 観察記録）				

第28回	相談援助における記録	記録の実際（面接記録 観察記録）
第29回	相談援助における記録	記録の実際（面接記録 観察記録）
第30回	総括	
【教科書・参考書】		
テキスト「社会福祉士 相談援助演習（第2版）」監修一般社団法人日本社会福祉士養成校協会 中央法規出版 2015年		
【学生へのメッセージ】		
1．グループ作業に支障を来すため、遅刻は一切認めない。従って、始業時間に遅れて教室に入ってきた者（具体的には、口頭での出席確認終了以降）は、その日の受講を認めない。2．基本的に100%の出席を求める。さらに、累積3回を超える欠席の場合は単位の修得を認めないので、そのつもりで受講すること。		
【オフィスアワー】		
火曜日 1 限目と水曜日 2 限目		
【実務経験】		
社会福祉士、社会福祉協議会・老人福祉センター等福祉行政機関等での相談援助の実務		

対象年度	学科・科目			分野	
令和2年度	福祉学専攻 資格取得科目			社会福祉士国家試験受験資格取得課程	
講義名	[05337] 社会福祉援助技術現場実習指導				
期 間	後期（15回）	単 位 数	必修（1）	種 類	演習
対象学年	--	2 年	--	--	
担当者	高橋 賢充	タカハシ マサミツ		takahashi masamitsu	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
小グループによる実習事前指導及び事後指導を行う。また、実習中は週1回の巡回指導を行う。総括として、実習報告書を作成するとともに、実習報告会で報告し質疑応答を行う。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
相談援助実習の意義について理解する。相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に対応できる能力を習得する。具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
テキストを中心に講義・演習形式で授業を行う。授業中に毎回、いくつか課題を提示し、グループで議論したり、個人で考えてまとめていく。授業終了後はリアクションペーパーに授業のまとめ、感想等を記述する。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前課題～毎回の授業で出される課題を行う（120分～）。事後課題～授業の要点をリアクションペーパーにまとめて提出する（120分～）。					
【成績評価（方法・基準）】					
出席8割以上で成績評価可能とする。レポート50% リアクションペーパー・授業課題50%の配分で評価を行う。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	相談実習の目的と意義				
第2回	社会福祉士及び介護福祉士法と実習				
第3回	社会福祉士の役割と実習				
第4回	社会福祉士の役割と実習				
第5回	相談援助実習と相談援助実習指導における個別指導の意義				
第6回	相談援助実習と相談援助実習指導における集団指導の意義				
第7回	フィールド・ソーシャルワークとレジデンシャル・ソーシャルワーク				
第8回	実習施設の理解（高齢者分野）				
第9回	実習施設の理解（障害者分野）				
第10回	実習施設の理解（地域福祉分野）				
第11回	実習施設の理解（医療分野）				
第12回	実習施設の理解（児童分野）				
第13回	実習先で行われる関連業務の理解				
第14回	実習施設見学				
第15回	全体総括				
【教科書・参考書】					
『社会福祉士 相談援助実習（第2版）』 監修一般社団法人日本社会福祉士養成校協会 中央法規出版 2015年					
【学生へのメッセージ】					
欠席回数がそれぞれ累計3回を超える場合、配属済みでも実習は中止となる。また、遅刻は一切認めない。従って、始業時間に遅れて教室に入った者（口頭での出席確認終了以降）は、その日の受講を認めない。さらに日頃から出来る限りボランティア活動に参加するよう心掛けること。5月連休中にはフィールドワーク（市町村の制度やサービス調査や福祉計画の分析など）を課す予定である。本科目のみを履修するとはできず、「相談援助実習」が不可の場合、本科目も不可となる。					
【オフィスアワー】					
火曜日 1 限目と水曜日 2 限目					
【実務経験】					
社会福祉士、社会福祉協議会・老人福祉センター等福祉行政機関等での相談援助の実務					

対象年度	学科・科目		分野	
令和2年度	福祉学専攻 資格取得科目		介護福祉士国家試験受験資格取得課程	
講義名	[05431] 介護概論 【平成31年度生まで】 法定科目			
期 間	後期（15回）	単 位 数	必修（2）	種 類 講義
対象学年	--	2年	--	--
担当者	建守 善之	タテモリ ヨシユキ	tatemori yoshiyuki	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】				
介護概論とはどのような学問なのか、「介護」をテーマに基本的な考え方、基本知識を学び援助技術を取得する。				
【授業修了時の達成課題（到達目標）】				
国家資格「介護福祉士」について、資格が誕生した経緯や求められる職業意識、そして介護福祉士の法的根拠を理解する。さらに、介護における専門職能\団体の活動や介護福祉士がもつべき職業倫理について学ぶ。介護サービスとは何かを考え、その提供の場を取り巻く歴史的展開や現在の姿、そこを利用する人々と介護のあり方を明確にする。				
【授業方法（フィードバックの内容）】				
〔授業全体の内容の概要〕 介護問題の現状、専門職能団体の活動、職業倫理、介護サービスを提供する場の理解をしていくためにアサイメント（宿題）を出していく。課題を基にディスカッション方式で行っていく。				
【授業外学修の方法（時間数）】				
この授業では、毎回それぞれ90分以上の事前・事後の学習を行うこと。				
【成績評価（方法・基準）】				
試験80% 小テスト20%。「受講前にシラバスに示されたテキストの該当箇所を熟読し、用語の理解に努めること。受講後はノートを整理して講義内容の理解に努めること」				
【授業計画（各回の授業内容）】				
第1回	オリエンテーション			
第2回	介護福祉士を取り巻く状況			
第3回	介護福祉士制度制定の経緯			
第4回	求められる介護福祉士像			
第5回	社会福祉士及び介護福祉士法			
第6回	介護における専門職能団体の活動			
第7回	日本介護福祉士会の活動と現状			
第8回	介護福祉士の倫理			
第9回	職業倫理（介護従事者の倫理、介護実践の場で求められる倫理、その他）			
第10回	利用者の人権と介護(身体拘束禁止、高齢者虐待、児童虐待、その他)			
第11回	プライバシーの保護（個人情報保護、その他）			
第12回	介護サービス提供の場の特性（居宅）			
第13回	介護サービス提供の場の特性（施設）			
第14回	介護サービス提供の場の特性（障害者関連）			
第15回	まとめ			
【教科書・参考書】				
『介護の基本』 新・介護福祉士養成講座（編）中央法規				
【学生へのメッセージ】				
介護福祉士の倫理の学びを通して、介護福祉士としての人間性、資質を学んで欲しい。				
【オフィスアワー】				
火曜日 14：00から17：00、水曜日 14：30から15：30				
【実務経験】				
介護実習に向けて、模擬授業の実践と社会人として必要な知識を学ぶ。				

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	福祉学専攻 資格取得科目		介護福祉士国家試験受験資格取得課程		
講義名	[05432] 介護概論 【平成31年度生まで】 法定科目				
期 間	後期（15回）	単 位 数	必修（2）	種 類	講義
対象学年	--	2年	--	--	
担当者	建守 善之		タテモリ ヨシユキ	tatemori yoshiyuki	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
介護概論とはどのような学問なのか、「介護」をテーマに介護概論 の流れ、内容などの基礎知識と支援技術を取得する。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
1. 介護現場で連携に関わる関連職種や機関の特性を理解する。 2. 介護職者自身の心身の健康管理に必要な基礎知識と対策を理解する。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
ビデオ・DVDを使用した講義、グループ討議なども取り入れながら進める。 事前学習90分：受講前には前回の講義ノートや資料に目を通しておくこと、事後学習90分：受講後はノートの整理を行い、講義内容の理解を深め次回の講義に備えること。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
毎回それぞれ2時間以上の事前・事後の学習を行うこと。事前の学習では、毎回の授業時に指定された文献を必ず読んでくること。事後の学習では、授業中に提示した専門用語の復習を行うこと。					
【成績評価（方法・基準）】					
試験80% 小テスト20% 「受講前にシラバスに示されたテキストの該当箇所を熟読し、用語の理解に努めること。受講後はノートを整理して講義内容の理解に努めること」					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	多職種連携：1) 多職種連携の意義と目的				
第2回	多職種連携：2) 協働職種の理解と連携のあり方				
第3回	多職種連携：3) 利用者を取り巻く多職種連携の実際、演習				
第4回	地域連携：1) 地域連携の意義と目的				
第5回	地域連携：2) 地域連携に関わる機関の理解				
第6回	地域連携：3) 利用者を取り巻く地域連携の実際				
第7回	健康管理：1) 健康管理の意義と目的				
第8回	健康管理：2) 心の健康管理				
第9回	健康管理：3) 体の健康管理				
第10回	健康管理：演習				
第11回	健康管理：演習				
第12回	健康管理：演習				
第13回	労働環境の整備・改善				
第14回	労働安全の基本原則				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
介護福祉士養成講座編集委員会編：新・介護福祉士養成講座4「介護の基本」、中央法規出版					
【学生へのメッセージ】					
受講前には、前回のテキストや資料に目を通し、テキスト、資料を必ず持参すること。受講後は、復習をし大切なポイントを整理しておくこと。					
【オフィスアワー】					
火曜日：14：00から17：00、水曜日：14：30から15：30					
【実務経験】					
介護実習に向けて、模擬授業を行い社会人として必要な知識を学ぶ。					

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	福祉学専攻 資格取得科目		介護福祉士国家試験受験資格取得課程		
講義名	[05433] 生活支援技術 【平成31年度生まで】 法定科目				
期 間	前期（30回）	単 位 数	必修（2）	種 類	演習
対象学年	--	2年	--	--	
担当者	佐々木 さち子		ササキ サチコ	sasaki sachiko	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。対象者の能力を活用・発揮し、自立に向けた生活支援の基礎的な知識・技術を習得する。また、実践の根拠について、説明できる能力を身につける内容とする。健康を保持するための休息や睡眠の重要性を理解し、安眠を促す環境を整える支援に繋がる内容。人生の最終段階にある人と家族ケアをするために、終末期の経過に沿った支援や、チームケアの実践について理解する内容とする。介護ロボットを含め福祉用具を活用する意義やその目的を理解するとともに、対象者ノイエス能力に応じた福祉用具を選択・活用すると知識・技術を習得する内容とする。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
安心して援助を受けられる利用者のために、技術・知識の基本を身につける。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
介護の基礎となる生活支援と意義を理解し、経営・管理する能力を養う。介護福祉士としての実践能力を持つ人材を育成することを、目標とする。生活の基本である技術（自立に向けた移動の介護、自立に向けた食事の介護、自立に向けた入浴・清潔保持の介護など）を身につける。演習の宿題を出すので必ず提出し、授業の中でディスカッションを行う。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学習 120分 テキストの範囲を読み質問を用意してくる。事後学習 120分 演習問題を行う。					
【成績評価（方法・基準）】					
学力評価テスト（50%） 実技試験（50%）					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	オリエンテーション				
第2回	自立生活を支える移動・移乗の介護（体位変換）				
第3回	自立生活を支える移動・移乗の介護（杖歩行）				
第4回	自立生活を支える移動・移乗の介護（車椅子介助）				
第5回	自立生活を支える移動・移乗の介護（車椅子介助）				
第6回	自立生活を支える移動・移乗の介護（安楽な体位の保持）				
第7回	自立生活を支える食事の介護（咀嚼・嚥下のメカニズム）				
第8回	自立生活を支える食事の介護（食事介助）				
第9回	自立生活を支える食事の介護（誤嚥・窒息の予\防）				
第10回	自立生活を支える食事の介護（脱水の予\防）				
第11回	自立生活を支える食事の介護（他職種の連携）				
第12回	自立生活を支える入浴・清潔保持の介護				
第13回	自立生活を支える入浴・清潔保持の介護				
第14回	自立生活を支える入浴・清潔保持の介護				
第15回	自立生活を支える入浴・清潔保持の介護				
第16回	自立生活を支える入浴・清潔保持の介護				
第17回	自立生活を支える排泄介護				
第18回	自立生活を支える排泄介護				
第19回	自立生活を支える排泄介護				
第20回	自立生活を支える排泄介護				
第21回	自立生活を支える睡眠の介護				
第22回	自立生活を支える睡眠の介護				
第23回	自立生活を支える睡眠の介護				
第24回	自立生活を支える睡眠の介護				
第25回	自立生活を支える睡眠の介護				
第26回	自立生活を支える終末期の介護				
第27回	自立生活を支える終末期の介護				
第28回	自立生活を支える終末期の介護				

第29回	自立生活を支える終末期の介護
第30回	まとめ・総括
【教科書・参考書】	
最新 介護福祉士養成講座 7 生活支援技術 中央法規	
【学生へのメッセージ】	
学んだ介護技術は回数を重ね身につけていくようにしてください。	
【オフィスアワー】	
出向日 火曜日、金曜日10時～17時 授業以外は406研究室（4階）にいる。	
【実務経験】	
鉄道病院（現在JR東京総合病院）佐藤病院、訪問看護、約20年以上の経験を活かし、医療的ケアや介護の医学的知識を伝える授業を行う。	

対象年度	学科・科目			分野	
令和2年度	福祉学専攻 資格取得科目			介護福祉士国家試験受験資格取得課程	
講義名	[05434] 介護過程 【平成31年度生まで】 法定科目				
期 間	前期（30回）	単 位 数	必修（2）	種 類	演習
対象学年	--	2年	--	--	
担当者	建守 善之		タテモリ ヨシユキ		tatemori yoshiyuki
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
介護過程 とはどのような学問なのか、介護過程 を基盤にし「介護過程 」をテーマに介護過程の全体流れ、内容などの基礎知識と支援技術を取得する。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
「介護過程」は利用者を主体とする生活支援活動の展開方法であり、介護職員の専門的知識・技術を持って行われる。具体的には利用者理解を図りながら、必要な情報収集を行い、その情報の分析・解釈に基づいて介護内容や方法を計画し、実施・評価する一連の過程を言う。他の学内の講義を通して学んだ知識や技術を総合できるレベルの育成を目指して、段階的、発展的に行われる。そのためには事例演習を多く取り入れ、個別の生活課題や潜在問題を引き出すためのアセスメント、自立支援に沿った介護計画の立案・実施・評価、多職種協働によるチームアプローチの必要性を理解する。さらに介護過程の理論と実施体験を関連づけながら、介護過程を展開することができるレベルを目指す。[授業修了時の達成目標(到達目標)]他の科目で学習した知識や技術を統合して介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切なサービスの提供ができるレベルを養う学習とする。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
[授業全体の内容の概要]「介護過程」の総論的内容を学習し、事例展開を取り入れながら進める。「介護過程」の意義、目的、内容などについて理解させるために、介護の実践活動がどのような過程を経て行われるのか、その過程の考え方や各要素について、生活場面の身近な事例から理解できるように展開する。また、ビデオを利用し、それぞれの技術の目的・準備・実施方法・留意点をおさえてから、技術体験をして考察する。受講前にシラバスに示されたテキストの該当箇所を熟読し、用語の理解に努めること。受講後はノートを整理して講義内容の理解に努めること					
【授業外学修の方法（時間数）】					
学生自身の生活の行動から高齢者の生活支援を分析していく。演習課題を提示しながら進めていく。事前学習90分：テキストをあらかじめ読んでおく。事後学習90分：指定した参考文献に目を通し、要点をまとめる。					
【成績評価（方法・基準）】					
試験80%、小テスト20%。「受講前にシラバスに示されたテキストの該当箇所を熟読し、用語の理解に努めること。受講後はノートを整理して講義内容の理解に努めること」					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	介護過程の実践的展開				
第2回	利用者の特性に応じた介護過程の実践的展開	アセスメントの実際	事例 1		
第3回	利用者の特性に応じた介護過程の実践的展開	アセスメントの実際	事例 1		
第4回	利用者の特性に応じた介護過程の実践的展開	アセスメントの実際	事例 2		
第5回	利用者の特性に応じた介護過程の実践的展開	アセスメントの実際	事例 3		
第6回	利用者の特性に応じた介護過程の実践的展開	アセスメントの実際	事例 3		
第7回	利用者の特性に応じた介護過程の実践的展開	アセスメントの実際	事例 4		
第8回	利用者の特性に応じた介護過程の実践的展開	アセスメントの実際	事例 4		
第9回	利用者の特性に応じた介護過程の実践的展開	アセスメントの実際	事例 5		
第10回	利用者の特性に応じた介護過程の実践的展開	アセスメントの実際	事例 5		
第11回	介護過程の展開の実際 事例 6				
第12回	介護過程の展開の実際 事例 6				
第13回	介護過程の展開の実際 事例 6				
第14回	介護過程の展開の実際 事例 7				
第15回	介護過程の展開の実際 事例 7				
第16回	介護過程の展開の実際 事例 7				
第17回	介護過程の展開の実際 事例 8				
第18回	介護過程の展開の実際 事例 8				
第19回	介護過程の展開の実際 事例 9				
第20回	介護過程の展開の実際 事例 9				
第21回	介護過程とチームアプローチ				
第22回	介護過程とケアマネジメントの関係性				
第23回	介護過程とケアマネジメントの関係性				

第24回	ケアマネジメントの流れ
第25回	ケアプランと個別援助計画の関係性
第26回	ケアプランと個別援助計画の関係性
第27回	ケアプランと個別援助計画の関係性
第28回	チームアプローチにおける介護福祉士の役割
第29回	チームアプローチにおける介護福祉士の役割
第30回	チームアプローチにおける介護福祉士の役割
【教科書・参考書】	
新・介護福祉士養成講座 第9巻 介護過程	
【学生へのメッセージ】	
受講前テキストを熟読し、疑問点等をノートにまとめておくこと。受講後はノートを整理して講義内容の理解に努めること。	
【オフィスアワー】	
火曜日 14:00から17:00、水曜日 14:30から15:30	
【実務経験】	
介護実習 に向けて、模擬授業を行い、社会人として必要な知識を学ぶ。	

対象年度	学科・科目			分野	
令和2年度	福祉学専攻 資格取得科目			介護福祉士国家試験受験資格取得課程	
講義名	[05435] 介護過程 【平成31年度生まで】 法定科目				
期 間	後期（15回）		単 位 数	必修（1）	種 類
対象学年	--	2年	--	--	
担当者	建守 善之		タテモリ ヨシユキ		tatemori yoshiyuki
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
介護過程 とはどのような学問なのか、「介護過程」をテーマにし、アセスメント・介護計画・ケアプラン等の介護過程の流れ、内容などの基礎知識と支援技術を取得する。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
「介護過程」は利用者を主体とする生活支援活動の展開方法であり、介護職員の専門的知識・技術を持って行われる。利用者理解を図り、必要な情報収集を行い、その情報の分析・解釈に基づいて介護内容や方法を計画し、実施・評価する一連の過程を言う。他の学内の講義を通して学んだ知識や技術を総合できる迫への育成を目指して、段階的、発展的に行われる。そのためには事例演習を多く取れ入れ、個別の生活課題や潜在迫を引き出すためのアセスメント、自立支援に沿った介護計画の立案・実施・評価、多職種協働によるチームアプローチの必要性を理解する。さらに介護過程の理論と実施体験を関連づけながら、介護過程を展開することができる迫を目指す。					
〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕他の科目で学習した知識や技術を統合して介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切なサービスの提供がきる迫を養う学習とする。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
〔授業全体の内容の概要〕学生が主体的に学べるよう、介護実習等の事例から介護過程展開における演習を行う。事例について、利用者の尊厳は守られているか。利用者の不安は軽減されているか、そのケアについて妥当性が検証される機会が持たれているか等を学ぶ。各コマのテーマに沿って、講義、演習、グループワーク、発浮などを取り入れて学習を進める。他教科が介護過程にどのように活かされているかについて、事例から学ぶ。					
受講前にシラバスに示されたテキストの該当箇所を熟読し、用語の理解に努めること。受講後はノートを整理して講義内容の理解に努めること。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
学生自身の生活の行動から高齢者の生活支援を分析していく。演習課題を提示しながら進めていく。事前学習90分：テキストをあらかじめ読んでおく。事後学習90分：指定した参考文献に目を通し、要点をまとめる。					
【成績評価（方法・基準）】					
試験80% 小テスト20%					
「受講前にシラバスに示されたテキストの該当箇所を熟読し、用語の理解に努めること。受講後はノートを整理して講義内容の理解に努めること」					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	介護過程とチームアプローチ		ケースカンファランス		
第2回	介護過程とチームアプローチ		ケースカンファランス		
第3回	介護過程とチームアプローチ		サービス担当者会議		
第4回	介護過程とチームアプローチ		サービス担当者会議		
第5回	介護過程とチームアプローチ		介護過程とケアプラン（介護サービス計画）		
第6回	介護過程とチームアプローチ		介護過程とケアプラン（介護サービス計画）		
第7回	介護過程とチームアプローチ		介護過程とケアプラン 他の職種との連携		
第8回	介護過程の展開		事例検討		
第9回	介護過程の展開		事例検討		
第10回	介護過程の展開		事例検討		
第11回	介護過程の展開		事例検討		
第12回	介護過程の展開		事例検討		
第13回	介護過程の展開		事例検討		
第14回	介護過程の展開		事例検討		
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
新・介護福祉士養成講座 第9巻 介護過程					
【学生へのメッセージ】					
受講前テキストを熟読し、疑問点等をノートにまとめておくこと。受講後はノートを整理して講義内容の理解に努めること。					

【オフィスアワー】

火曜日 14:00から17:00、水曜日 14:30から15:30

【実務経験】

介護実習に向けて、模擬授業や社会人として必要な知識を学ぶ。

対象年度	学科・科目		分野	
令和2年度	福祉学専攻 資格取得科目		介護福祉士国家試験受験資格取得課程	
講義名	[05436] 介護総合演習 【平成31年度生まで】 法定科目			
期 間	前期（15回）	単 位 数	必修（1）	種 類 演習
対象学年	--	2年	--	--
担当者	建守 善之	タテモリ ヨシユキ	tatemori yoshiyuki	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】				
介護総合演習とはどのような学問なのか、「介護演習」をテーマに介護総合演習の流れ、実習内容などの基礎知識と支援技術を取得する。				
【授業修了時の達成課題（到達目標）】				
1.演習全体の意義の重要性を理解する。 2.介護技術演習?などの学内で学んだ知識、技術、態度を具体的に理解できるように指導する。				
【授業方法（フィードバックの内容）】				
介護実習（施設介護実習：第1段階）に関わる前例・実習中・事後指導を行う。学生に対する実習目標の方向づけ、実習中の学習方法、学習態度の指導、実習後の報告会等を具体的にを行う。				
【授業外学修の方法（時間数）】				
受講前テキストを熟読し、疑問点等をノートにまとめておくこと（90分～）。 受講後はノートを整理して講義内容の理解に努めること（90分～）。				
【成績評価（方法・基準）】				
レポート80％・学習態度20％を総合的に評価				
【授業計画（各回の授業内容）】				
第1回	（事前指導）介護実習ガイダンス 実習の意義と目的、実習構成、諸記録用紙の使い方			
第2回	実習の説明 目的、目標、実習内容			
第3回	実習対象施設の理解 施設の役割、機能、関係法規			
第4回	実習施設の理解（特別養護老人ホーム） 施設担当者による実習の心得など			
第5回	実習施設の理解（介護老人保健施設） 施設担当者による実習の心得など			
第6回	実習施設の理解（身体障害者療護施設） 施設担当者による実習の心得など			
第7回	実習課題の検討			
第8回	実習施設への事前訪問			
第9回	実習記録の記入について			
第10回	実習留意事項の説明			
第11回	（事前指導）実習反省会			
第12回	実習報告会の準備 報告書添削、報告会準備			
第13回	実習報告会			
第14回	実習の自己評価			
第15回	実習の統括(グループワーク)			
【教科書・参考書】				
実習の手引き(本学の作成)				
【学生へのメッセージ】				
事前事後学習をしっかりと行うこと				
【オフィスアワー】				
火曜日 14：00から17：00、水曜日 14：30から15：30				
【実務経験】				
介護実習 に向けて、模擬授業を行い社会人として必要な知識を学ぶ。				

対象年度	学科・科目		分野	
令和2年度	福祉学専攻 資格取得科目		介護福祉士国家試験受験資格取得課程	
講義名	[05437] 介護総合演習 【平成31年度生まで】 法定科目			
期 間	後期（15回）	単 位 数	必修（1）	種 類 演習
対象学年	--	2年	--	--
担当者	建守 善之	タテモリ ヨシユキ	tatemori yoshiyuki	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】				
介護総合演習 とはどのような学問なのか、「介護演習」をテーマに介護総合演習 の流れ、実習内容などの基礎知識と支援技術を取得する。				
【授業修了時の達成課題（到達目標）】				
1.介護実習を踏まえ、実践的な技術を体得できるように指導する。 2.介護福祉士としての自覚を促し、専門職に求められる資質、技能及び自己に求められる課題把握、総合的対応能力を習得できるように指導する。 3.ケアプラン作成の方法を指導する。				
【授業方法（フィードバックの内容）】				
介護実習(施設介護実習：第2段階)・(訪問介護実習)に関わる事例・実習中・事後指導を行う。学生に対する実習目標の方向づけ、実習中の学習方法、学習態度の指導、実習後の報告会等を具体的にを行う				
【授業外学修の方法（時間数）】				
受講前テキストを熟読し、疑問点等をノートにまとめておくこと（90分～）。 受講後はノートを整理して講義内容の理解に努めること（90分～）。				
【成績評価（方法・基準）】				
レポート80％・学習態度20％を総合的に評価				
【授業計画（各回の授業内容）】				
第1回	（事前指導）実習の説明		目的、目標、実習内容	
第2回	実習施設の生活		職員、日課、地域、家族との関わり	
第3回	実習施設の生活		高齢者、障害者児の生きがい、楽しみ	
第4回	在宅で生活する人の介護		機関、システム	
第5回	在宅で生活する人の介護		介護専門職への態度、心構え	
第6回	在宅で生活する人の介護		対象アセスメント、家族アセスメント	
第7回	実習課題の設定、実習記録、対象アセスメント			
第8回	実習態度、心構え、実習中の学習、指導の受け方			
第9回	（実習施設への事前訪問）ケアプランの作成について			
第10回	ケアプランの作成（情報の収集）			
第11回	ケアプランの作成（アセスメント）			
第12回	ケアプランの作成（ケアプランの作成）			
第13回	最終オリエンテーション（ケースカンファレンス）			
第14回	（事前指導）実習の自己評価			
第15回	実習報告会			
【教科書・参考書】				
実習の手引き(本学作成)				
【学生へのメッセージ】				
事前事後学習をしっかりと行うこと。遅刻・早退・欠席は厳禁。				
【オフィスアワー】				
火曜日 14：00から17：00、水曜日 14：30から15：30				
【実務経験】				
介護実習に向けて、模擬授業を行い社会人として必要な知識を学ぶ。				

対象年度	学科・科目		分野	
令和2年度	福祉学専攻 資格取得科目		介護福祉士国家試験受験資格取得課程	
講義名	[05438] 介護実習 【平成30年度生まで】			
期 間	前期（1回）	単 位 数	必修（2）	種 類 実習
対象学年	--	2年	--	--
担当者	建守 善之		タテモリ ヨシユキ	tatemori yoshiyuki
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】				
介護実習 とはどのような学問なのか、「介護」をテーマに実習内容などの基礎知識と支援技術を取得する。				
【授業修了時の達成課題（到達目標）】				
施設的环境を知り、そこで生活している利用者と交流し理解を深め、ケアワーカーの基本を理解する。1 複数の施設で実習することにより、介護サービス現場に対する視野を広める。2 施設の種類と概要、介護職員の役割について理解する。3 利用者との人間的なふれあいを通じて、利用者とのコミュニケーションを図る。4 基本的な介護技術と習得する。5 介護関係の記録の様式を知る。6 介護者としての自己の態度を振り返り、今後の学習課題を明確にする。				
【授業方法（フィードバックの内容）】				
[授業の目的・ねらい] [授業全体の内容の概要] 指定介護老人福祉施設、介護老人保健施設、身体障害者療護施設等で実習を行う。[授業修了時の達成課題(到達目標)] 上記施設での実習を通して、1 施設の種類の概要を理解する。2 介護職員の役割を知る。3 利用者との接し方を学ぶ。4 感染リスクを理解する。5 基本的な介護技術を習得する。6 介護関係の記録の種類と報告の重要性を知る。今後の課題を明確化する。				
【授業外学修の方法（時間数）】				
事前学習 120分 実習に必要な知識、技術をまとめる。 事後学習 120分 実習後に学んだ必要な知識、技術をまとめる。				
【成績評価（方法・基準）】				
自己評価・実習記録・実習指導者評価と実習後スーパービジョン・実習報告を総合して評価を行う				
【授業計画（各回の授業内容）】				
第1回	第1段階(施設介護実習 2年次 夏休み 8月から9月まで12日間(2週間))コミュニケーション関係が比較的容易な障害者施設と老人施設を実習施設とし、利用者との人間的ふれあいを通じて、利用者の需要と介護の機軸及び施設職員の一般的な役割について学習する。そのため指導者は1～4名の利用者を学生のために定めて初歩的な日常生活援助を指導する。また1週のうち1回以上をケースカンファレンスの時間にあてる。			
【教科書・参考書】				
介護実習の手引き				
【学生へのメッセージ】				
資格に関わる授業の学びを介護実習で実践していく。実習記録の提出期限を守る、遅刻をしない、健康の維持管理をする等日常生活に必要な基本的マナーを身につけてほしい。				
【オフィスアワー】				
火曜日 14:00から17:00、水曜日 14:30から15:30				
【実務経験】				
介護実習 に向けて、模擬授業を行い社会人として必要な知識を学ぶ。				

対象年度	学科・科目		分野	
令和2年度	福祉学専攻 資格取得科目		介護福祉士国家試験受験資格取得課程	
講義名	[05439] 介護実習 【平成30年度生まで】			
期 間	後期（1回）	単 位 数	必修（4）	種 類 実習
対象学年	--	2年	3年	--
担当者	建守 善之	タテモリ ヨシユキ		tatemori yoshiyuki
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】				
介護実習 とはどのような学問なのか、「介護実習」をテーマに介護実習 の流れ、実習内容などの基礎知識と支援技術を取得する。				
【授業修了時の達成課題（到達目標）】				
1 老人や障害（児）者の特性と生活の実際を知り、生涯のレベルに応じた適切な介護技術を学ぶ。2 施設の環境を環境を知り、利用者と積極的に交流を図り、施設生活の実際と利用者の特性を知る。3 施設利用者の生活全般について理解し、さまざまな状況に対応できるよう福祉用具の活用迫を高め、介護技術を深める。4 介護職員の一日の業務の流れと他職種との連携を理解する。5 反省会等を通して、介護者のあり方を理解し、自己の学習課題を明確にする。				
【授業方法（フィードバックの内容）】				
[授業全体の内容の概要] 指定老人福祉施設、介護老人保健施設等で実習を行う。なお3年次には居宅介護実習（5日間）を行う。[授業修了時の達成課題（到達目標）] 実習を通して、1 施設の特徴を理解する 2 介護職員と他職種との関わりを知る 3 利用者とのコミュニケーションを図る 4 感染病を理解する 5 利用者に適した介護方法を選択し、適切な介助を実践する 6 介護関係の記録と報告の実際を理解する 7 ケアプランを立てる 8 利用者の自立への過程を理解する 9 社会資源の活用 10 利用者との関係を理解する 11 集団生活を理解する 12 今後の課題を明確化する。				
【授業外学習の方法（時間数）】				
事前学習 120分 実習に必要な知識、技術を学ぶ。事後学習 120分 実習で学んだに必要な知識、技術を復習する。				
【成績評価（方法・基準）】				
自己評価・実習記録・実習指導者評価と実習後スーパービジョン・実習報告を総合して評価を行う。				
【授業計画（各回の授業内容）】				
第1回	<p>第2段階(施設介護実習 2年次 春休み2月から3月まで 18日間 (3週間)) 重度生活障害を有する障害者または老人の施設を実習施設とし、障害レベルに応じて求められる介護技術の適正な用い方について学習する。また、医療・看護との関連で、独自の判断で行ってはならない仕事と連携の方法についても学習する。指導者の指導方針は、第1段階に準ずるが、より多くのケースカンファレンス時間を準備し、利用者の介護需要に対応した水準の向上に留意する。(訪問介護実習3年次 6～7月 5日間 (1週間) 老人居宅介護等事業の訪問介護員、入浴サービス及び在宅介護支援センター(訪問)の介護職員との同行訪問を行う。(1) 実習の時期は、施設実習の第2段階終了後を嵐開している。</p> <p>(2) 設実習とは異なる訪問介護の特性を学習する。(生活形態、家族との関係、自立支援、家族への援助、保健医療との連携など。)</p> <p>(3) 別の介護過程の展開についても学習する。(4) 居宅サービスを調整するための保健医療福祉関係者の集まる会議へ参加する</p>			
【教科書・参考書】				
実習の手引き				
【学生へのメッセージ】				
実習 は担当利用者を決め、介護過程の展開を指定の記録用紙に（アセスメント・計画の立案・実施・評価）書いて、利用者の「生き驕vことの全体像を捉えていく。				
【オフィスアワー】				
火曜日 14：00から17：00、水曜日 14：30から15：30				
【実務経験】				
介護実習 に向けて、模擬授業を行い社会人として必要な知識を学ぶ。				

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	福祉学専攻 資格取得科目				保育士資格取得課程		
講義名	[05503] 小児体育						
期 間	前期（15回）		単 位 数	必修（1）		種 類	演習
対象学年	1年	2年	--	--			
担当者	若杉 純子		ワカスギ ジュンコ		wakasugi jyunko		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
幼児期の心身の発達やそれを促すための運動遊び、身体活動について解説し、実技を通して、学生の皆さんが楽しい運動遊びを実践していけるような体づくりや幅広い運動経験ができるような授業を行います。							
【授業修了時の達成課題（到達目標）】							
幼児期に楽しく体を動かすことは、子どもの心身の健全な発達に欠かせないことである。幼児期の身体活動の意義と大切さについて学ぶとともに、幼児の身体活動を楽しく豊かにしていくための方法を学ぶ。また、保育士となる学生自らも基礎体力や基本的な運動技能を身につけるとともに、運動に親しみ、健康的な生活をつくりだしていけるような素養を身に付ける。							
【授業方法（フィードバックの内容）】							
講義と体育実技を交えて行う。保育士自らが子どもと同じように遊んだり走ったりして運動を楽しめるよう、さまざまな種類の運動を取り入れていく。また体育館の室内だけではなく、学外へ出かけ、自然の中など野外での活動やプールでの演習も行う。							
【授業外学修の方法（時間数）】							
積極的に体を動かし、運動に親しむ。授業前には前回の授業内容を復習し、また反復練習によって技能が向上していくように努力する。授業後には、授業内容の記録とふりかえりをノートに記述する。事前・事後学習は120分以上行う。							
【成績評価（方法・基準）】							
授業への取り組み姿勢（40%） 実技テスト（30%） ノート・レポート（30%）							
【授業計画（各回の授業内容）】							
第1回	幼児の身体と運動能力の特性について						
第2回	日常保育における運動保育（体操・身体表現）						
第3回	日常保育における運動保育（ゲームあそび）						
第4回	日常保育における運動保育（伝承あそび）						
第5回	日常保育における運動保育（なわとびあそび）						
第6回	日常保育における運動保育（マット・とびばこあそび）						
第7回	日常保育における運動保育（ボールあそび）						
第8回	日常保育における運動保育（かけっこあそび）						
第9回	日常保育における運動保育（野外での活動）						
第10回	日常保育における運動保育（野外での活動）						
第11回	水遊びの指導と演習その1						
第12回	水遊びの指導と演習その2						
第13回	水遊びの指導と演習その3						
第14回	水遊びの指導と演習その4						
第15回	まとめ						
【教科書・参考書】							
参考書 「幼児のこころと運動」近藤充夫（教育出版） その他は授業の中で紹介していきます。							
【学生へのメッセージ】							
子どもたちのより良い発達を願い、喜びを共にすることを念頭に置き、自分自身が楽しみ、表現し、意欲と笑顔にあふれる取り組みであってほしい。							
【オフィスアワー】							
火曜日 授業の前後に体育館または教室にて受け付けます。							
【実務経験】							
小学校教諭10年、幼稚園教諭10年 子どもの育ちに必要のことを考え、実践していけるような講義を行いたいと思います。							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	福祉学専攻 資格取得科目				保育士資格取得課程		
講義名	[05504] 小児体育						
期 間	後期（15回）		単位数	必修（1）		種 類	演習
対象学年	1年	2年	--	--			
担当者	若杉 純子		ワカスギ ジュンコ		wakasugi jyunko		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
小児体育 の内容をふまえて、さらに幅広く、実践的な運動あそび、身体活動について講義と実技を行っていきます。							
【授業修了時の達成課題（到達目標）】							
小児体育 の内容をふまえて、幼児の身体活動をより楽しく豊かにしていく方法を自ら創意工夫して考え出し、運動保育のあり方や指導法について学び、実践していくことができるようにする。							
【授業方法（フィードバックの内容）】							
講義と演習を交えて行う。運動遊びを考え、指導者として指導したり、指導を受けたりする模擬保育を多く取り入れていく。 同じように学外、野外での活動も行う。							
【授業外学修の方法（時間数）】							
模擬実践授業が主になるので、授業者は事前準備を入念に行った上で、授業を行う。授業を受ける者も積極的に参加し、実践授業についての感想や意見を述べて、よりよい授業にするにはどのようにしたらよいかを討議する。 授業後は授業内容を記録し、ふりかえりをしっかり行い、ノートに記述する。それを生かして次の授業に臨むこと。 事前・事後学習はそれぞれ120分以上行う。							
【成績評価（方法・基準）】							
授業への取り組み姿勢（40%） 模擬授業内容（30%） ノート・レポート（30%）							
【授業計画（各回の授業内容）】							
第1回	運動保育の指導実践にあたってその1 指導計画を立てる						
第2回	運動保育の指導実践にあたってその2 指導計画の実施とふりかえり						
第3回	運動保育の実践その1（模擬保育）						
第4回	運動保育の実践その2						
第5回	運動保育の実践その3						
第6回	運動保育の実践その4						
第7回	運動保育の実践その5						
第8回	運動保育の実践その6						
第9回	運動会における取り組みその1						
第10回	運動会における取り組みその2						
第11回	運動会における取り組みその3						
第12回	幼児期の野外活動その1						
第13回	幼児期の野外活動その2						
第14回	幼児期の野外活動その3						
第15回	まとめ						
【教科書・参考書】							
授業の中で紹介していく。							
【学生へのメッセージ】							
現場に出てすぐに指導できるような実践力を身につけるため、子どもを目の前にして指導しているような意識を持ち、工夫した実践を行うことを望む。							
【オフィスアワー】							
火曜日 授業の前後に体育館または教室にて受け付けます。							
【実務経験】							
小学校教諭10年、幼稚園教諭10年 子どもの育ちに必要のことを考え、実践していけるような講義を行いたいと思います。							

対象年度	学科・科目		分野	
令和2年度	福祉学専攻 資格取得科目		保育士資格取得課程	
講義名	[05533] 社会的養護内容【平成30年度生まで】			
期 間	後期（15回）	単 位 数	必修（1）	種 類
対象学年	--	2年	--	--
担当者	小田切 則雄	オtagiri ノリオ		otagiri norio
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】				
施設に居住する児童の処遇は、一般家庭の児童に劣らないような援助を目指す。児童養護の援助は、保育士や指導員の中心的役割遂行によって進められていく。養護内容は養護原理で学習したことを、具体的にどのように展開するかを明らかにするものである。				
【授業修了時の達成課題（到達目標）】				
児童福祉施設における養護・援助プログラム、処遇の実際を児童の立場に立って理解することを試みる。その上で養護児童の心身の成長や発達を援助するために必要な知識や技術を習得、職員と児童の関わり方、福祉職員の専門性について学ぶ。				
【授業方法（フィードバックの内容）】				
教科書に沿って進めます。				
【授業外学修の方法（時間数）】				
受講前に前回受講時の内容を必ず復習すること、受講後は内容の習得が得られるよう反復すること。事前事後学習時間についてはそれぞれ90分を目安とする。				
【成績評価（方法・基準）】				
授業態度(25%)、試験結果(75%)などを総合的に評価する。受講前に前回受講時の内容を必ず復習すること、受講後は内容の習得が得られるよう反復すること。				
【授業計画（各回の授業内容）】				
第1回	養護に関する基本的理解 親権の基本的理解			
第2回	児童養護における歴史的理解・家庭的養護と社会的養護の基本的枠組			
第3回	自立という言葉の意味・自立支援に関する歴史的理解			
第4回	児童福祉施設で生活すること			
第5回	児童福祉施設の目的と機能の理解			
第6回	実習で学生は何を学ぶか 一時保護所：居場所がほしい			
第7回	乳児院：新しい出会いのために			
第8回	児童養護施設：出会いと戸惑い			
第9回	児童自立支援施設・母子生活支援施設			
第10回	知的障害児施設・肢体不自由児施設			
第11回	地域におけるそだち：児童館、グループホーム、児童家庭支援センター			
第12回	地域におけるそだち：地域子育て支援センター、自立援助ホーム			
第13回	児童福祉援助者論 援助者の種類・役割と倫理			
第14回	児童福祉援助者論 援助者とエンパワメント			
第15回	まとめ			
【教科書・参考書】				
『よくわかる養護内容・自立支援』ミネルヴァ書房 2007年				
【学生へのメッセージ】				
授業はビデオ等を用いてできるだけ具体的に進める嵐開があるが、学生も積極的に参加し意欲的な学習態度を期待する。				
【オフィスアワー】				
質問などは講義時間の前後で受け付ける。				
【実務経験】				
なし				

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	福祉学専攻 資格取得科目		保育士資格取得課程		
講義名	[05534] 図画工作				
期 間	前期（15回）	単 位 数	必修（1）	種 類	演習
対象学年	--	2 年	--	--	
担当者	若杉 純子	ワカスギ ジュンコ	wakasugi jyunko		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
<p>絵画や造形などさまざまな製作における種類やその手法、表現のあり方について、学生と皆さんとともに学び、考え、表現する楽しさを味わっていただけるような授業にしたいと思います。</p>					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
<p>自らが絵画造形に親しみ、知識を身につけ、技能を向上させていくことによって、子どもとともに楽しんで活動できるような資質を養う。</p>					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
<p>図画工作に関するさまざまな技法を講義と実技を通して学べるようにしていきます。学外へ出かけて実習することもあります。</p>					
【授業外学修の方法（時間数）】					
<p>あらかじめ指示された課題を行っておく。また授業で使用するための必要な物を準備する。 ノート、作品を整理する。授業時間内で目標段階まで仕上がらなかったものは、次の授業までにはできているようにする。以上のことを含め、事前事後学習を120分以上行うこと。</p>					
【成績評価（方法・基準）】					
<p>授業への取り組み姿勢（30%） 作品内容（40%） ノート・レポート（30%）</p>					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	子どもの発達と生活、図画工作の関係について				
第2回	絵画造形に関するさまざまな技法その1				
第3回	絵画造形に関するさまざまな技法その2				
第4回	絵画造形に関するさまざまな技法その3				
第5回	絵画造形に関するさまざまな技法その4				
第6回	絵画造形に関するさまざまな技法その5				
第7回	手作りおもちゃその1				
第8回	手作りおもちゃその2				
第9回	手作りおもちゃその3				
第10回	手作りおもちゃその4				
第11回	自然物を使った造形遊びその1				
第12回	自然物を使った造形遊びその2				
第13回	自然物を使った造形遊びその3				
第14回	自然物を使った造形遊びその4				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
<p>授業の中で紹介します。</p>					
【学生へのメッセージ】					
<p>実技講習なので、授業に必要な道具、材料をしっかり用意すること。 創意工夫をもって楽しんで作品作りに取り組むこと。</p>					
【オフィスアワー】					
<p>火曜日 授業の前後、教室にて受け付けます。</p>					
【実務経験】					
<p>小学校教諭10年、幼稚園教諭10年。子どもたちの感性が豊かに育っていくような図画工作の授業を一緒に考えたいと思います。</p>					

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	福祉学専攻 資格取得科目				保育士資格取得課程		
講義名	[05535] 保育内容 健康						
期 間	前期（15回）		単 位 数	必修（1）		種 類	演習
対象学年	--	2年	--	--			
担当者	若杉 純子		ワカスギ ジュンコ		wakasugi jyunko		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
子どもの心身の健全な発達に必要なこと、また自分や家族、友人、さらに社会にとっての「健康」ということについて考えられるような授業にしていきたいと思えます。							
【授業修了時の達成課題（到達目標）】							
子どもが心身ともに健康で調和のとれた生活を営むために、保育者にとって必要な基礎的知識や理論を学び、現代的課題にも対応していけるような資質を身につける。							
【授業方法（フィードバックの内容）】							
講義と演習を交えながら行う。講義は、子どもたちの健康に関する現状と課題について、調べて発表したり、討議したりする。子どもと保育者の心身の健康を考え、学ぶための校外での学習も予定している。							
【授業外学修の方法（時間数）】							
授業前には、子どもの健康問題に関する新聞記事や雑誌記事などから情報収集をする。 授業後には、授業で学んだことを振り返りながら、内容を整理し、さらに情報収集を行い、授業で発表したり皆で検討したりできるようにする。事前・事後学習は、120分以上行う。							
【成績評価（方法・基準）】							
授業への取り組み姿勢（30%） ミニレポート（30%） 個人研究発表（40%）							
【授業計画（各回の授業内容）】							
第1回	授業概要提示 健康とは？						
第2回	子どもについて考えるその1 子どもを取り巻く現代的課題						
第3回	子どもについて考えるその2 子どもの発育・発達						
第4回	子どもについて考えるその3 子どもの遊び						
第5回	子どもについて考えるその4 子どもの生活と健康						
第6回	子どもについて考えるその5 子どもの生活と健康						
第7回	子どもについて調べるその1 各自のテーマを決める						
第8回	子どもについて調べるその2 各自のテーマに沿った学習						
第9回	子どもについて調べるその3 各自のテーマに沿った学習						
第10回	子どもについて調べるその4 各自のテーマに沿った学習						
第11回	子どもの活動に参加するその1						
第12回	子どもの活動に参加するその2						
第13回	子どもの活動に参加するその3						
第14回	研究発表その1						
第15回	研究発表その2						
【教科書・参考書】							
参考書 「からだの”おかしさ”を科学する」野井真吾（かもがわ出版）2013年							
【学生へのメッセージ】							
子どもの健康について関心を持ち、子どもを取り巻くさまざまな課題に対して主体的に考え、取り組んでいく姿勢を持ってほしい。また保育者となる自らの健康についても捉え直す機会にしてほしい。							
【オフィスアワー】							
火曜日 授業の前後、教室にて受け付けます。							
【実務経験】							
小学校教諭10年、幼稚園教諭10年 子どもの育ちに必要なことを考え、実践していけるような講義を行いたいと思えます。							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	福祉学専攻 資格取得科目				保育士資格取得課程		
講義名	[05536] 保育内容 総論						
期 間	後期（15回）		単位数	必修（1）		種 類	演習
対象学年	--	2年	--	--			
担当者	手塚 知子		テヅカ トモコ		tezuka tomoko		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
保育内容の5領域を踏まえ、保育現場での子どもの姿や保育者のかかわりについて具体的に概説をする。特に保育所保育指針から保育者の役割について検討をする。また保育実践をイメージできるよう、映像資料等を用いながら子どもの成長と保育の多様な展開について説明する。							
【授業修了時の達成課題（到達目標）】							
この授業では、保育行政の最新の動向を紹介し、保育現場で行われている保育内容各領域とそれら相互の関連性を理解することを目的としている。この授業を受講することで、保育内容の歴史の変遷を踏まえたうえで、保育の全体的な構造や、養護と教育が一体的に展開することを具体的な保育実践につなげて理解することができる。また、保育の多様な展開について具体的に知るとともに、子どもや子ども集団の発達の特長や発達過程を踏まえた観察や記録の観点を習得し、保育内容と子ども理解とのかかわりについて学ぶことができる。							
【授業方法（フィードバックの内容）】							
この授業では、教科書をもとに基本的な用語についての解説ののち、受講生が毎回演習課題に取り組むことで、内容理解を深めていく。また、話し合いの時間もとり、必要に応じてグループワークも取り入れる予定である。							
【授業外学修の方法（時間数）】							
毎回それぞれ60分以上の事前・事後の学修を行うこと。事前学習では、教科書を読み、内容や用語について予習を行うこと。事後学習では、毎回課題を課すため、学んだことを整理し、必ず課題を行ってこること。							
【成績評価（方法・基準）】							
授業内容確認テスト（50％）、授業への取り組み（30％）、課題への取り組み（20％）により総合的に評価する。							
【授業計画（各回の授業内容）】							
第1回	保育所保育指針に基づく保育の基本および保育内容の理解						
第2回	保育の全体構造と保育内容						
第3回	保育内容の歴史の変遷						
第4回	子どもの発達の特長と保育内容						
第5回	個と集団の発達と保育内容						
第6回	保育における観察と記録						
第7回	養護と教育が一体的に展開する保育						
第8回	環境を通して行う保育						
第9回	遊びによる総合的な保育						
第10回	生活や発達の連続性に考慮した保育						
第11回	家庭、地域、小学校等との連携をふまえた保育						
第12回	乳児保育および長時間の保育						
第13回	特別な支援を必要とする子どもの保育						
第14回	多文化共生の保育						
第15回	総括：授業全体の振り返り						
【教科書・参考書】							
教科書：『保育内容総論』石川昭義・松川恵子編（中央法規）2015年、参考書：『保育内容総論』新保育士養成講座編纂委員会（全国社会福祉協議会）2015年、そのほか、適宜授業中に紹介する。							
【学生へのメッセージ】							
「保育所保育指針」は必ず毎回持ってきてください。指針をただ読んでいただけでは、各領域の内容とそれら相互の関連性については理解できません。受講生には、主体的に演習をすすめる姿勢を望みます。							
【オフィスアワー】							
火曜日：11：55～12：25、木曜日：11：55～12：25							
【実務経験】							
峡南地域就学相談員・山梨県立こころの発達総合支援センター臨時職員・障害児支援児童発達施設非常勤職員							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	福祉学専攻 資格取得科目				保育士資格取得課程		
講義名	[05537] 保育内容 表現						
期 間	後期（15回）		単 位 数	必修（1）		種 類	演習
対象学年	--	2年	--	--			
担当者	伊東 久実		イトウ クミ		ito kumi		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
領域「表現」のねらいと内容を、実際に身体を動かしながら理解を促す授業を行います。							
【授業修了時の達成課題（到達目標）】							
子どもたちの創造性や表現意欲を養い、感性豊かな成長へ導くための援助、指導の方法を学ぶ。また、学生自ら表現することの楽しさを味わうことを目標とする。							
【授業方法（フィードバックの内容）】							
保育実践例を具体的に示しながら、保育における表現活動の援助・指導について考える。さらに学生自身が実際に全身を使い、表現活動を試みる。予習：授業終了時に次回の予習について指示をします。テキストや参考資料等を読んでください。復習：授業で扱った箇所についてテキストや配布物を中心に行ってください。							
【授業外学修の方法（時間数）】							
保育実践例を具体的に示しながら、保育における表現活動の援助・指導について考えます。また、学生自身が実際に全身を使い、表現活動を試みます。さらに、学外において表現活動の実演から学ぶことも行います。							
【成績評価（方法・基準）】							
評価：レポート30%、平常点(学生自身の表現や制作活動に対する取り組みの意欲)70%							
【授業計画（各回の授業内容）】							
第1回	領域としての「表現」をどう捉えるか						
第2回	心の表しであるシグナル表現の理解						
第3回	保育実践記録から学ぶ表現活動 - 実践記録「ヤギと過ごした1年間」 -						
第4回	生活の営みに直結した多様な表現活動を考える						
第5回	同上						
第6回	造形的表現活動の援助・指導について学ぶ(1) - 身近な素材と造形活動 -						
第7回	同上						
第8回	音楽的表現活動の援助・指導について学ぶ(1) - 子どもの育ちとわらべうた -						
第9回	同上 (2) - リズムあそび -						
第10回	身体的表現活動の援助・指導について学ぶ(1) - 劇あそび・役になりきって動きの工夫をする -						
第11回	同上 (2) - 発表 -						
第12回	指導の計画について						
第13回	指導計画案の作成						
第14回	自己表現力の向上に挑戦する - 保育者自身の表現を高めるとは -						
第15回	まとめ						
【教科書・参考書】							
参考書：花原幹夫編著『保育内容 表現(新保育ライブラリ 保育の内容・方法を知る)』北大路書房 2009年、その他、授業時間内に適宜紹介する。							
【学生へのメッセージ】							
制作や身体を使った表現活動、および討議に積極的に臨んで欲しい。							
【オフィスアワー】							
火曜日10:30～12:00と金曜日15:30～17:00(大学事務室を通じて予約してください)							
【実務経験】							
私立幼稚園教諭、国立大学附属幼稚園教諭。保育者経験を生かして、保育の現場での表現活動について実践に生かせる技術や指導方法を伝えます。							

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	福祉学専攻 資格取得科目		保育士資格取得課程		
講義名	[05538] 音楽				
期 間	前期（15回）	単 位 数	必修（1）	種 類	演習
対象学年	--	2年	--	--	
担当者	富山 美由紀		トミヤマ ミユキ	tomiyama miyuki	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
更なる演奏技術向上と、実践に即した即興的な伴奏付けの知識、技術の習得。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
主に就職活動や面接時に試験曲として使える演奏曲の習得。現場で即使えるレパートリーの習得。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
実技演習を軸に、随時音楽理論の復習としての講義。ピアノ・歌唱の実技試験と、期末には生徒自身のプログラムによる模擬保育実習を行う。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
この授業では、毎回それぞれ90分以上の事前・事後の学習を行うこと。					
【成績評価（方法・基準）】					
学期末試験（筆記、実技）50%、授業への取り組み姿勢（自宅学習の課題含む）30%、小テスト20%。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	ピアノ演奏実技演習（随時演奏会形式による実技試験）				
第2回	ピアノ演奏実技演習（随時演奏会形式による実技試験）				
第3回	ピアノ演奏実技演習（随時演奏会形式による実技試験）				
第4回	ピアノ演奏実技演習（随時演奏会形式による実技試験）				
第5回	ピアノ演奏実技演習（随時演奏会形式による実技試験）				
第6回	ピアノ演奏実技演習（随時演奏会形式による実技試験）				
第7回	ピアノ演奏実技演習（随時演奏会形式による実技試験）				
第8回	ピアノ演奏実技演習（随時演奏会形式による実技試験）				
第9回	ピアノ演奏実技演習（随時演奏会形式による実技試験）				
第10回	ピアノ演奏実技演習（随時演奏会形式による実技試験）				
第11回	ピアノ演奏実技演習（随時演奏会形式による実技試験）				
第12回	ピアノ演奏実技演習（随時演奏会形式による実技試験）				
第13回	ピアノ演奏実技演習（随時演奏会形式による実技試験）				
第14回	ピアノ演奏実技演習（随時演奏会形式による実技試験）				
第15回	総まとめ。公開模擬保育実技試験				
【教科書・参考書】					
チャイルド本社「こどものうた200」「続こどものうた200」（開講までに各々準備すること）その他オリジナル教材等を随時使用					
【学生へのメッセージ】					
毎日練習できるよう、開講までに鍵盤楽器（ピアノ・電子ピアノ・キーボード）を自宅に用意すること。なおキーボードはタッチレスポンス（タッチセンス）機能があり、標準鍵盤61鍵以上のものとする。					
【オフィスアワー】					
木曜日8:50～12:30					
【実務経験】					
音楽 で習得した基礎知識を軸に、より深い理解と技術の取得、譜読みの速度を上げる。					

対象年度	学科・科目	分野
令和2年度	福祉学専攻 資格取得科目	保育士資格取得課程

講義名	[05540] 保育実習指導	
-----	----------------	--

期 間	後期（15回）	単 位 数	必修（1）	種 類	演習
-----	---------	-------	-------	-----	----

対象学年	--	2年	--	--
------	----	----	----	----

担当者	手塚 知子	テヅカ トモコ	tezuka tomoko
-----	-------	---------	---------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

保育実習指導 では、施設実習派遣のため学生が修得すべき基礎知識が獲得できるよう、施設実習の意義や目的、施設保育士の役割、児童福祉について包括的に説明を行う。また保育実習指導 を踏まえ、保育実習 の機会が十分に活用できるようにすることを目指す。

【授業修了時の達成課題（到達目標）】

保育士資格取得のために必ず履修しなければならない科目である。保育実習指導 では、2年次に行われる施設実習を積極的に、かつ有益なものにするための実習指導を行う。施設実習の目的、内容、方法の理解と、実習生として必要な知識・技術を習得する。それらを通して実習課題を明確化し、実習機会を十分活用できることを目指す。実習後においては、実習の総括や自己評価をもとに、新たな課題や学習目標を明確にする。

【授業方法（フィードバックの内容）】

実習に向けた基本的な内容について教科書に沿って解説を行い、それを深めるための演習課題に取り組む。また、事例について考える機会を多く設け、ディスカッションも積極的に行う。さらに前年度学生による体験報告に学ぶ。

【授業外学修の方法（時間数）】

毎回それぞれ60分以上の事前・事後の学修を行うこと。事前学習では、教科書を読み、内容や用語について予習を行うこと。事後学習では、学んだことを整理し、必ず課題を行ってくること。

【成績評価（方法・基準）】

単に実習の準備を行うことに留まらず、保育や養護の実践面の理解もねらいとするため、それら双方の観点から出席、受講状況、レポートなど総合して評価する。（授業への取り組み70%、レポート20%、課題への取り組み10%）

【授業計画（各回の授業内容）】

第1回	施設実習の意義と目的の理解
第2回	施設保育士の役割
第3回	施設で暮らす子どもや利用者の理解
第4回	児童福祉施設の理解 乳児院
第5回	児童福祉施設の理解 児童養護施設
第6回	児童福祉施設の理解 障害児入所・通所施設
第7回	施設における養護内容
第8回	施設内の生活環境、衛生、安全管理
第9回	前年度学生による体験報告を聞く
第10回	実習目標・実習課題について考える
第11回	実習の心構えと準備 事務手続き、書類準備
第12回	実習日誌の意義と記録方法
第13回	実習指導案の作成
第14回	実習の自己評価と実習による学びのまとめ
第15回	実習体験の振り返り 次回への課題を整理する

【教科書・参考書】

教科書：『保育実習』近喰晴子ら編（中央法規）2016年、参考書：『保育実習』阿部和子ら編（ミネルヴァ書房）2014年、『幼稚園・保育所・施設実習完全ガイド 第2版: 準備から記録・計画・実践まで』太田光洋著（ミネルヴァ書房）2015年、『実習ガイドブック その理論と実際 幼稚園・保育所・認定こども園・児童福祉施設等』畠中義久・草間吉夫著（建帛社）2015年、そのほか、参考書は適宜紹介します。

【学生へのメッセージ】

積極的に自分自身の実習計画をたてるよう、実習事前学習を活用してほしい。実習事後学習においては実践から得た学びを確実に整理し、その後の授業や実践に活かしてほしい。

【オフィスアワー】

火曜日：11：55～12：25、木曜日：11：55～12：25

【実務経験】

峡南地域就学相談員・山梨県立こころの発達総合支援センター臨時職員・障害児支援児童発達施設非常勤職員

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	福祉学専攻 資格取得科目		保育士資格取得課程		
講義名	[05541] 保育実習				
期 間	後期（9回）	単 位 数	必修（2）	種 類	実習
対象学年	--	2年	--	--	
担当者	伊東 久実		イトウ クミ	ito kumi	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
保育実習 は、保育士資格取得のために必ず履修しなければならない科目である。この実習では、見学、観察実習を経て、保育に助手的な立場で参加する参加実習を行う。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
この体験を通して、保育所の機能、役割、保育者の子どもへの関わり方を学ぶと共に、専門領域のその後の学習の必要性を理解することを目標とする。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
実習は各保育所で行う。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
日々の目標の達成状況を自己評価し、翌日の課題を明確にして実習にのぞむこと。					
【成績評価（方法・基準）】					
実習園での実習評価、実習園訪問時の印象、実習記録等を勘案して評価する。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	(1) 保育所の一日の流れを理解し、保育に参加する				
第2回	(2) 実践の場での体験を通して保育所の機能や役割を学ぶ				
第3回	(3) 子どもの観察や子どもとの関わりを通して、乳幼児の発達を理解する				
第4回	(4) 保育計画、指導計画について学ぶ				
第5回	(5) 保育士の役割と、職員間のチームワークについて学ぶ				
第6回	(6) 子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ				
第7回	(7) 保育士としての倫理を具体的に学ぶ				
第8回	(8) 生活やあそびなどの一部分を担当し、保育技術を習得する				
第9回	(9) 記録やコミュニケーションなどを通して家庭・地域社会を理解する				
【教科書・参考書】					
参考書は適宜紹介します。					
【学生へのメッセージ】					
保育所における様々な交流が、保育や養護に関する理論と実践を有機的に結びつける機会となるようにして欲しい。					
【オフィスアワー】					
火曜日10:30～12:00と金曜日15:30～17:00(大学事務室を通じて予約してください)					
【実務経験】					
私立幼稚園教諭、国立大学附属幼稚園教諭。保育者経験を生かして、部分実習の立案や模擬実習を行います。					

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	福祉学専攻 資格取得科目		保育士資格取得課程		
講義名	[05542] 保育実習				
期 間	前期（9回）	単 位 数	必修（2）	種 類	実習
対象学年	--	2年	--	--	
担当者	手塚 知子		テヅカ トモコ		tezuka tomoko
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
実習を通して施設の概要、施設保育士の役割、利用者の実態把握をする。実践の現場から体験的理解を図る。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
児童福祉施設（保育所を除く）で行う保育実習は、保育士資格取得のために必ず履修しなければならない科目である。施設利用者との人間的交流を通じて、その生活の理解、施設職員の役割、保育士としての職務のあり方、および、それぞれのレベルに応じて求められる援助技術の適正な用い方を、実践の場で体験を通して学ぶことを目標とする。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
実習は各施設で行います。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
実習先に行く前に、その日の目標や課題を見直しておくこと。また、一日の実習終了後には、実習記録の作成と合わせて自己評価を行い、反省点や課題についてまとめてから、次の日の実習に臨むようにすること。					
【成績評価（方法・基準）】					
実習園での実習評価、実習園訪問時の印象、実習記録等を勘案して評価する。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	(1) 実習施設の機能や役割を理解する				
第2回	(2) 一日の流れを理解し、参加しながら保育者の役割や技術、態度について学ぶ				
第3回	(3) 観察や、関わりを通して利用者のニーズを理解する				
第4回	(4) 援助計画を理解し、援助方法や養護技術について学ぶ				
第5回	(5) 職員の役割分担とチームワークについて学ぶ				
第6回	(6) 施設利用者の最善の利益についての配慮を理解する				
第7回	(7) 保育士としての職業倫理を理解する				
第8回	(8) 安全及び疾病予防への配慮について理解する				
第9回	(9) 生活や援助などの一部を担当し、養護技術を習得する				
【教科書・参考書】					
教科書は、開講時に指示します。参考書は適宜紹介します。					
【学生へのメッセージ】					
保育に関する理論と実践を有機的に関連づける機会となり得るよう、積極的、自発的な姿勢で実習に臨んで欲しい。					
【オフィスアワー】					
火曜日：11：55～12：25、木曜日：11：55～12：25					
【実務経験】					
峡南地域就学相談員・山梨県立こころの発達総合支援センター臨時職員・障害児支援児童発達施設非常勤職員					

対象年度	学科・科目			分野
令和2年度	福祉学専攻 資格取得科目			保育士資格取得課程
講義名	[05543] 保育実習指導			
期 間	前期（15回）	単 位 数	選択（1）	種 類 演習
対象学年	--	2年	3年	--
担当者	高橋 賢充	タカハシ マサミツ	takahashi masamitsu	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】				
小グループによる実習事前指導及び事後指導を行う。また、実習中は週1回の巡回指導を行う。総括として、実習報告書を作成するとともに、実習報告会で報告し質疑応答を行う。				
【授業修了時の達成課題（到達目標）】				
相談援助実習の意義について理解する。相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に対応できる能力を習得する。具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。				
【授業方法（フィードバックの内容）】				
テキストを中心に講義・演習形式で授業を行う。授業中に毎回、いくつか課題を提示し、グループで議論したり、個人で考えてまとめていく。授業終了後はリアクションペーパーに授業のまとめ、感想等を記述する。				
【授業外学修の方法（時間数）】				
事前課題～毎回の授業で出される課題を行う（120分～）。 事後課題～授業の要点をリアクションペーパーにまとめて提出する（120分～）。				
【成績評価（方法・基準）】				
出席8割以上で成績評価を可能とする。 レポート50% リアクションペーパー・面接技術評価・アセスメント50%の配分で評価を行う。				
【授業計画（各回の授業内容）】				
第1回	実習の目的と意義			
第2回	介護・保育実習の振り返り			
第3回	実習施設研究			
第4回	実習施設研究			
第5回	実習施設研究発表会			
第6回	実習計画書の意義			
第7回	実習計画書の作成			
第8回	実習記録の書き方			
第9回	実習記録の書き方			
第10回	社会福祉援助技術の実際（視聴覚学習を含む）			
第11回	社会福祉援助技術の実際（社会福祉士実践者との意見交換）			
第12回	実習スーパービジョン			
第13回	実習における個人情報の保護			
第14回	実習直前ガイダンス			
第15回	全体総括			
【教科書・参考書】				
『社会福祉士 相談援助実習（第2版）』監修一般社団法人日本社会福祉士養成校協会（中央法規出版）2015年				
【学生へのメッセージ】				
欠席回数がそれぞれ累計3回を超える場合、配属済みでも実習は中止となる。また、遅刻は一切認めない。従って、始業時間に遅れて教室に入った者（口頭での出席確認終了以降）は、その日の受講を認めない。さらに日頃から出来る限りボランティア活動に参加するよう心掛けること。5月連休中にはフィールドワーク（市町村の制度やサービス調査や福祉計画の分析など）を課す予定である。本科目のみを履修するとはできず、「相談援助実習」が不可の場合、本科目も不可となる。				
【オフィスアワー】				
火曜日 1限目と水曜日 2限目				
【実務経験】				
社会福祉士、社会福祉協議会・老人福祉センター等福祉行政機関等での相談援助の実務				

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	福祉学専攻 資格取得科目		保育士資格取得課程		
講義名	[05545] 保育実習指導				
期 間	後期（15回）	単 位 数	必修（1）	種 類	演習
対象学年	--	2年	--	--	
担当者	伊東 久実		イトウ クミ	ito kumi	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
保育士の資格を取得するための必修科目である。保育実習指導 では、2年次に行われる保育所での実習を積極的に、かつ有益なものにするための実習指導を行う。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
保育実習の目的、内容、方法の理解と、実習生として必要な知識・技術を習得する。それらをとおして実習課題を明確化し、実習機会を十分活用できることを目指す。実習後においては、実習の総括や自己評価をもとに、新たな課題や学習目標を明確にできる。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
テキストによる学習と視聴覚教材や実践例等を豊富に扱う。さらに現職保育者のアドバイスを聞いたり、前年度学生による体験報告に学ぶ。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
この授業では、毎回60分以上の事前・事後の学習を行うこと。事前の学習では、テキストの指定された箇所を解き、疑問点等を明確にしておくこと。事後の学習では、ノートや配布資料を整理して授業内容の理解に努めること。					
【成績評価（方法・基準）】					
評価：単に実習の準備を行うことに留まらず、保育や養護の実践面の理解もねらいとするため、それら双方の観点から受講状況、レポートなど総合して評価する。（受講状況70%、レポート30%）					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	保育実習 の意義と目的の理解				
第2回	保育実習 の方法の理解と心構えについて				
第3回	保育所の社会的役割				
第4回	保育所保育の実際 - 子どもの生活と保育 -				
第5回	保育方法の基本理念				
第6回	現職保育者のアドバイスや前年度学生による体験報告を聞く				
第7回	実習の進め方 - 事務手続き、書類準備 -				
第8回	実習日誌の意義と記録方法(1)				
第9回	実習日誌の意義と記録方法(2)				
第10回	保育実技の研究(1)				
第11回	保育実技の研究(2)				
第12回	部分実習を想定し、指導案を立てる				
第13回	実習中における巡回指導				
第14回	実習の振り返りと自己評価				
第15回	実習体験の反省会 - 次回への課題を整理する -				
【教科書・参考書】					
テキスト：『保育実習』第2版 阿部和子・増田まゆみ・小櫃智子編著 ミネルヴァ書房 2014年。『幼稚園・保育所実習 実習日誌の書き方』相馬和子・中田カヨ子編 萌文書林 2004年。『保育所保育指針』 フレーベル館 2017年。					
【学生へのメッセージ】					
積極的に自分自身の実習計画をたてるよう、実習事前学習を活用して欲しい。実習事後学習においては実践から得た学びを確実に整理し、その後の授業に生かして欲しい。					
【オフィスアワー】					
火曜日10:30～12:00と金曜日15:30～17:00(大学事務室を通じて予約してください)					
【実務経験】					
私立幼稚園教諭、国立大学附属幼稚園教諭。保育者経験を生かして、実習の意義や目的、方法を実践的に伝えます。					

対象年度	学科・科目		分野	
令和2年度	福祉学専攻 資格取得科目		保育士資格取得課程	
講義名	[05589] 子育て支援【平成31年度生より】			
期 間	前期（15回）	単 位 数	必修（1）	種 類
対象学年	1年	2年	--	--
担当者	伊東 久実	イトウ クミ	ito kumi	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】				
保育士の専門性を生かした保護者支援について、実践事例を通して理解を深めます。				
【授業修了時の達成課題（到達目標）】				
保育士の専門性を生かした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解することができます。また、保育士の行う子育て支援の内容と方法及び技術を地域の児童館や保育者において実践事例等を通して具体的に理解することができます。				
【授業方法（フィードバックの内容）】				
学内での学修による理解を深めるために、地域の児童館や保育所等で実地に学ぶことを積極的に行います。また、実地での活動後のフィードバックを大切にします。				
【授業外学修の方法（時間数）】				
この授業では、毎回それぞれ60分以上の事前・事後の学習を行うこと。事前の学習では、テキストの指定された箇所を熟読し、疑問点等を明確にしておくこと。事後の学習では、ノート(実習ノートも含む)や配布資料を整理して授業内容の理解に努めるとともに、実地での活動後は振り返りシートを基に次回の課題を明確にすること。				
【成績評価（方法・基準）】				
授業への取り組み姿勢(50%)、学力確認テスト(50%)により総合評価します。				
【授業計画（各回の授業内容）】				
第1回	子どもの保育とともに行う保護者の支援			
第2回	保護者との相互理解と信頼関係の形成			
第3回	保護者や家庭のかかえる支援のニーズへの気づきと多面的な理解			
第4回	支援の計画と環境の構成(その1)			
第5回	支援の計画と環境の構成(その2)			
第6回	身延児童館での子育て支援活動			
第7回	支援の実践・記録・評価・カンファレンス			
第8回	社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働			
第9回	保育所等における支援			
第10回	地域の子育て家庭に対する支援			
第11回	障害のある子ども及びその家庭に対する支援			
第12回	特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援			
第13回	子どもの虐待の予防と対応(その1)			
第14回	子どもの虐待の予防と対応(その1)			
第15回	まとめ			
【教科書・参考書】				
教科書：『子育て支援』西村重稀、青井夕貴編(中央法規)2019年。 参考書：授業時間内に適宜紹介します。				
【学生へのメッセージ】				
子どもの最善の利益を守るための子育て支援のあり方について、積極的に学ぶことを希望します。実地での活動は、時間割を調整して、別の日時に実施することもあるので注意すること。				
【オフィスアワー】				
火曜日10:30～12:00と金曜日15:30～17:00(大学事務室を通じて予約してください)				
【実務経験】				
私立幼稚園教諭、国立大学附属幼稚園教諭。保育者経験を生かして、保護者支援の具体的方法が理解できる授業にします。				